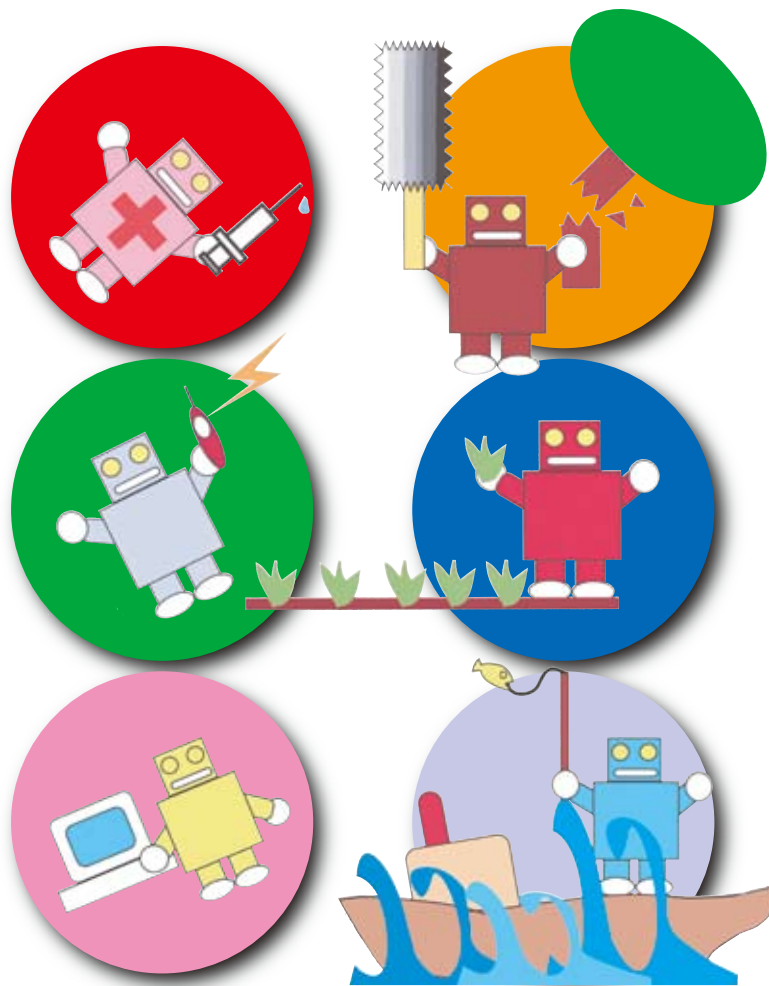


東京の産業教育

特集 魅力ある産業教育を目指して
—各校・各学科の取り組み—



平成23年度 49号
東京都産業教育振興会

「未来」と「世界」をみすえる、カナック企画です。

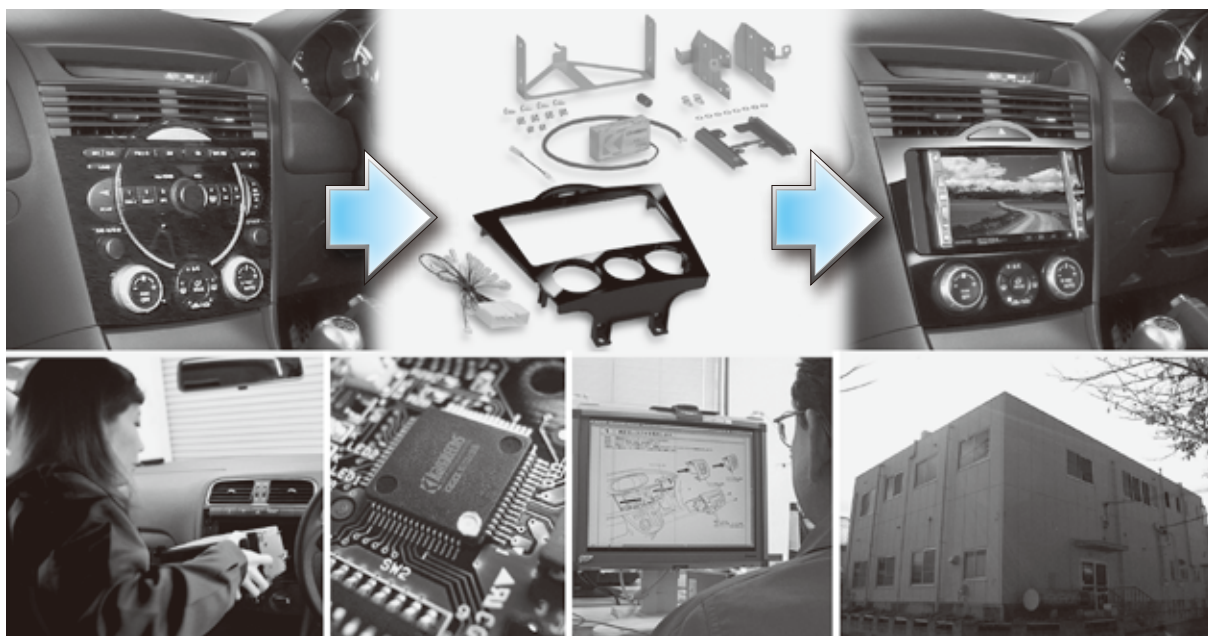
「ものづくり」と「おもてなし」の調和・・・

良い仕事をすればお客様が喜びます。
お客様が喜ばば利益が生み出せます。
利益を生み出せば社会に貢献できます。
社会に貢献できれば会社が繁栄します。
会社が繁栄すれば社員が成長できます。
社員が成長すれば生活が豊かになります。

・・・だから、私たちは良い仕事をします。

カーA V 取付キット

「カーA V 取付キット」とは、車種ごとに違う様々な内装形状に対応した、市販のカーオーディオやカーナビゲーション等のカーA V 機器を取り付けるためのキットです。



1974年、日本で初めて市販カーラジオ用取付キットを開発し以来累計1,000万台以上の取付キットを生産してまいりました。現在では400機種以上の製品をラインナップし、500車種以上の車に対応しています。今も、そしてこれからも取付キット業界において日本のトップメーカーであり続け、世界市場にその視線を向けて行きます。

社会貢献活動

社会貢献活動の一環として毎年地域中学校、高等学校の実習受け入れを行い、次世代技術者の育成に力を注いでいます。インターンシップをご希望の学校がございましたらお問い合わせください。



※写真は2011年10月に職場体験実習を行った金町中学校の皆さんです。



東京の産業教育 第49号 目次

巻頭のこゝば

「真に自立した社会人を育成するために」

東京都産業教育振興会常務理事（東京都教育庁都立学校教育部長） 直 原 裕・・・1

特集 魅力ある産業教育を目指して

ー各校・各学科の取り組みー

- 1 魅力ある産業教育を目指して ～専門学科家庭科における取り組み～
東京都立忍岡高等学校長 浦 部 万 里 子・・・2
- 2 レスキューロボット競技会 ～世界への挑戦～
東京都立総合工科高等学校長 森 健・・・4
- 3 より確かな進路実現を目指す技術・技能修得での人材育成
ー地域・農村漁村・国際交流のふれあい交流、自己の有用感の醸成ー
東京都立荒川工業高等学校長 高 橋 康 宏・・・6
- 4 魅力ある産業教育を目指して
関東第一高等学校長 中 村 孝 徳・・・8
- 5 多彩な地域密着型教育活動を目指して
東京都立第五商業高等学校副校長 新 井 義 雄・・・10
- 6 魅力ある農業教育を目指して
東京都立園芸高等学校長 千 谷 順 一 郎・・・12
- 7 魅力ある産業教育を目指して
東京都立王子総合高等学校長 今 澤 秀 夫・・・14
- 8 地域に根付く「福祉科」の教育を目指して
東京都立野津田高等学校福祉科主任教諭 北 山 富 美 江・・・16
- 9 自動車の専門的知識技術を基盤とした4年制カリキュラム開発
東京工科自動車大学校校長 佐 藤 康 夫・・・18
- 10 実践教育のこれから ～シミュレーション授業の意義～
東京誠心調理師専門学校 学校長 広 瀬 道・・・20
- 11 持続可能なよりよい社会、生活をめざす技術・家庭科教育
～ 東京都技術・家庭科研究会（家庭分野）の研究を通して ～
昭島市立清泉中学校長 小 谷 野 茂 美・・・22
- 12 生活産業を担う将来のスペシャリストの育成 ～家庭に関する学科の取り組み～
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 金 澤 正 美・・・24

東京の産業界

- 1 教科書と産業教育と共に歩んで 70 年 ―専門教育を支える教科書作り―
実教出版株式会社 代表取締役社長 戸塚 雄 三 …… 26
- 2 当社ならではのものづくり、想いのこもった CSR 活動を推進
戸田建設株式会社 代表取締役 井上 舜 三 …… 28

情報スクエア

- 1 第 9 回創造ものづくりフェア in TOKYO
東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長
中央区立佃中学校長 加藤 譲 司 …… 30
- 2 Chance 新たな出会い ～全国産業教育フェアに参加して～
東京都立忍岡高等学校 主任教諭 佐藤 真紀子 …… 32
- 3 農業クラブ全国大会のプロジェクト発表会へ東京都で初めて出場
東京都立瑞穂農芸高等学校 教諭 小笠原 直 樹 …… 34
- 4 第 2 1 回全国産業教育フェア・第 5 3 回全国産業教育振興大会（鹿児島大会）…………… 35

報 告

- 1 平成 2 3 年総会・講演会…………… 38
- 2 平成 2 3 年度東京都産業教育振興会教育功労者表彰…………… 41
- 3 平成 2 3 年度東京都産業教育振興会後援事業…………… 42
- 4 平成 2 3 年度産学懇談会…………… 43
- 5 平成 2 3 年度第 2 2 回東京都産業教育振興会作文コンクール
① 入賞者一覧…………… 44
② 最優秀作文（中学校・高等学校の部）…………… 46
③ 応募校一覧・応募数の推移・分野別応募数・応募男女比等…………… 49

本会の概要

- 1 平成 2 3 年度 事業経過報告（平成 2 4 年 2 月 20 日現在）…………… 52
- 2 平成 2 2 年度 決算…………… 54
- 3 平成 2 3 年度 予算…………… 55
- 4 平成 2 3 年度 役員、委員一覧…………… 56
- 5 平成 2 3 年度 会員名簿…………… 58
- 6 会 則…………… 73
- 編集後記…………… 75

表紙デザイン（平成 17 年度都産振 50 周年記念表紙デザインコンクール最優秀作品）
製作者 半澤寛之さん（東京都立第三商業高等学校 定時制課程 商業科 3 年：当時）

巻頭のことば

「真に自立した社会人を育成するために」

東京都産業教育振興会常務理事
(東京都教育庁都立学校教育部長)

直原 裕



東京都産業教育振興会は、産業界、教育界及び行政が協力し、産業教育の振興に寄与することを目的として設置され、これまで半世紀以上にわたる活動を通じて大きな成果をあげてまいりました。これもひとえに、皆様の御尽力によるものと心から感謝申し上げます。

さて、東京都教育委員会では、平成9年に策定した「都立高校改革推進計画」に基づき、新しいタイプの学校設置を計画的に進めるなど、特色のある学校づくりを推進してきました。産業教育の分野においても、科学技術高校や進学型商業高校、産業高校などを設置し、生徒の多様なニーズに応えてきました。

しかし、近年、我が国や東京の社会、経済状況はますます厳しさを増し、若者の意識も変容するなど、都立高校や生徒を取り巻く状況は大きく変化しています。とりわけ産業界においては、社会・経済のグローバル化などにより、産業構造や就業構造が大きく変化し、職業人に求められる知識や技能が、一層、多様化・高度化しています。

また、教育の分野では、教育基本法の改正等を経て10年ぶりに学習指導要領が全面改訂されました。中学校では平成24年4月から全面実施、高等学校でも一部教科において平成24年度からこの新しい学習指導要領に基づく教育活動が始まります。

このような状況を踏まえ、本年2月、都教育委員会は、「真に自立した社会人を育成すること」を目的に、平成24年度を初年度とした10年間の長期計画である「都立高校改革推進計画」を改めて策定しました。

本計画では、「社会的自立の基盤となる力の確立」「変化する社会の中での次代を担う人間の育成」など5つの目標を掲げ、「生徒一人一人の潜在能力を顕在化し伸ばす教育の実践」を基本的な考え方として、施策を展開していきます。

産業教育を直接担っている専門高校についても、社会の期待に応え、将来の東京の産業を支える人材を育成するため、専門高校で学ぶ専門的な知識、技術及び技能を、生徒一人一人に確実に習得させ、専門性を一層向上させます。また、技術の進歩や企業等の実態に応じた教育ができるよう、教員の専門的指導力・技術力の向上を図ります。さらに、生徒の進路実現を図るため、専門高校の教育内容と体制を見直し、魅力ある専門高校づくりを進めます。

こうした施策を着実に推進するには、都立高校における取組だけでなく、企業や他の教育機関等の支援や協力が不可欠です。東京や我が国の産業を支える人材の育成を目指して産業界及び教育界が一体となって産業教育振興の活動を行っている本会と、都教育委員会との連携は、今後ますます重要なものとなってまいります。本会会員の皆様には、東京における産業教育の充実・発展に向けて、より一層の御指導、御協力をいただければ幸いです。

特集

魅力ある産業教育を目指して—各校・各学科の取り組み—



魅力ある産業教育を目指して

～専門学科家庭科における取り組み～

東京都立忍岡高等学校長 浦部 万里子

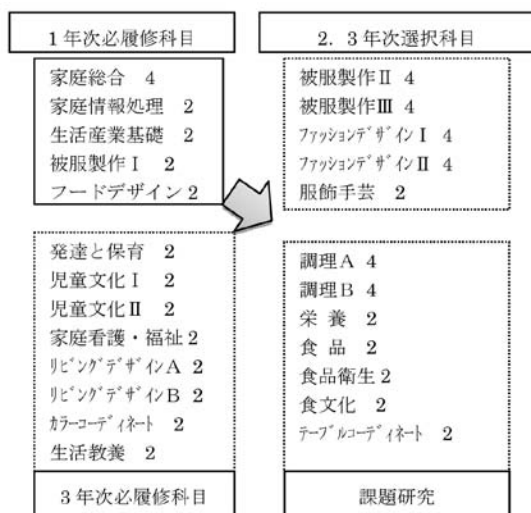
1 はじめに

本校は平成18年4月1日、普通科と専門学科家庭科とを併設した全日制・単位制高校として開校した。23区内で唯一の専門学科家庭科である「生活科学科」は、将来のスペシャリストとして必要な資質や能力を育てるとともに、大学進学希望の実現を目指し、教育活動を展開している。

2 特色ある教育課程と授業内容

(1) 多彩な家庭科専門科目の設置

本校は単位制の特徴を生かし、1年次は全員共通の必修科目を学んで基礎を積み上げるが、2年次からは、設置された20種類の多彩な家庭科専門科目から進路目標や興味・関心に応じて科目を履修選択することができる教育課程となっている。服飾系や調理系など専門性を深める学び方ができる時間割をつくることができるだけでなく、幅広く多様な分野を総合的に学ぶこともできる。また、普通科との共通履修選択科目も用意しているので、大学進学希望にも対応した時間割を作ることができる。



(2) 資格取得を目指した授業内容

専門性の基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、目標をもって授業に取り組ませるため、資格取得を授業内容に取り入れている。「被服製作Ⅰ」「フードデザイン」は必修科目とし、被服製作技術検定3級、食物調理技術検定3級、「家庭情報処理」では文書デザイン検定3～1級を全員に受験させ、全員合格を目指し指導にあたっている。さらに希望者には1級取得まで目指せるよう、選択科目を用意している。昨年度は被服製作技術検定洋服1級12名、和服1級9名、食物調理技術検定1級26名合格した。

(3) スペシャリストを目指し専門性の高い授業内容を展開

服飾・デザイン系の科目では、将来デザイナー、パタンナーなどを旨とするための専門的な知識や技術を身に付けるため、CADを使ったパターンメイキングやイラストレーターを使ったテキスタイルデザインなどの学習にも取り組ませている。CADの指導にあたっては、CADに精通した市民講師を招き、TTによる授業を展開している。この他にも保育系の科目ではリトミックの講師、看護・福祉系の科目では介護福祉士や手話の講師、住居系の科目では1級建築士、調理系の科目では現場で活躍するシェフを市民講師として招き、専門性の高い授業を展開している。また、連携する杉野服飾大学や女子栄養大学から大学教授の出前授業を受けたり、華調理師専門学校での授業を聴講する体験を全員に与え、将来の進路を考える上で、視野を広める学習にも取り組んでいる。

3 産業教育を意識した授業の取り組み

(1)「生活産業基礎」

家庭科専門科目の学習は、自分の生活をより豊かにするだけでなく、学んだことを生かして職業人として社会に貢献できる人材になることを期待し、授業内容を展開している。特に専門学科の生徒が最初に学ぶ「生活産業基礎」では、生活産業や職業への関心や理解を深め、スペシャリストとしての夢実現のために必要な知識・意欲を高める授業の取り組みとして、生活産業模擬体験を行っている。文化祭における店舗経営体験学習を通して、商品企画、店舗の企画・運営の研究実践活動を行い、生活産業への理解を深めるとともに、消費者と生産者の双方の立場に立って考えることができる幅広い視野をもった職業人の育成を目指して取り組ませている。

(授業展開)

- ①主要客層を設定し、店舗のコンセプトを決定。
- ②情報を収集し、販売商品を企画（デザイン、素材・材料、カラー、価格設定）
- ③サンプル作成し、発表会を行い、最終デザイン、メニューを決定。
- ④作り方、材料仕入れ計画、価格、ラッピング等を検討、生産数量を決定。
- ⑤材料購入・作り方講習・生産・商品検査
- ⑥販売・売場展開について店舗研究、PR広告紙の作成

この学習を通して、消費者の立場に立った場合、何が最も求められるのかを的確に把握し、生産者としての責任を感じながら商品を提供できる資質の育成につながっている。



(2)「ファッションデザインⅡ」

「ファッションデザインⅡ」の授業では、将来アパレル業界において活躍できる職業人の育成を目指して、商品企画からサンプル作成、販売計画までを学習できるよう授業計画を立て、取り組ませている。前期は、販売したいワンピースのデザ

イン、パターン作成をCAD、イラストレーターを活用して行い、1/2サイズで大型インクジェットプリンターで布に出力したものを、サンプル作成し、商品企画をプレゼンさせている。後期はデザインパンツをグループごとにテーマを決めて企画・製作させ、どのように販売計画するかバッグのデザイン制作や商品のディスプレイ企画にも取り組ませながら、商品企画から販売までに必要な知識や技術を身に付けさせている。生徒はこの体験を通して、マーチャンダイザー、パタンナー、ファッションデザイナー、テキスタイルデザイナー、縫製技術者、デコレーターなどアパレル業界におけるさまざまな職業を知り、進路を考える上で職業意識を高める学習となっている。

4 各種コンクール参加への取り組み

コンクールへの取り組みは、学習成果の発表の機会を与えるだけでなく、生徒にとって意欲・技術の向上、自信につながっている。

(これまでの成果)

平成 19、20 年度「高校生お弁当コンテスト」で最優秀賞を受賞、平成 20 年度「全国ファッションデザインコンテスト」佳作に入賞。平成 21 年度「全国高校生クリエイティブコンテスト」学校賞受賞。平成 22 年度「全国高校生ホームプロジェクトコンクール」優秀賞受賞。平成 22、23 年度「全国高校生スイーツ甲子園」関東ブロック予選大会出場。平成 23 年度「全国高等学校家庭クラブ研究発表大会」ホームプロジェクトの部において関東地区ブロック代表で発表。（この発表は鹿児島市で開かれる平成 23 年度全国産業教育フェア意見・体験発表において発表の機会を与えられた。）

5 おわりに

本校家庭科では、開校 6 年目を迎えた今日でも単位制の専門学科家庭科の教育課程のあり方について日々研究を重ねている。専門学科家庭科を選んでくださる生徒、保護者の期待に応えるべく努力を重ねることが使命と考えている。



レスキューロボット競技会～世界への挑戦～

東京都立総合工科高等学校長 森 健

1 はじめに

本校は「大学進学を視野に入れた進学重視型の工業系専門高校」として平成18年に開校しました。開校後3期生までは概略、進学70%（大学進学50%、専門学校20%）、就職30%の進路実績となっています。

また本校は東南アジアへの海外修学旅行を実施するとともに広い校地を生かした部員100名を超える硬式野球部や専門性を活かした自動車部、ロボット技術研究部などが活躍しています。

昨年7月に行われたロボカップ2011トルコ・イスタンブール国際大会にロボット技術研究部が出場し第7位の成績を得ることができました。その取り組みを生徒研究成果発表大会の発表文を編集して紹介します。



ロボット技術研究部

2 ロボカップについて

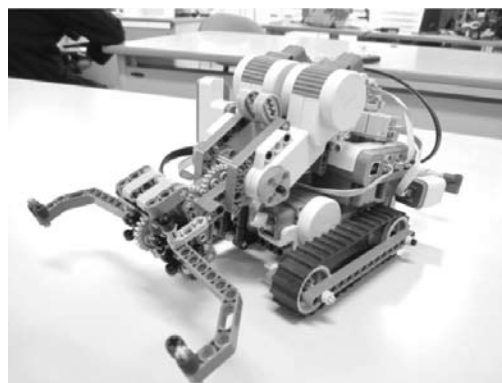
ロボカップは西暦2050年までにサッカーの世界チャンピオンチームに勝てる自立型ロボットを作ることを目標に発足した大会で、社会人が中心のシニアリーグと19歳までが参加できるジュニアリーグに分かれます。ジュニアリーグにはサッカー、レスキュー、ダンス部門があり、私達はレスキュー部門に参加しました。

レスキューのアリーナ（コース）は、2階建て

になっており、1階はライントレースをしながら、ブロックや減速バンプなどの障害物を乗り越え進み、2階は瓦礫の中にある被災者に見立てた缶を救助し、5cmの高さの避難場所へ乗せるというルールとなっています。また、ロボットは高さ・幅共に25cmのゲートを通るサイズでなければならず、ハードウェアは使いやすさ、変更のしやすさからLEGO Mindstorm NXTを使用しました。



コースの写真



大会で使用したロボット

3 トルコ世界大会について

ロボカップジュニア世界大会は、7月6日から5日間トルコ・イスタンブールで行われました。1日目は調整、2～4日目で予選、5日目は予選の合計得点上位12チームがスーパーチーム競技と表彰式に参加することができます。

大会中の共通言語は英語で、ルール説明のミーティングや取り組み・成果などを発表するインタビュー、ポスタの内容も全て英語となっているのでとても大変でしたが、2年次の海外修学旅行でマレーシアに行ったことから海外の人の言葉には抵抗なく、海外旅行というものの経験が生かされました。



世界大会会場入口

会場では、国内大会と違って警備の体制がとても厳重で、セキュリティをなかなか簡単に超えることができなくて立ち往生しているチームも多く、世界大会と日本大会の違いを知ることになりました。また、海外のチームは日本の選手と違いとても積極的に行動する人が多く、私達よりも活発に行動しているチームが多く目立ちました。

海外のロボットにはさまざまな種類があり、すべて自作のロボットを製作しているチーム、特殊なセンサを使って被災者を捜しているチーム、NXTのマイコンを複数使用しているチームなどがあり、とてもユニークな発想と思えるものばかりでした。

前半は、世界大会のコースレイアウトの難しさから思うように動作せず、苦戦しました。しかし、後半で挽回して何とか勝ち残り、トルコ世界大会は、第7位という結果を残す事ができました。

最終日のスーパーチームに参加することが決まり、関西の日本チームと組むこととなりました。スーパーチーム競技は、2台のロボットを走行させ、2人の被災者を協力して救い出すというルールが、前日に発表されました。どちらが先に行動するかで結果が変わり、また、ライントレースのためのラインがないため苦戦しました。それでも

チームで役割を分担し、何とか1人は被災者を助け出すことができました。結果は、30点で第3位でしたが、私達の中では満足する結果になりました。こうして、5日間にも及ぶ私達の世界大会は終了しました。



世界大会のコース

4 最後に

今回のロボカップジュニアを通して、私達はとても貴重な体験をすることができました。世界大会というもの自体初めての参加であり、海外の選手と高い技術の情報を交換することは、とても貴重な経験になりました。海外の人々はどのようなロボットを製作して、どのような動きでステージを攻略しているかを知ることができ、考え方の柔軟性、世界レベルで自分たちの位置を理解することができました。



世界大会に参加した生徒



より確かな進路実現を目指す技術・ 技能修得での人材育成

—地域・農村漁村・国際交流のふれあい交流、自己の有用感の醸成—

東京都立荒川工業高等学校長 高橋 康宏

1. 学校の概要

東京都立荒川工業高等学校の沿革は、昭和23年都立上野高等学校三河島分校・定時制課程が設置されたことに始まる。昭和35年東京都立荒川高等学校と校名が改められ、電気科・電子科が設置された。

昭和38年に、現在の荒川工業高等学校と校名が変更され、昭和63年に、情報技術科が新設され、全日制課程は電気科・電子科・情報技術科の3科を有している。

定時制課程は、1学年1クラスの電気・電子科コースが設置されている。全日制・定時制課程の併置校であり、都内唯一の電気系専門高校である。

全日制課程	学級数	学年生徒数	学科生徒数
電気科	6	70	210
電子科	1	35	70
情報技術科	6	70	210
定時制課程	学級数	学年生徒数	学科生徒数
電気・電子科	4	30	120

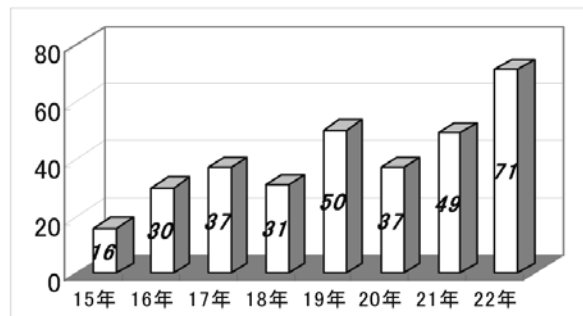
設置学科・生徒数

2. 本校の教育の特徴

専門教育を通して人間的な教育活動のふれあいの中で「一人ひとりを大切に」をモットーに個性に応じた人間教育を目指し、「資格取得とものづくり」「社会に貢献できる人材育成」を教育の根幹に据え、より確かな進路実現を目指し、資格取得や各種競技会への参加などを通じて、確かな職業観や勤労観を育成する教育活動を各科で展開している。

電気科では、国家試験である第一種、第二種電気工事士の取得指導を重点に行っている。平成22年度は、全国第22位、東京都では、取得数では4年間第1位を維持している。第一種電気工事士も16名が取得した。なお、電気科の卒業生は、実務経験

3年以上で申請・審査により、第三種電気主任技術者の資格が得られる。



第二種電気工事士の合格者

電子科では、危険物取扱者主任の資格取得から消防設備士の取得まで、各種段階に応じた講習を実施し、困難な資格指導を行い進路実現を図っている。

情報技術科では、ITパスポート取得やMOS検定試験に挑んでいる。専門学科と普通教科に関する資格取得数は、延べ400を超えている。

より確かな進路実現に向け、資格指導の特色化を図ることが出来き、就職内定に結び付いている。これには、朝講習・放課後講習のみならず土・日の休日講習を積み重ねる根気強い資格指導がある。

定時制課程では、資格取得と合わせて、電気工事技能競技大会に出場し、実践的な力を育成している。

入学選抜では、文化・スポーツ等特別推薦をラグビー部・野球部・柔道部で実施し、平成24年度生から新たにバスケット部を特別推薦に加えた。

運動系の部活動の活性を図り、生徒の社会性、有用感を実感させ健全育成を目指している。

3. 3年間での進路実現

進路状況は、近年の不況下でも学校斡旋による就職希望者のほぼ100%就職が決定している。

各種資格取得指導で、進路意識を高め、自信を持たせ、就職試験に臨ませている。進路指導部は、全日制・定時制課程で組織的に協働し、①「卒業生・

進路パネルディスカッション」、②「進路ガイダンス」、③「職業ガイダンス」、④進路説明会などを入学時から生徒・保護者を対象に、進路意識の醸成と啓発活動をフレキシブルに取組を行っている。

特に、公共職業安定所・ジョブサポーターと緊密な情報交換と連携を図っている。

4. 地域との相互のふれあいと教科「奉仕」

近隣の小学校や図書館、警察署、保育園、特養老人ホームとの連携を図っている。



体育祭園児・玉入れ競技



詐欺防止キャンペーン

教科「奉仕」で、小学校の夏休みプールの監視指導員補助や隣接している保育園と連携し、保育補助実習や体育祭での園児の競技種目を設定している。

また、図書館での本の整理、掲示物の作成などの生徒の社会的有用感の育成に繋げている。

また、ボランティア・グループをつくり、警察署と連携し、地域の清掃活動・落書き消し活動、交通安全週間や振り込め詐欺の防止キャンペーン街頭啓発に参加している。

5. 大学・企業・区役所とのものづくり連携

①大学との連携 拓殖大学・電機大学・日本工業大学・ものづくり大学との協力で、大学の研究や先端技術に触れる講演会を設けている。

大学への進学意識の醸成も高まり、研究室で実験設備を使い実験する生徒も出ている。

②企業との連携 荒川区経済産業課の支援を頂き、荒川区の優れた技能を持つ人材・荒川マイスターによる講演を実施し、実際の優れた匠の技や製作物にふれる機会を設けている。



ヘラ絞り技術はやぶさへ



日本のリャーカー世界へ

③荒川区教育委員会と連携 毎年7月に荒川少年少女体験教室「荒工おもしろ体験教室」を実施している。小学生の学年に応じた体験内容を3種類設け、本校生徒が小学生に指導するI Cレコーダー制作などの電子工作がとて好評である。



少年少女体験教室「荒工おもしろ体験教室」

6. 国際交流と修学旅行民泊ふれあい体験

①(財)日本国際協力センターによる国際交流事業「21世紀東アジア青少年大交流計画」による事業を受け、平成22年度は、韓国からの視察団を受け入れた。平成23年度は、中国海南島からの中国高校生訪日団21人を受け入れた。

交流プログラムでは、電子オルゴール製作を行い生徒が指導に関り、昼食会では、中国語が話せる生徒が各テーブルに付き、互いに中国語で直接交流をする貴重な場となった。



中国高校生訪日団・交流



長崎県松浦市鷹島・民泊

②平成23年度の修学旅行では、長崎県の松浦市鷹島と豊島の農村・漁村で民泊体験を通して、海の幸・山の幸の貴重な調理体験など行い、日本の農村・漁村文化と地元の方々とふれる温かい交流となった。

7. 技術・技能の継承とものづくり人材の育成

多様なふれあいを通じて、自己有用感を醸成し、しっかりと産業構造を支え、新たな技術の開発にも挑むことの出来るものづくり人材育成を目指している。また、ものづくり技術・技能の伝承・継承を図り、東日本大震災に伴う復旧・復興には、若い力と技術・技能が不可欠であり、技術・技能を身につけた生徒たちが誇りを持ち、高く評価される社会的な土壌を醸成することが重要と捉えている。



魅力ある産業教育を目指して

関東第一高等学校 校長 中村 孝徳

本校は、今から87年前の大正14年、地図帳や教科書の出版で有名な帝国書院を設立した守屋荒美雄が、神田錦町の電機大学校の校舎の一部を借りて、商業学校としてスタートしたのがその始まりで、その後、各種学校令に則って関東工科学校を併設し、工業科の前身であります電気科（電力課程）を設置し、工業教育を通しての人材育成に着手いたしました。

昭和18年4月大東亜戦争下、商業学校転換命令が発せられたのが契機となり、機械科を発足し、終戦後には、商業科と工業科の併設の学校となり、工業科内には機械科・電気科・建築科の3科を有し、昭和48年には創設以来の商業科を廃止して普通科を設置し、現在の校名の関東第一高等学校となり今日に至っています。

本校は、「東京私立工業高等学校長会」に所属しておりますが、次年度より工業科の生徒募集を停止いたしますので、果たして本校がこの稿を任せられてよいものなのか、加盟校数8校となってしまう「東京私立工業高等学校長会」の皆様と話し合い決めさせていただきました。

本校の機械科の取組み

機械科生徒の進路を見てもみると、自動車産業と機械加工産業とに大きく分かれる傾向を示しております。そのような背景の中、本校では三級自動車整備士資格取得を目的とした自動車整備コースが機械科の中に発足され、機械コースと自動車整備コースに分類し生徒募集を行いました。

自動車整備コースは三年間持ち上りのカリキュラムとし、機械コースの中に二年次より選択コースとして機械加工コースと工業福祉コースとに分け授業を展開いたしました。

本校の機械科の取組み・自動車整備コース

昭和63年より自動車整備コースを、国土交通省（当初、運輸省）からの認可を受けて開設いたしました。開設までの大きな問題として、実習場確保の問題と指導者養成の問題がありました。

認可を受けるため機械科実習場の一部を、自動車整備士一種養成施設として申請できるように改

修いたしました。また、一種養成施設として必要な2級整備士や検査主任者設置のために、希望制で当時の工業科の先生方に夜間の自動車整備士二種養成施設に入校してもらい、自動車整備士の資格を取得したり、一時スタッフが揃うまでの間、専門の先生方を迎えたりして指導体制を整えました。それにより3級自動車整備士養成を目的としたコースを作る事が出来ました。

このコースは1クラス40名編成（運輸省では1クラスの認可規模が48名）で、特徴としては専門教科の時間が多い事でした。実習時間600時間、座学（教室での授業）300時間を3年間で行なわなくてはなりませんでした。

授業の特徴としましては、エンジンの分解・組み立てや自動車の整備関係の実習を多くとりいれました。

本校の機械科の取組み・自動車整備コース：インターンシップ

特別な体験学習として現場実習に取り組みました。地元江戸川区内にあります自動車整備振興会にお願いし、認証整備工場や指定整備工場の協力を得る事により、二人一組20社に10日間の体験学習を行なうものでした。

整備工場にとっては顧客の自動車であるため、作業内容には制約がありましたが、自動車に関すること以外にも、実際の整備士さんの生の声が聞けるなど生徒にとっても大変好評でした。その影響もあってか、多くの生徒は整備士としての就職や2級自動車整備士養成の大学校への進学を希望いたしました。が、自動車産業界の経営の方向転換や、社会経済の問題から、自動車整備振興会加盟社の減少化などもあり、平成18年3月の卒業生をもって終了致しました。

本校の機械科の取組み・工業福祉コース

工業福祉コースの立ち上げは、当時の理事長の「これからの社会には福祉が絶対に必要である」との強い思いから、「車椅子などの製作を機械実習の課題として取り入れてはどうか？」の提案がなされたことが、「福祉」を指導計画の基本に取

り入れた「工業福祉コース」の発足しに結び付けました。

物作りの観点から、製品は人が使うものという、人を敬う製品作りが物作りの原点となるという考えを元に授業体系の検討に入りました。

カリキュラムは機械科生徒としての基本的知識・技術を習得することを念頭に置き、学習の基盤は福祉関係の知識の習得に置き、実習では介護施設訪問などを取り組むことで実地的な知識・経験の習得に重点を置きました。

夏季講習として二級ホームヘルパー資格取得のための講座を設け、多数の工業福祉コースの生徒が資格を取得しました。

授業内容としては、「物が作れなければ工業科生徒とは言えない」との信念を持った物作りを基本とし、座学の内容は機械コースと統一する中、福祉に関する教材にて福祉の法律や高齢者に対する姿勢などを学ばせ、体験学習では介護施設を定期的に訪問させ、車椅子の修理・空調関係の修理および高齢者（痴呆症患者も含む）とのふれあいを通して、福祉の現場を学ばせました。

車椅子の修理を通して、車椅子の構造は勿論、高齢者および身体障害者の補助役目をしている大切な器具であるとの認識を持たせ、丁寧に汚れなどの除去および修理を行なわせ、人間としての「やさしさ」が養われてきました。

本校の電気科の取組み

昭和14年に電気科を設置してから平成21年度に生徒募集を停止し、平成23年3月に最後の卒業生を送り出しました。

近年の日本の産業界は、工場の海外移転が続いており、中小の企業もアジア地区に移転していることなどが、工場の減少と工業高校卒業生徒の就職先の減少とは少なからず関係していることと思います。

現在、電気自動車・ロボット関係の産業における技術進歩は著しいものがあります。1990年代から全日本ロボット相撲大会・ワールドソーラーカーラリー・スミダテクノフェアー等、高校生にもものづくりを奨励し技術力を高める各種の大会が始まった時期でありました。本校でも、各々の大会に参加する機運が生徒・教師に高まり参加に向けて大会規定の検討、必要予算材料・既存の製品の活用等を教師間・生徒間・生徒と教師の間で話し合いが開かれました。ホームセンター・ホビショップ等の店内で各々の製作ロボット等に部品として利用できるものを思案しながら購入し

て、これをもとに組立て・不具合の検討・次の工程に進むという事を繰り返して完成させました。

次に完成品を持ち寄って、班対抗の試合の結果より改良点を見つけ夏休み中にその作業を行い各大会に臨みました。その時の生徒の目の輝きは今も私たちの心に残っています。また、これら大会の開催及び運営には、多くの産業界の方々のご尽力があり、生徒に貴重な経験をさせることができたことを今も大変感謝しております。

建築ビジュアル科の取組み

本校普通科を男女共学とした2年後の平成18年度、建築科を建築ビジュアル科に改名し、男女共学としました。学年1クラス40名編成は変わらず、科目の特徴としては、デザイン史・CGビジュアル・インテリア計画・デザイン技術・木造技術などの学校設定科目を設け、授業の特徴としては、可能な限り絵・図・写真・実物を見せ、描かせるビジュアル的な授業の構築を目指しました。

2学年から希望制で、生活デザイン・木造キャリア・住宅インテリアの3セクションに分かれて学習できるようにし、CG・CAD等のコンピュータ学習を多くしました。

特別な体験としまして、展覧会・作品展の見学、産業フェア・コンペ等への出展、専門学校・大学の模擬授業受講などを計画いたしました。

指導者の特徴としましては、建築設計工事の実務経験がある・デザインの実務経験があるなど、指導者も実務経験者を配置し、高い専門性を求めました。

工業科の進路状況

先ず、近年の進路状況からみてみますと、就職は33%、その内学んだ専門課程を活かした進路選択が22%であるのに対し、短大を含み大学進学が20%、専門学校進学が38%と、進学が60%近くに増加してきているという傾向がわかります。

首都圏にある工業高校においては、その専門を活かしての就職といった門戸が狭くなり、且つ更に上の学校への進学を望む傾向が強くなってきていると思います。

この様な背景の中で平成24年度募集より工業科の生徒募集を停止するわけですが、長年に亘って培ってきた実業のノウハウを今後の学校運営の中に活かす方策も考えて行かねばならないと思っております。



多彩な地域密着型教育活動を目指して

東京都立第五商業高等学校 副校長 新井 義雄

1 はじめに

昭和16年に東京府立第五商業学校として創立され、昭和23年新学制により東京都立第五商業高等学校と校名を変更した。また、同年に定時制課程も認可され、全・定併置校として多摩地区唯一の商業高校として現在に至っている。

創立71年の商業高校の伝統校として、商業に関する専門的知識と技術を習得させ、人間性を磨き、社会を支える一員であることの自覚のもとに、望ましい職業感を養い、自己実現に主体的、創造的に取り組む人間を育成することを目指している。

2 「ライフデザイン・社会体験活動」による地域貢献学習

総合的学習の時間3単位のうち、1単位を自己の生き方を考えるための時間として「ライフデザイン」を実施していたが、平成19年度から全都立学校でスタートした「奉仕」を本校では、「ライフデザイン・社会体験活動」という名称で第1学年において実施している。

この科目は、6名のプロパーと1学年担任6名の合計12名の委員会で構成し、学習内容や進行管理を行っている。平成22年度は、下記のとおり実施し体験活動の引率は全員で当たることにした。

第五商業高校(全) 社会体験学習 2010年のまとめ R
〔オープンコース〕

分野	活動先	生徒数	体験実施期日	事前・事後学習
1 障害者スポーツ補助	全国視覚障害者卓球大会	29	7月12日 8月21日 9月19日	事前学習 パワーポイントを使い、昨年度の活動の様子を学んだ。先輩や先生から体験内容やこの授業のねらいを学んだ。ボランティアセンターの方から「社会体験」の心構えを聞いた。ワークシートを毎回提出した。6月には各自で希望コースをだし、確定。7月からは各コースごとに集まり、友達になるとともに、体験内容や注意点を確認していった。「体験日誌」に書いていった。7月12日は体験先の方々と会い(校内もしくは体験先を訪ね)、事前の注意や最初の練習・体験を行った。1学期最後の授業では体験にむけて目標設定をし、それを「体験日誌」に記入した。
2 地域イベントA	立川花火大会 自転車マナー	30	7月31日 10月23日	
3 地域イベントB	国立 北区商店会祭り 国立天下市	15	9月11日 11月7日	
4 地域イベントC	福生市七夕まつり	10	8月7日、8日	
5 小学生とあそぶ	国立市東児童保育所 国立市北児童保育所 国立市中央児童保育所	3×3	7月22日、23日 7月21日、22日、23日 7月22日、23日	
6 小学生とあそぶ	八王子市北野児童館	9	8月4日、5日、11日	
7 高齢者とふれあう	配食サービス すずらん	5	7月21日22日、23日	
8 地域防災	国立北のすみどり会	19	7月12日、23日、8月23日、29日	
9 障害者とふれあう	滝乃川学園	8	7月22日23日24日	
10 自然環境	くにたち桜守	18	7月12日、22日、8月5日、9月24日	
11 バイコン講座補助	第五商業高校内	8	7月20、21、22、23、26日	
12 自然環境	クリーン多摩川	6	11月21日	
分野	活動先	生徒数	実施期日	事後学習
A1 弓道部	中学生対象弓道講座	9		事後学習 校内でコースごとに「体験日誌」をもとに、以下の項目でまとめた①活動内容②がなかったこと③うれしかったこと④失敗したこと⑤活動を通して学んだこと⑥今後取り組みたいことや課題。これらを生徒自身でパソコンに入力した。また体験先の方々に「お礼状」を書いた。目上の方へのことばづかい(敬語)についての勉強をした。11月17、24日には学年集会以PPを使ってプレゼン型の発表会をした。
A2 茶道部	なかよし保育園招待・公開講座	14	保育園8月30日 公開講座7月17、18日	
A3 女子バレーボール部	立川聾学校交流・中学生招待バレー大会	7	7月10日、19日、26日 8月29日	
A4 女バスケットボール	定時制・通信制全国大会	4	7月27日、28日、29日	
A5 バドミントン部	小学生対象バドミントン講座	8	8月11日、23日	
A6 吹奏楽部	社会を明るくする音楽祭・市民祭り・老人ホームコンサート参加	11	7月23日 11月7日 12月23日(予定)	



3 インターンシップによる職業感の育成

平成19年度から、国際ロータリークラブとの連携により、第2学年全員が3日間の就業体験を実施した。今年度で5年目を迎え、昨年度から全員参加ではなく就職希望者を中心に夏季休業中に行った。23年度は地元の国立・立川の企業から14社で49名(1名欠席)で就業体験が行われた。

事前指導では、インターンシップの意義から始まり、企業調べ、事前連絡での電話のかけ方、社会人としての心構え、インターンシップの事前講演などを行い、8月9日(火)から11日(木)の三日間就業体験を実施した。この間、担任団で就業先を訪問し就業の様子を見たり、就業の状況

を担当者から伺った。事後指導では、日誌の完成提出、アンケート、礼状作成・送付など行い今年度のインターンシップは終了した。アンケートの集計表と生徒の自由意見の一部を記載する。来年度以降も継続して実施いく。

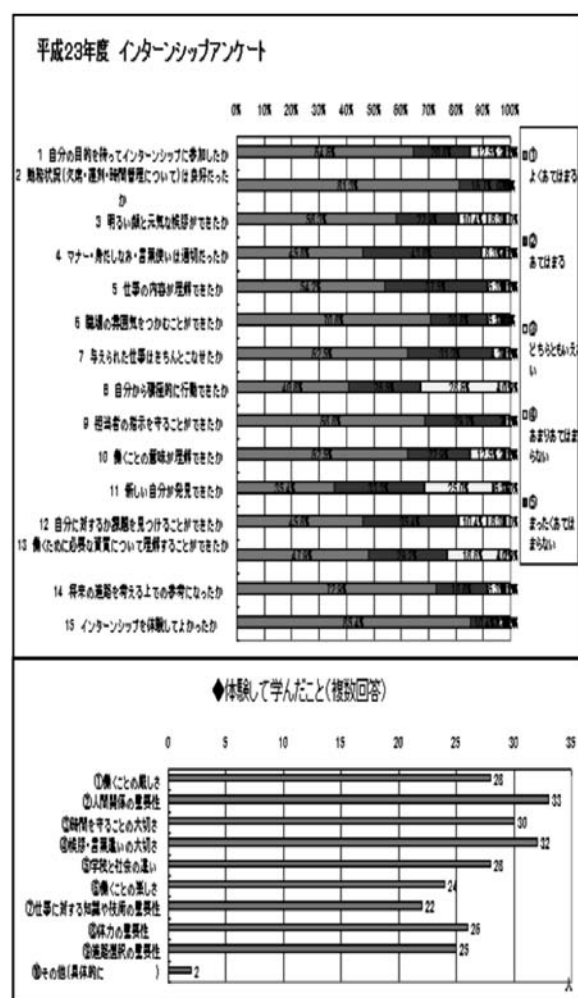
【自由意見】

- ・働くことの大変さ、普段できない体験ができ、この経験をもとに進路を決めるときの参考に自分にあった企業を見つけた。
- ・思っていた以上に大変だったけど、働くことの大切さを知ることができた。
- ・3日間で自分がレベルアップします。絶対インターンシップはやった方がよい。
- ・新しい自分を見つけるインターンシップだったと思います。
- ・銀行に就職したいので、銀行にいけて良かったです。予想以上に仕事が多く大変であり、日々勉強が欠かせないことが解りました。
- ・正直将来なろうとしているところとは、180度仕事内容が違っていたが、楽しかった。上下関係の厳しさ、挨拶の大切さ、態度、柔軟性がとても重要でとても大事であることがわかった。
- ・私が体験させてもらったのは日本の伝統ということがよくわかりました。言葉遣いの大切さや時間を守る大切さなど改めて知ったので職場体験をしてよかった。周りの助けがあってこそできたことばかりなのでお世話になった人に感謝したいです。
- ・働くことはすごく大変で学校とは全然違いました。貴重な体験ができて良かったです。
- ・適切な指導を事前にしてもらえて充実して体験できました。
- ・3日間すごくいい体験ができました。私にとってこの経験は、貴重なもので患者さんとのコミュニケーションなど大切なことも知ることができました。

4 実業意欲向上プログラムによる連携販売実習(五商ショップ)

平成16年度から農業高校や工業高校の生徒が生産した物品を商業高校生が販売する「実業意欲向上プログラム」を実施している。本校では、3年生の課題研究で学校設定科目「起業家チャレンジ」として約20名前後の生徒が携わっている。

平成22年度は、都立瑞穂農芸高校・都立農業高校等の生産品(草花・観葉植物・タマゴ・味噌・クッキー類・野菜・堆肥・ジャム・など)を仕入れ、商店街の協力のもと年3回の販売実習を行った。各回とも好評で開店前は行列ができるほどであった。



5 まとめ

この他、進路活動で就職者に対する面接指導・作文講話・進学者のための面接指導・進路講演会・ライフデザインでの講演会など外部講師による学習が年間50回を超える。

今後とも、企業や地域等から力を借り、様々な体験学習を通じ、多摩地区唯一の商業高校として実社会に通用する商業教育を実践し続けたい。



魅力ある農業教育を目指して

東京都立園芸高等学校長 千谷 順一郎

1. はじめに

都内6校の農業系高校と大島、三宅、八丈の島嶼3校を含む9校は、校長実践研究会農業部会において、専門高校の個性化・特色化を図るために第3次アクティブアグリスクールプランを策定した。これに従って、それぞれの学校が農業に関連した将来のスペシャリストの育成を目指して、専門知識・技術の基礎を習得させると共に社会性や規範意識を身につけた倫理観のある職業人の育成を目指した教育活動を展開している。

2. 地域の期待に応える貢献活動の展開

農業系の専門高校は、従来から学習成果を活用した地域貢献活動を積極的に展開してきた。平成6年に開始されて現在も1年に2回ずつ実施されている東京都庁議会棟前の花壇作成活動をはじめとする多くの活動は、今では地域に定着して、住民の人々の期待も増大している。



このような活動を一人でも多くの生徒に経験させることは、農業の専門教育の充実を図るだけでなく、生徒に社会性や規範意識、コミュニケーション能力を身につけさせる上できわめて効果的である。そして、地域住民と関わり合いながら生き生きと活動する生徒の姿を通して、農業の専門教育の魅力がより一層地域に浸透してきている。

3. 都立園芸高校の取り組み

都立園芸高等学校では、花壇植栽や小中高への栽培指導、地域の環境整備活動、実習生産物の紹介を兼ねた販売などを継続的に実施してきた。園芸科の生産物は東京都の特定農産物栽培圃場の指定を受けて、減農薬有機栽培を続けているので、これを知る地域住民には根強い人気がある。バラ園で栽培されている世界的に有名な品種を実習で接ぎ木したバラの苗は、この2年来人気急上昇である。

食品科で生産するジャムや味噌、果汁飲料、缶詰は販売時期が限られていることもあり、学園祭である園芸展の時には長蛇の列ができて、瞬く間に完売するほどである。動物科では、血統の明確な小型犬を繁殖した時に希望者に販売している。一時ほどではないが、確実な需要がある。この他園芸科の花壇用の草花苗や野菜苗、鉢物は、季節ごとに根強い人気がある。

このように本校の実習生産品は安全な食料を安心して食べたい、そして美しい環境で心豊かに生活したいという都市生活を送る人々の期待に応えるものとして、農業系高校の魅力となっている。

4. 生徒のプロジェクト活動への発展

学習成果を活用する活動の機会を生徒自らが条件整備するようになると、生徒の自主的な学習は一步前進する。本校では、三宅島緑化プロジェクト、バラ園プロジェクト、江戸東京野菜プロジェクトという3例の生徒プロジェクトと世界動物感謝デー出展がこれにあたる。それぞれ活動内容は小学科の専門内容に基づいているが、参加メンバーは各科に渡っていて放課後等自主的に集まって活動している。

江戸東京野菜プロジェクトは、当初は園芸科の課題研究で取り組まれた内容だった。この研究を

進めるうちに東京都農業振興事務所、J A 東京グループ、N P O 江戸東京・伝統野菜保存会との連携が開始された。J A 東京では、江戸時代に江戸周辺で改良された野菜の品種から 22 品種を「江戸東京野菜」として品種登録して遺伝子を保存しながら、普及販売に取り組んでいた。農家任せでなく、確実な品種保存の役割を学校に期待したことから、連携が深まった。

寺島ナス、大蔵ダイコン、練馬ダイコン、馬込半白キュウリ、渡辺早生ゴボウ、本田ウリ、伝統コマツナ、馬込三寸ニンジン、内藤トウガラシといった野菜類の呼び名は、それぞれ 23 区内の江戸時代からの古い地名や地域の篤農家の名にちなむものである。これらは現在販売されている種類と比較すると、食味や香りでは確実に優れる面があるものの、収穫量が少なかったり、栽培しにくいなど経営的に見捨てられ、淘汰されてきた種類が多いだけに、農家に頼っていると自然に失われていくものである。

今や、これらの文化的価値を重視して遺伝的特性を確実に伝える種子を毎年生産し、保存していく作業は農業系高校でしか期待できないのが現状である。今後農業系高等学校は、訪れれば江戸東京野菜の種子があり、栽培についての情報を得ることができるという、シードバンクの役割を果たしていくことが求められる。生徒達はこの意義が単なる野菜栽培にとどまらず、伝統文化の継承にあることを理解しながらプロジェクト活動を自分たちの手で成長させている。

生徒達は早朝や放課後、休日に学校で活動するだけではなく、栽培方法を学ぶために自ら地域の農家を訪問したり、専門家を招いて研修会を企画するなど積極的に技量の向上を図りはじめた。これらの様子はマスコミにも取り上げられて、この秋だけで新聞報道 9 件、テレビ取材 3 件で、生徒達が元気に実習する姿が紹介、放映された。

生徒達が啓蒙のために立ち上げたブログが注目されて、2 店の青果店から江戸東京野菜を定期的に卸してほしいと要望が届くなど、地域にも注目されてきている。玉川高島屋では、本校生産品を一流シェフが食材として使用して調理した食品が

定期的に販売されている。11 月下旬には、世田谷の伝統野菜である大蔵ダイコンの加工品が販売されて、生徒が販売を手伝うという新しい展開が生まれた。

5. 地域貢献活動と学校の魅力作り

学校案内やポスターといった紙媒体から近年はホームページによる学校の P R 活動が一般的になってきているが、地域の評価を高めるためには生徒の姿を直接見てもらうことに勝るものはない。地域には高校生に対するある種の警戒感をぬぐい去れない人達もいる。明るく気軽に挨拶を交わしあい、道を歩いていても微笑みながら道を譲ることが自然にできるようになってくれば、地域の人々が高校生を見つめる目は、変わってくる。



地域貢献活動で一般社会の人たちと交流することに慣れてくると、高校生の評判が目に見えて向上してくる。都立園芸高校では地域の展示会や行事に年間延べ 500 人以上の生徒が参加して活動している。活動を通じて地域の人たちと交流し、対話することは生徒にとっては初めての経験であり、学習成果を評価してもらう絶好の機会となっている。そして、好評を得られることで自信が生まれ、学習意欲を喚起させられていく。このことが生徒に学校生活に対するやりがいや自信となって現れ、平素の生活態度が明るく快活に変化してくる。

生産販売で、引込み思案で自己表現が得意でなかった生徒が、意を決したように大きな声で来客に P R を始めるのを見ると、生徒一人ひとりの逞しい成長力を感じることができる。そして、そのような生徒をひとりでも多く作り出すことが、農業系高校の魅力作りそのものであることを確信しながら、これからも学習成果を活用した地域貢献活動を推進していく。



魅力ある産業教育を目指して

東京都立王子総合高等学校長 今澤 秀夫

1 はじめに

東京都立王子総合高等学校は、平成23年4月に開校した初々しい学校です。前身となる都立王子工業高等学校のこれまでの教育実績、地域の実態及び総合学科設置の理念などを考慮し、学校像を定めました。校舎は、昨年からの改築工事が始まり現在半分までできております。完成は、平成24年秋になります。それまでは、校庭に建てた3階建ての仮設校舎で教育活動を行なっています。生徒は、当然まだ1年生241名だけの学校です。この1年生（1期生）は、意欲的で活気に満ちております。委員会や生徒会の立ち上げ、部活動の結成と活動、どれも目を見張るものがあります。「Design Your Dream」これは、本校のキャッチフレーズです。サブテーマは、「自己の生き方を真剣に考え将来を切り開く力をつける学校」です。この言葉からも分かるように本校は、キャリア教育に重点を置いております。学校教育全体で計画的に進めるキャリア教育は、これからの我が国の産業を支える人材を育成する上で重要であると捉えております。このキャリア教育を進めるためには、教員のキャリア教育推進に向けた意欲と指導力の向上です。まずは、教員のキャリア教育研修から本校の実践を紹介します。

2 教員全員がキャリアアドバイザー

全教職員がキャリアアドバイザーとして日々生徒のキャリア指導に当たれるよう学校独自の研修体制をつくりました。キャリア教育に関する共通認識と必要なスキルの習得を目指すこのプログラムは、年10回全教職員を対象に実施します。職員会議を月1回に減らし、空いた時間をこのプロ

グラムに充てています。1年間の研修終了後には、本校認定アドバイザーとして☆一つを授与します。☆一つを取得した教員は、2年目以降チームリーダーとして他の教員にアドバイスを行い、最高の☆三つを取得した教員はキャリアマイスターに昇格する仕組みをつくり4月から計画通りに進めております。通常の職員会議を「職員会議A」と呼び、この研修会を「職員会議B」と位置づけることで100%の参加率を継続しています。

3 「産業社会と人間」の授業

この授業は、本校のキャッチフレーズ「Design Your Dream —自己の生き方を真剣に考え将来を切り拓く力をつける学校—」を具現化するための核ともいえる、総合学科の必修修科目です。

進路に限らず人が何かを決める時は、自分は何ができるか、何がやりたいのか、何をしなければならぬかを自分自身で明確にしておかなければなりません。また、進路を考えるプロセス「自己理解→進路情報の活用→価値観形成→将来設計→選択・決定→適応」の順序を考慮し、指導計画をたて、ワークシートを作成し、授業を行なっています。特に進路情報の活用や価値観形成には、より多くのものを見たり聞いたり知ることが望ましく、外部の方との交流や校外活動を積極的に取り入れてい



高大連携（大学生との交流会）

4 夏休み中の夏期講習会と職場訪問

学ぶ目的は、受験や考査のためだけではなく、人生をより豊にするためのものであると考える機会とすると共に普段の授業では体験できないことを体験させることで選択科目や系列を考える機会として、一年次生全員を対象にした夏期講習を実施しました。テーマは①基礎基本の徹底②専門科目の体験③系列の基本・体験など6つあり、全教科の各教諭が任意のテーマを選び、講習内容を決め、実施しました。

夏季休業中には他に、産業社会と人間の授業の一環として職場訪問を実施しました。価値観形成以外にも社会人と接する上でのマナーを学ぶことも目的としており、電話のかけ方、挨拶の仕方、お礼状の書き方、報告書の作成なども指導しました。今年は36の事業所の協力を得て、職場見学や職業人インタビューの他、仕事を体験させてくださった企業もありました。これを機に、進路座談会や次年度以降のインターンシップ等へと発展させていく予定であります。

5 本校独自科目「人間と技術と環境」

この科目は、1年生（2単位）に設定してあります。本校には、メディア・ネットワーク、ビジネス・コミュニケーション、工業・デザイン、伝統文化・工芸、スポーツ健康の5系列があります。「人間と技術と環境」は、この5系列の基礎基本的な内容を体験的に学び生徒の進路選択につなげることを目指しています。具体的には、地域や関係機関から講師を招いて、ロボット制御・ボイストレーニング・クラフトデザイン・お茶と礼法・ヨガトレーニングの体験学習の中に人間としての在り方や関わり、技術や環境への配慮を盛り込んだ学習計画になっております。

例えば、ボイストレーニングでは、地域放送局のアナウンサーを市民講師に招きコミュニケーションスキルを高めております。また、クラフトデザインでは、地元王子の産業に注目し学校近くの「紙博物館」での学習をもとにペーパークラフトとデザインを組み合わせた作品を全員が製作し文化祭で展示し好評を得ました。



ボイストレーニングの授業

6 環境への取り組み

本校は、生徒・保護者・教職員・地域が一丸となって「地球環境にやさしい活動」を推進し、快適な循環型社会を形成して行くことを目指しています。そのためにも、一人ひとりが主体的に環境負荷低減に取り組む意識を高め、環境委員会を中心に学校全体で意識・行動改革を継続的に推し進めて行きます。具体的な取り組みとしては、「王子総合高校5R運動」を校内での合言葉とし、一人ひとりが出来ることから取り組み、環境教育を充実させて行く。また、全ての授業や学校活動において環境に関することを学び、実践して行く中で、本校から外部へ環境に対する取り組みなどの情報発信や情報交換、環境保全の呼びかけ等を積極的に進めます。さらに、近い将来、校内の環境マネジメントシステムを確立して、国際環境認証ISO14001を取得して環境に対する取り組みをより高度化して行く予定であります。

7 日本の伝統文化に触れた取り組み

本校の教育目標に「日本の伝統と文化を尊重し我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する人間に育てる」と定めた。学習5系列の1つに伝統文化・工芸系列を設け、地域における体験活動や伝統・文化の学習などを進めている。和太鼓や三味線・箏の演奏やお茶や礼法を市民講師から学んでいます。さらに、地元伝統工芸保存会との連携により、手描き友禅や陶芸を2年生以降で学習します。



地域に根付く「福祉科」の教育を目指して

東京都立野津田高等学校 福祉科主任教諭 北山 富美江

1 はじめに

東京都立野津田高等学校は昭和50年に「未見の我の発見」を教育目標の一つに掲げ、開校した。その後、平成8年に普通科でコース制を導入し、普通科3クラスと看護福祉コース1クラス、健康スポーツコース2クラスとなった。看護福祉コースでは、平成10年よりホームヘルパー3級の取得講座を開講し、その実績を踏まえ平成13年にはホームヘルパー2級の取得講座を開講し、多くの資格取得者が卒業し、介護職として就職したり、看護学校へ進学したりした。このコース制を基盤に平成18年度から、普通科、福祉科、体育科の3学科に学科の改編を行った。東京都で初めての福祉科であり、都立高校では唯一、介護福祉士の国家試験受験資格の取得できる養成課程をもつ学校である。

2 福祉科の教育目標

- ◎ 生命の尊さを真摯に学び、人間尊重の精神をしっかりと身につけ、共生の視点より社会の援助者として行動できる資質及び心を養う。
- ◎ 福祉に関する基礎的・基本的知識や技術を身につけ将来、福祉や関連領域で活躍しう力を養う。
- ◎ 知識の吸収のみならず、日常的なボランティア活動や体験的な学習などの実践的活動により援助者としての資質の向上を図るとともに、地域社会に貢献する活動を行う。
- ◎ 国民の健康の保持・増進に寄与する能力・態度を養う。
- ◎ 高齢、障がい、疾病等による様々な問題に対する援助や介護及び自立生活の実現の寄与に努める能力・態度を養う。



国際福祉機器展の見学

3 福祉科のカリキュラム

	1年	2年	3年
1	国語総合	現代文	国語表現Ⅰ
	現代社会	世界史A	日本史A
	数学Ⅰ	数学A	化学Ⅰ
	理科総合A	生物Ⅰ	生物Ⅱ
10	体育	体育	体育
	芸術Ⅰ	保健	リーディング
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	コミュニケーション技術
	情報A	家庭基礎	生活支援技術
20	社会福祉基礎	社会福祉基礎	介護過程
	介護福祉基礎	介護福祉基礎	介護総合演習
	生活支援技術	生活支援技術	介護実習
	介護総合演習	介護過程	
	介護実習	介護総合演習	
30	こころとからだの理解	介護実習	
	ホームルーム	こころとからだの理解	こころとからだの理解
35		ホームルーム	総合的な学習の時間
			ホームルーム

介護実習は夏期・冬期休業中を中心に実施している。

また、上記以外に3年間で「奉仕」1単位を履修する。

4 福祉科の授業の特徴

介護福祉士資格取得を目標にしているため、国家試験に合格するという大きな目標と高校卒業とともに介護士として現場でいかすことのできる技術をしっかりと身につけさせることが授業の重要な要素となっている。医学的な知識も必要であるため、市民講師として現役の看護師に指導をお願いしている科目もある。

多方面に渡り、具体的な経験を大切にするために次のような特徴ある授業を行っている。

「国際福祉機器展の見学」「精神科病院の見学」「特別支援学校見学及び交流会」「保育園園長先生による講演」「介護福祉施設職員による講演」「マナー

講習会」「福祉関連専門職による講演」「卒業生による講演」他等々である。

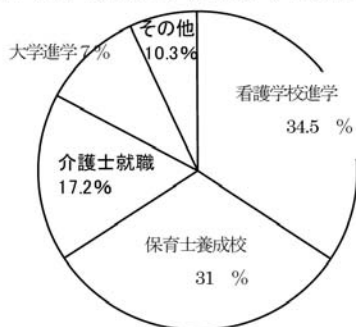
介護福祉士として人の命に向き合っていくことの重要性を具合的に学んでいくために、近隣の様々な専門家や専門機関の協力を得て、授業を展開している。



保育園園長先生による講演

5 卒業生の進路状況

平成22年度卒業生の進路状況（卒業生29名）



進学は、看護は大学、短期大学、専門学校に10名。保育士養成短期大学、専門学校9名。他の大学は社会福祉学部1名、教養学部1名。その他は歯科衛生士養成校、職業能力開発センター、栄養士養成校等にそれぞれ1名。就職者は介護職が4名、看護助手1名となっている。

進学を希望する生徒が多く、介護福祉士の資格を取得して、看護師や保育士の資格取得をめざしている。

介護職として就職していく生徒の中には、実習先にそのまま就職するケースもめずらしいことではない。

介護の学習を進めていく中で、看護を学ぶことに興味をもち、進学を希望する生徒が多いのも本科の特徴の一つである。看護学校への進学は年々、人気が高まり入試も難しくなっている。今年度は新しいカリキュラムで3学年がそろった最初の年度であり、介護福祉士の養成課程の新しいカリキュラムの中で、生徒の進路希望をいかに実現

させていくかが問われており、今後の課題の一つであると言える。

6 地域の中での産業教育

本校で平成8年にコース制を導入してから、今日まで近隣の施設や学校等到大変お世話になってきている。10年間以上、実習等でお世話になっている施設もあり、また実習先へ就職させていただいた卒業生も数多くいる。

福祉教育、殊に介護福祉士の養成課程をもつ本校では施設等での「実習」が大前提であり、近隣の協力を得られなければ存続できなかった。また、町田市を中心に多摩市、府中市、日野市、稲城市等の高齢者施設、障がい者施設、保育園、病院、学校等多くの実習先や見学先で他校の生徒では学ぶことのできない「生きた学習」を3年間積み重ねることができた。3年生は、卒業を前にこれまでの学習を振り返り、地域へ出かけて行って学んできたことの成果がいかに大きく重要であったかを実感している。人を支えることを業務とする職業教育の人から学ぶことの大切さを地域の中で学んできたことができた。

7 これからの課題

高校生が福祉を学ぶ意義は大きい。多くの命に向き合い、体験を通してその尊さを学び、命を大切にする態度とそのための知識と技術を身に付けていく。そして、その根底にあるものは自尊感情であることを知る。学校だけでなく実習やボランティア等の活動を通し、自尊心を育て、自分の周囲の人を尊ぶ心を養うことが福祉教育においては重要である。介護福祉士の重要性が増し、養成校のカリキュラムが大きく改編され、学習時間も増加してきている。今後、医療ケアの学習が増える見込みもあり、さらに授業数の増加が見込まれる。高校においては基礎学力を十分につけていくことも非常に重要であり、専門科目との学習の両立が今後の大きな課題である。

また、福祉教育は、地域の協力なくしてはなりたたない教育であり、15年、20年と地域に根付き、地域とともに成長できるよう、様々な取り組みを検討していくことが重要であると考えている。



「自動車の専門的知識技術を基盤とした 4年制カリキュラム開発」

東京工科自動車大学校校長 佐藤 康夫

1. はじめに

学校法人小山学園は、1969年に自動車整備士の養成をスタートさせ、今年で42年目となる。現在では、4校・10ジャンル・16学科の工業系総合学園となり、高い技術力と豊かな人間性を備えたプロフェッショナルの育成という学園理念の下に、産業界の求める人材の育成を行っている。

2. 幅広い自動車産業界に貢献する技術者の育成

自動車産業は日本の基幹産業であり、全就業人口の約8%(約520万人)がそこに従事しているといわれている。技術面においても自動車の安全性、効率性、経済性等を確保し環境問題に対応するため、自動車技術は日々進歩している。

自動車整備士資格は、自動車の構造機能、法令、自動車整備作業など自動車に関わる知識・技術における修得レベルを評価されている唯一の国家資格で、小山学園の自動車系3校はこの資格取得教育を基盤として、整備業だけではなく開発・設計をはじめとして用品業、保険業、チューニングなどの自動車業界の幅広い分野で活躍できる技術者の養成を行っている。

3. 1級整備士の誕生と4年制高度専門士課程

自動車の電子制御化されたシステムやその故障診断もより複雑化し、整備士に求められる技術的スキルも高くなり、ユーザーへの対応能力を含めハイレベルな整備士育成の必要性から、平成14年より新たに1級整備士試験がスタートした。

またその三年後、平成17年に文部科学省より4年制専門学校卒業者に高度専門士という称号が付与されることになり、自動車整備士養成の専門学校では2級自動車整備士と1級整備士養成の各2年間を一貫して教育するトータル4年制の高度専門士課程を設置するようになった。

当校においても、卒業生の人材目標に対し2年制の課程との教育的差を付け、大学生と同じ4年課程の高等教育機関とし企業の期待に応えられる教育を行うことが課題となった。

4. 自動車設計・開発技術者育成のための4年制

カリキュラムの開発

特に、自動車業界の中で製造部門の開発・設計・実験技術者の育成を目標としてきた世田谷校の一級課程では、科名も「1級自動車エンジニア科」として、従来大学工学部出身者で占められてきた生産部門の技術者に対し、自動車整備を学び資格を取得するという専門学校の特徴を生かした高度自動車技術者養成カリキュラムの構築を目指した。

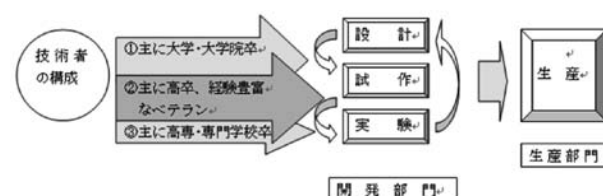
ここでは、当校が自動車メーカー各社のご協力を賜りながら平成18年度に取り組んだ文部科学省の委託研究「自動車設計・開発技術者育成のための4年制カリキュラム」の報告内容を中心に紹介する。

自動車および自動車部品の製造部門において、その開発過程で設計、試作および実験に関わる経験豊富な「ものづくり技術者」(図Aの②の階層)は、2007年以降に訪れた団塊の世代の定年により絶対的な人材不足となっている。

大学における技術者教育は、機械工学、電気工学の基礎工学などの総合的な研究が主であり、自動車の専門的かつ総合的知識を有せずに自動車メーカーに採用された後は、主に開発の設計部門に配属される(図Aの①の階層)。

一方、整備専門学校では、自動車に特化し自動車工学や構造そして整備技術まで学んでいるものの「ものづくり」を目標とした、自動車製造部門の技術者を養成するに至っていない。

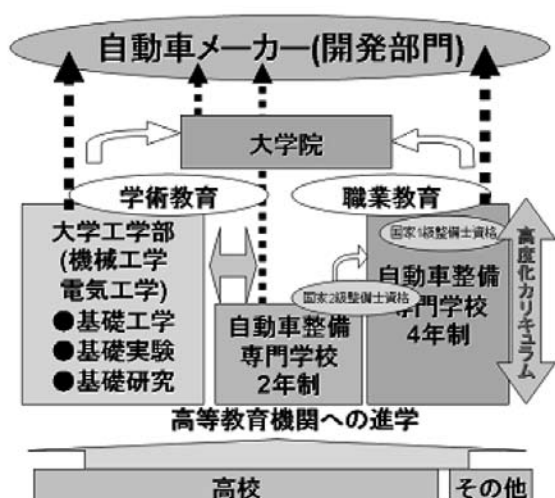
■図A



この研究は、工業系大学出身者には無い、自動車整備という自動車のコンプライアンスに基づく総合的な技術・知識をベースとして、実験開発の職種に必要な専門技術を4年間トータルのカリキ

ュラムに盛り込み、社会の要請に応えた新しい人材育成のためのカリキュラム開発を目的とした。(図B参照)

■図B



5. 企業ニーズ調査によるスキル標準の作成

まず、自動車メーカー・自動車部品メーカーの人材開発部署に対しヒアリングを実施し、自動車の開発・設計技術者として携わるために必要な知識・技術について調査し、職務内容との関係を明らかにするとともに、仕事と知識・技術修得におけるスキル標準の三本柱を整理した。

- ① テクニカル・スキル(技術的能力)
 - ・工学的基礎知識(4力学)・基礎的数学知識
- ② コンセプチュアル・スキル(職業人意識、問題解決能力)
 - ・ビジネスマナー、責任と自覚・目標達成に対する考え方や手法(P-D-C-A)
- ③ ヒューマン・スキル(人間関係構築能力)
 - ・積極性、行動力、チャレンジ精神 ・プレゼンテーション能力 ・英会話能力

6. 整備士教育を基盤とした独自カリキュラムの作成

スキル標準を基にして従来の整備士養成プログラムとのギャップを明確にし、それを埋めるべく生産部門技術者(実験・開発)養成の一貫した4年制の独自カリキュラムの作成を行った。自動車整備専門学校においては国土交通省の基準に基づき2級課程で1800時間1級課程で1800時間(50分単位)の専門的な教育内容を実施することが必要となっており、一般に大学工学部で行っている教育カリキュラムを別途追加することは不可能であった。

したがって、できる限り従来の整備士養成の教

育をベースとしてカリキュラムの中身を工夫することが必要となった。その要点を整理すると下記の項目となる。

- ①工学的知識については、豊富な自動車教材を活用しその仕組みや原理を実践的に分かりやすく理解するカリキュラムを作り上げる。(例:自動車のエンジン性能測定→熱力学(熱サイクル等))
- ②問題解決能力については単一科目での教育は困難であり、日々の授業や、行事、就職活動など、様々なテーマで、PDCAを意識した長期的な段階的な目標を持つプログラムを用意する。
- ③卒業研究は当校が今まで培ってきた「研究セミナー」という実践的な課題研究授業をプロジェクト型にして運営することを導入。
- ④英会話能力の教育も不可欠であるとの認識から短期集中ではなく段階的に修得できるカリキュラムを考えることとした。



写真 豊富な車両教材・実験教材による実習

このような観点で、教材等の実習環境や仕事に通じる臨場感ある整備士教育の優位性を生かした4年制のカリキュラムを作り上げ、履修システムの整備と合わせて教育の質の向上に努めている。現在は将来自動車業界の開発技術者をめざし、実践的な教育を求める若者が入学してきている。

7. まとめ

専門学校イコール資格という時代は過ぎ、中身の時代に入った。高い資格取得合格率は当然のことであるが、尚且つ企業や社会が必要とする業界の将来を担う卒業生を輩出するため、高度専門士課程4年制のアピールとともに特徴ある教育内容をどのように作り上げ、大学と比較した特徴や優位性をどのように構築し示してゆくか、しいては学生たちが夢を持って専門を学び、活躍するフィールドを広げるためにも今後の取り組みを続けてゆかなくてはならない。



実践教育のこれから

～シミュレーション授業の意義～

東京誠心調理師専門学校 学校長 広瀬 道

1. 本校のねらい

本校は、最新の環境（厨房や校舎）の中でフードビジネス界に役に立つ調理師、及びパティシエを育成しています。特に調理師科2年次では、1年次で習得した基本技術、衛生観念、マネジメント知識を活かし、一般のお客様を招いての学生が運営するレストランシミュレーションを実施。これは、高度な専門調理技術と食品安全マネジメント、レストランマネジメントが実践できる経営センスを兼ね備えた、時代に即応する調理の専門職を養成することを目的としています。

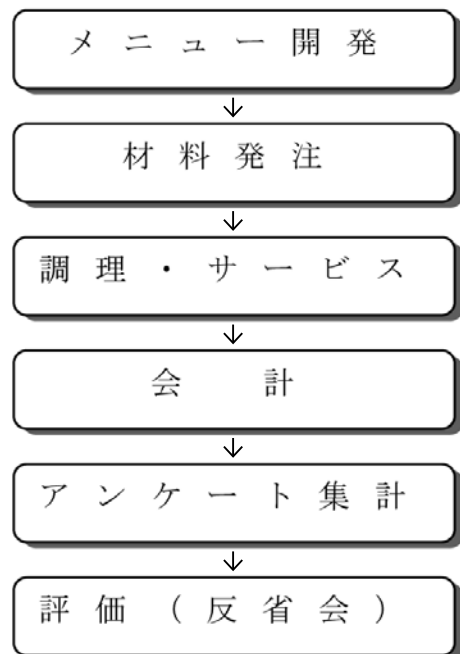
この授業はISO22000/FSMSの規格に準拠した食品安全管理手順の習得から、メニュー計画（レシピ・食材発注・在庫管理）、オペレーション計画（ホール・キッチン）、広報計画（集客告知）までを役割分担し、準備から運営、結果分析をOJT、OFFJT方式で実施し、よりリアリティーある実践的な人材育成を実現しています。

2. 運営

本校でのレストランシミュレーションは、ただ単に一般のお客様を対象として収益を上げることを目的としている訳ではなく、あくまで教育の一環として実施をしています。

アルバイトなどの経験では、厨房担当であれば調理することのみですし、サービスであれば、オーダーから配膳会計と、セクションに応じてぶつ切れになったスキルを習得するしかありません。

本校では下記の様なシステムにより、レストラン運営を一連の流れとしてトータルに会得することが出来るようになりました。



3. 評価と効果

本校におけるレストランシミュレーションは、ただ単に学生にレストランの一連の流れを理解させるだけでなく、毎回毎回外部からお越しになるお客様にアンケートという形で評価をしていただくことで、毎日試験をしております。

ある一定基準に到達しない場合は改めてレストランを開き、再試験という形でお客様に基準ラインでのご満足をいただけるようにしております。

現在は、比較的基本的なアンケート項目になっていますが、今後更に細かな評価項目を検討しております。

<アンケート項目紹介>

1) 料理

味、量、温度を5段階評価。

2) サービス

席への案内、注文の受け方、料理提供までの時間、応対や言葉使い、店内の清掃状況、店内の雰囲気などを料理同様5段階評価。

また、本校のレストランシミュレーションでは、大田区内において提携している契約農家で、学生自らが収穫した野菜を使用しメニューに取り込むことによって、地場の新鮮な味をお客様に提供しております。



料理

4. 今後に向けて

本校では、人（調理師、パティシエ）を育てることが、現場での生産性を上げることだと考えています。その為には、学校や職場での環境は、最も大切な要因であります。

特に調理師専門学校では、調理師や製菓衛生師等国家資格を付与する教育施設において、指定されたカリキュラムがある為に、どの施設でも同じ技能やライセンスが身につくと勘違いしているケースが見受けられます。

同じライセンスを持ちながらも生じるスキルや意識の違いは、学んできた施設によるものと考えています。例えば本校では、調理師専門学校初のISO22000を2009年に取得し、食品管理の観点からも衛生教育に力を入れております。

調理師のスキルは、調理技術の向上、食品管理の徹底などあげればきりがありませんが、こうしたことをトータルに身につけられる点で、専門学校におけるレストランシミュレーションは、大きな意味があります。しかしながら現在の厚生労働省の指導には、このような授業を良しとしていないところにまた、大きな問題があると思われるます。



持続可能なよりよい社会、生活をめざす技術・家庭科教育 ～ 東京都技術・家庭科研究会（家庭分野）の研究を通して ～

昭島市立清泉中学校長 小谷野 茂美

1 持続可能な社会の実現に向けて

3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の被害をもたらしました。心よりお見舞い申し上げます。この大きな災害の中、避難所で生活していた青年が「技術・家庭科って役に立つよね。」と漏らしたという話を人伝てに聞き、一筋の光を見た思いがいたしました。

折しも、平成24年度は新学習指導要領完全実施の年を迎えます。平成20年1月中央教育審議会の答申において示された技術・家庭科の改善の基本方針では、持続可能な社会の構築のための視点も指摘されました。

平成23年11月には、全日中技術・家庭科研究大会全国大会が東京で開かれ、来年度からの指導に関する研究発表がなされました。ここでは、家庭分野に関する東京都の研究内容の概要について触れてみたいと思います。

2 各内容（A～D）の研究から、それぞれ代表的な事例を一つずつ以下に紹介します。

（1）「A 家族・家庭と子どもの成長」分科会

内容Aは、中学校での学習を充実させるためのガイダンス的内容の充実を目指しました。現行の指導でも、中学校の最初の授業では、小学校の復習やこれから学ぶ3年間の授業の概要に触れてはいますが、今回、この設定が明確に示されたことで、3年間の家庭分野の学習が、家庭分野内での系統性も含めてまとまりをもった一つの単位として膨らませることができるようになったことは特筆すべきことです。

さて、1学年の最初の1～2単位時間の指導が家庭分野の全てのスタートにつながるということを生徒自身に実感させるためには、この指導に効果的なガイダンスシートが重要であると考え、A～Dまでの内容を概括出来るシートの開発を工夫をしました。家庭分野として指導のまとまりが実感出来るよう、各内容の学習が終わる毎に、その内容のポイントが書き込めるスペースを空けておくことにしました。また、3学年の家庭分野の最後の学習に、再度このガイダンスシートを登場させ、3年間で何を学び、これからどのような暮らし方（生き方）を目指すのかを将来を見据えて見通すことができるようにしました。一枚のガイダンスシートを生徒が中学校3年間の学びの道標や将来にわたる道標となるように工夫したことで、新学習指導要領の実践に役立つ研究となりました。

（2）「B 食生活と自立」分科会

食生活の授業は、生徒の興味・関心が高い内容の一つです。しかし、実際は、調理実習は好きだけれど栄養の話や献立作成は苦手という生徒もいます。食育という大きな視点で捉えると、生徒の食生活の自立は、これからの国民全体の心身の健康にも及ぶ重要な指導であることが分かります。そこで今回は、指導計画の工夫に焦点を当ててみました。「栄養→食品→献立→調理」の従来のサイクルを見直し、まず、地域で生産される野菜の調理実験で体験的な活動を組み、地域の特性と食文化を学んだ上で、肉→加工食品→魚、と段階的に題材を配列し、そのどの段階でも実験や実習を

体験させてから栄養的な特質を学ぶサイクルで構成しました。また、この進め方は、単に、野菜の次は肉という考え方ではなく、野菜+肉で調理が可能になるようなスモールステップを設け、最終的に一日分の食事を整える力が育つように工夫したものです。

このように、従来から指導している題材も、その配列を工夫し、地域の特性を活用することで、生徒の興味や関心を持続させつつ、自らの食生活を営む力を確実に育んでいくことができることが分かりました。

また、指導計画の工夫は、題材の配列だけでなく、指導方法の工夫や教具の開発も重要な事です。学習全体を構築する指導計画の作成は、当たり前のように思われがちであるだけに、初心に戻り、学習のねらいや生徒の実態に即した指導の展開が図れるよう十分吟味したいものです。

(3)「C 衣生活・住生活と自立」分科会

新学習指導要領では、衣生活と住生活をまとめて生活と自立について言及しています。その真意は何なのでしょう。

「衣は衣」「住は住」の考え方は、学習としては成り立ちますが、実際の生活では、ここまでの衣生活の実習としての製作で、その先の出来上がったものは住生活といふに都合良くできるものではありません。それをそのままにしておくと、学校での学習と実生活の乖離が起こり始めます。今回それを生じさせないために、衣と住の融合を図った生活とその自立が求められているのです。

この研究の特徴は、衣も住も人間を中心に据え、人間を取り巻く環境として捉えることが出来ることに着目し、指導計画作成の基本的な考え方は、すべて人間を取り巻く環境としての視点を大切にしたことでした。衣と住の基本的な学習から応用・発展的な学習にいたる段階の全てで、衣と住を一緒の題材で捉え、具体的に指導しています。

また、それに付随した教材や教具の開発も研究していますが、その基は、人間を取り巻く環境としての衣と住の役割を見失うことなく作成した指導計画の基本がその根幹を成すといえるのではないのでしょうか。

(4)「D 身近な消費生活と環境」分科会

中央教育審議会の改善の具体的事項に、消費・環境に関する学習は、他の内容との関連を明確にし、中学生の消費生活の変化を踏まえた学習であることが示されています。

そこで、「関連」をキーワードに、指導計画を綿密に作成しました。小学校の指導内容A～Dが中学校の指導内容A～Dとどのように結び付くのか。また、中学校で学ぶ内容Dは、内容A～Cとどのような関連が図られるのかを具体的な題材を提案しながら進めていったものです。

どの題材も、内容Dが内容A～Cと関連するポイントを捉え、最終的には、かしこい消費者の基本と我が家の環境リーダーへのチャレンジで結んでいます。この内容は、教え込むだけなら座学で終わってしまいます。しかし、それでは実践的・体験的な学習をとおして目標に迫るという本教科の特質が薄れます。内容Dだけでは構成しきれない指導計画を「他との関連を図って・・・」という基本に適切に対応することで、内容Dそのものについても十分な深まりをみるものであると痛感いたしました。

3 基本に戻る大切さを感じて

研究は、どの分科会も多くの内容で構成されています。今回はその一部しかお伝え出来ませんが、どの分科会の研究内容も新学習指導要領に示された指導内容を適切に実施するために、その基本はしっかりとした指導計画の構築にあると示唆しているように思いました。基本を大切に、日々努力したいと感じる日々です。



生活産業を担う将来のスペシャリストの育成

～家庭に関する学科の取組～

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 金澤 正美

1 家庭に関する学科の設置状況

都立高校には家政科、食物科、服飾科、生活デザイン科、生活科学科の家庭に関する学科を設置する学校が7校ある。

家政科は、都立町田高校のほか、農業科との併合科として島しょ地区に3校ある。島しょの3校は、島の生活文化を活かし、地域に根付いた教育活動を展開している。食物科は、都立農業高校にあり、調理師養成校として卒業と同時に調理師免許が取得できる。町田高校については、平成23年度をもって閉科となり、来年度から家庭に関する学科をもつ都立高校は、6校となる。

家庭に関する学科で学ぶ生徒は、「生活産業における将来のスペシャリスト」を目指し、専門教科「家庭」に関する学習のほか、家庭科技術検定をはじめ各種資格取得に挑戦するなど、目的意識をもって意欲的に学習活動に取り組み、個々の進路実現を目指している。

2 新学習指導要領における専門教科「家庭」の改善事項

平成21年3月に告示された新学習指導要領における専門教科「家庭」では、次のような改善が図られた。

- (1) 衣食住、ヒューマンサービスなどに関わる生活産業の各分野で職業人として必要とされる資質や能力を育成する。
- (2) 生活文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を育成する。
- (3) 生活産業を取り巻く諸課題を倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る能

力と態度を育てる。

以上の内容から、専門教科「家庭」においては生活産業における将来のスペシャリストに必要な資質や能力の育成がより一層明確に示された。また、少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化、食育の推進など社会の要請に対応し、衣食住及びヒューマンサービスなどに関わる生活産業への消費者ニーズの的確な把握や必要なサービス提供を行う企画力・マネジメント能力の育成も重視されている。

3 専門科目「生活産業基礎」の学び

家庭科として、どのような職業人を育成するのかを科目として示したのが「生活産業基礎」である。この科目は、家庭に関する学科の必修修科目に位置付けられており、低学年で学習する科目になっている。各都立高校が学校の教育目標と特色を生かしながら、創意工夫して取り組んでいる。この科目の学習を通して、生活産業に関する職業について理解を深め、卒業後の進路に向けて生徒の意識を深めていく。

以下に、各校の取組について一部紹介する。

【都立大島高等学校（家政科）】

- ・大島郷土資料館の見学及び伝統工芸「ソーメン絞り」の研究家による講話等から生活の変化と生活産業について理解を深める。
- ・保健所を見学し、公衆衛生に関わる専門職について理解を深める。
- ・社会福祉法人「大島藤倉学園」を見学し、福祉祭のボランティア活動を行い、大島町の福祉の現状と課題を知る。

【都立三宅高等学校（家政科）】

- ・福祉施設を見学し、ヒューマンサービスに関わる職業人にインタビューを行い、福祉祭で発表する。
- ・給食センターを見学し、栄養士、食品衛生監視員など食に関わる職業人にインタビューを行う。
- ・三宅島最古の茅葺民家を見学し、民家を守って暮らしている方の講話を聞き、住生活に関する職業について考える。
- ・三宅島の伝統織物「三宅丹後」の織手の方の講話を聞き、衣生活に関する職業について考える。

【都立八丈高校（家政科）】

- ・幼い頃から暮らしている八丈島の産業構造を考え、日本の社会構造の変化について理解する。
- ・職業とその職業に必要な資格について考え、資格取得に挑戦する。
- ・将来の夢、自己の適性について考えるとともに、職業と生活産業についてまとめ、発表する。

【都立農業高校（食物科・服飾科）】

○ 食物科

- ・食生活に関連する職業について研究・分析し、食産業の現状を把握する。
- ・全国高等学校家庭科食物調理技術検定に取り組み、専門知識と技術の向上を図る。

○ 服飾科

- ・ファッションマーケティング、ファッションマーチャンダイジングについて学ぶ。
- ・クリーニング工場を見学し、実際の現場について理解を深める。
- ・ファッションビジネス能力検定に取り組み、専門知識と技術の向上を図る。

【都立瑞穂農芸高校（生活デザイン科）】

- ・生活産業における職業調べを行い、3年次でも活用できるように冊子にまとめる。
- ・上級学校訪問を行い、報告会を行う。

【都立忍岡高校（生活科学科）】

- ・進路実現のための学習プランを作成する。
- ・生活産業体験として、商品企画と店舗研究、学校行事における模擬店経営体験を行う。

4 学んだことを実生活に活用する力を育む「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」

家庭科の学習内容の一つに「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」がある。「ホームプロジェクト」は、家庭科で学んだことを生かし、家族・家庭のために、家庭生活における問題点を改善し、家庭生活をより良く向上させるための実践活動である。「学校家庭クラブ活動」は、家庭科で学んだことを生かし、グループや学校単位で学校や地域の生活の充実向上を目指した実践活動である。

生徒が実践してきた「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」の発表の場として毎年夏に、「全国高等学校家庭クラブ研究発表大会」が開催されている。今年も7月28日（木）・29日（金）に、第59回同研究発表大会が山梨県で開催された。

大会1日目に行われた「ホームプロジェクト」の研究発表では、関東ブロックを代表して、都立忍岡高校生活科学科2年の寺内友里佳さんが、「栄養も見た目もばっちりキャラ弁」と題した実践活動について発表した。キャラクター弁当の栄養素の充足率が低いことから、使用する食品の数を増やし、栄養素の充足率を満たす弁当作りを行った。また、「ホームプロジェクト」を通して将来の進路について明確な目標ができたことにも触れていた。

「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」は、問題解決能力を高める学習活動として、新学習指導要領においても学習活動の充実が求められている。家庭に関する学科においては、専門科目を通して様々な生活課題を切り口に 取り組むことができる。生徒の確かな知識と技術を活用した創造性豊かな取組に期待したい。

東京の産業界



教科書と産業教育と共に歩んで 70 年

— 専門教育を支える教科書作り —

実教出版株式会社 代表取締役社長 戸塚 雄 式

< 小社の沿革 >

小社は昭和 16 年（1941 年）に実業学校専門科目の教科書発行を目的とする実業教科書株式会社として創立されました。戦後の混乱期を経て昭和 25 年（1950 年）に実教出版株式会社に社名を変更した後、実業教科書以外に普通科教育の教科書、中学校教科書なども発行して参りました。この 70 年の間には生徒数の大幅な増大と減少、教科書無償措置法の施行を始めとした各種の教育関連の法整備、幾度もの学習指導要領の改定など、様々な状況変化の影響を強く受け、発行教科書の種類も大きく変遷してきました。

現在、教科書については高等学校のみを発行しております。発行している教科書は普通教育と専門教育（主として職業教育関連）の 2 分野に分かれ、普通教育では地理歴史科・公民科・数学科・理科・情報科・家庭科、専門教育では農業科・工業科・商業科・水産科・家庭科・情報科・福祉科・看護科の広範囲に亘っております。高等学校における教科書の発行点数は、各発行会社中で最も多い 197 点に及びます。

これらの教科書以外にも補助教材として問題集類・資料集類・参考書類など様々な生徒用の教材図書や、指導用のビデオ DVD、パソコンソフト類などデジタル媒体による商品もあり、今後もこうした新しい分野に注力する必要があると考えています。特に長年取り組んで参りました実業教科書作りを通じて、日本の産業教育にささやかながらではありますが、一定の貢献をすることができたのは、会社創立の趣旨に沿ったものであり、誇りにしているところでございます。

< 生涯学習・職業教育への貢献 >

現在では高等学校以外にも、大学・短大、専門学校などの各学校段階におけるテキスト・学習教材や理工図書・商経図書・情報図書などの専門書・一般書など教育関連図書を出版しております。また、職業に役立つ技術書や各種資格検定用の学習書なども並行して出版しております。

高等学校から社会人までの「生涯学習」の一端を担い、「教育・学習に貢献する」ことを理念として出版活動を展開しています。

高校生から大学生、あるいは社会人（職業人）としてそれぞれ成長する段階で求められる人間の「知性・知識」と「技術・経験」など、様々な分野での新しい知見や、わかりやすい学習材料を提供することが小社の使命であり、目的でもあります。

< 教科書に寄せる思い >

ここでは、小社の出版ジャンルの大きな柱である高等学校分野を取り上げ、具体的に説明いたします。

高等学校の普通教育においては「基礎・基本から大学受験まで」の様々な教科書・教材を発行する一方、職業人を目指す専門教育の各分野（農業科・工業科・商業科・水産科・情報科・家庭科・福祉科・看護科）においては、専門知識・技術を記載した教科書・教材などの幅広い発行をしており、知識教育と職業教育の両面に貢献するバランスのとれた出版活動を繰り広げて参りました。

特に職業人育成のための教科書は、戦後から現在に到るまでの日本の農業・工業・商業などの産

業界で活躍されてきた方々にとって、大切な教科書として重宝されてきました。

「ものづくり」日本を支えてきた種々の卓越した技術を持つ企業の方々にとって、工業高校で技術・知識の基礎・基本をしっかり学んだ生徒さんは、貴重な人材として受け入れられていると思います。

また、これからの社会に合った情報処理技術や会計知識、ビジネス知識を身につけた生徒さんに期待する企業も数多くあります。

多様な分野に活躍の場を求めて出発する生徒さんの傍らにあって、学習の教材として活用される教科書。社会に出た後にも、学びの拠り所の一つになっている教科書は、共に学んだ旧友のように頼りになる存在です。

「知性と生きる力」と言いますが、ひとは自分らしく生きるために必要な力を獲得し、職業に就き、自らを向上させる。このような過程を通して自己実現に成功し、社会への貢献を果たしていくこととなります。それには自己啓発のための学習・研鑽を生涯にわたり進めていくことが大切です。こうした意志を持って活躍されている方々のお役に立つ出版事業こそが、小社の求め続けているものです。

<これからの出版事業について>

今後も、数多くの教科にわたる高等学校教科書を発行していく事業展開には大きな変更はありませんが、職業教育に関連する専門科目の教科書に関しては、産業界の要請する新しい人材作りの一助となるべく、最新の実情をできるだけ盛り込むよう、内容の改善を積極的に進めていきます。

一方で IT 技術の進展とともに、教育環境が大きく変わろうとしています。小・中学校のみならず、高等学校や大学まで教育の ICT 化にむけて様々な取り組みが始まっております。

コンピュータを効果的に活用して、より理解を進められるよう工夫した授業が求められておりま

す。社会ではすでにスマートフォン（多機能携帯電話）やタブレット端末など各種のインターネット端末が出回っており、高校生にも広く浸透しつつあります。

新しい時代の生活様式・情報選択・学習方法などのすべてが最良というわけではありませんが、教科書の中にも時代を反映させる教材を扱う必要が常に生じています。

新しい教科書に対応した「電子黒板用デジタル教科書」などをはじめとして、デジタル指導教材が開発され、教育現場に提供されていく状況がやってきました。

さらに、教材のデジタル化により、e ラーニングなど新しい教育・学習方法も広まってきました。先生・生徒・教室・黒板という授業風景が少しずつ変貌していくのでしょうか。そうした時代の教科書・教育のありようを見通した事業展開を、心がけていかねばなりません。

また、電子書籍の伸張にともない、デジタルコンテンツの利用・許諾に関する権利問題も喫緊の課題として浮かび上がってきております。新しい概念に基づいた著作権法の環境整備も急がれている状況です。新たな学習方法やビジネスモデルの構築を急ぎながら、「知と科学技術」の進展がもたらす、新しい社会に相応しい出版物や学習教材の開発に取り組んでいきます。

こうした社会環境のなかで常に「人の教育・学習を支える」ことを理念に据えながら、小社の創立の原点である職業科目と深く関わる、産業教育振興にできる限りの協力を尽くしていきたいと考えています。

最後になりましたが、平素より小社の専門科目（職業科）教科書をご利用いただいております先生方に、厚く御礼申し上げます。

今後も厳しいご意見・ご指導をたまわりながら、教科書・教材の内容改善を進めていく所存ですので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



当社ならではのものづくり、 想いのこもった CSR 活動を推進

戸田建設株式会社 代表取締役社長 井上 舜三

～はじめに～

昨年3月の東日本大震災の発生から1年が経ちましたが、亡くなられた方々に衷心よりお悔みを申し上げますとともに、被災された皆さまに謹んでお見舞いを申し上げます。

震災後、私が被災地を訪れた時の惨状は、言葉では言い表せないものでした。建設物も半分以上が倒壊し、杭が根こそぎ引き抜かれていたり、破断したものもありました。また、津波によって電車が丘の上まで流されたり、船が屋根の上に乗っていたりするような話を伺うと、人智が及ばない力の強大さに震撼させられるばかりでした。

一方、私たちは震災を通じて得たことを教訓にして、これからの未来を創造していかなくてはなりません。当社は建物や社会インフラの整備を担うものの責任として、一日もはやい被災地の復興に向けて、引き続き全力で取り組んでいきます。

～建設業とは、人と人とのかかわり～

1881年(明治14年)に、初代・戸田利兵衛が「戸田方」と称して請負業を始めてから130年。その間、当社は社会とともに歩み、「建設を通じて社会福祉の増進に貢献する」を経営方針に掲げて、安心・安全で、快適な社会の構築に向けた事業活動を続けてきました。

私が常々申し上げている言葉のひとつに「建設業とは人と人とのかかわり」があります。建設物をつくるということは、発注者はもとより、エンドユーザーや地域の方々、協力会社、当社各部門の社員など、多くの人の関与があり、その関係の中で建設物がつくられていきます。同時に、こう

した人々が建設物や当社に寄せる想いもさまざまですので、私たちはそれら一つひとつを真摯に受け止め、日々、行動していく必要があります。たくさんの想いをつなぎ、気持ちをひとつにして取り組むことで、真に価値あるものをつくり上げていくことができます。

～建設物のライフサイクルへの対応を強化～

当社の事業活動の主体は「人」です。社員一人ひとりがプロセス重視の姿勢を貫き、想いのこもった事業活動を着実に推進していくことで、社会的責任を果たしていきます。また、建設物のライフサイクルを通じ、品質や環境の分野において、より高い価値を提供するべく研鑽を重ね、社会から信頼され、期待される企業として成長を続けていきたいと考えています。

現在、当社では2009年に策定した「環境アクションプラン」に基づき、建設物のライフサイクルの各フェーズでの取り組みを推進しています。そのひとつとして、建設作業所における施工段階において、施工高1億円当たりのCO₂排出量を2020年までに1990年比40%削減を目標に取り組んでいます。これに対して、2010年度は約26.6%削減し、概ね順調に推移していると認識しています。しかしながら、今後に向けてさらなる削減努力を重ねていかなくてはなりません。そのためには、建設物のライフサイクルの各フェーズで、環境への配慮をベースに、お客さまにとって必要な技術やサービスを提供していくことが、ますます重要になってくると考えています。

～当社独自の CSR 活動を推進～

CSR の本質は「社会から何を求められ、何をすべきか」を考え、実行することにあります。そして、当社にとって CSR とは企業理念の実践そのものであり、企業としての持続的成長を図る上で最も重要な考え方となります。これが理想とする会社像「働きがいがあって、元気で明るく、堂々として、品格のある会社」に凝縮されているというのが私の考えであり、このビジョン実現のためのプロセスや取り組み課題を、大きく 4 つに分けて整理しています。

【堅実・公正への想い】

- ・堅実・公正な活動を支える経営基盤を充実させる

【ものづくりへの想い】

- ・ものづくりを通して社会の発展に貢献する

【働きがいへの想い】

- ・働きがいのある「場」をつくり出す

【コミュニケーションへの想い】

- ・元気で明るい対応、コミュニケーションを促進する

また、「人がつくる。人でつくる。」は当社のブランドメッセージです。先にも述べましたように、真に価値のあるものは、人と人との信頼関係の中から生まれてきます。言い換えれば、企業の成長や信頼性は、それを構成する人の成長、信頼性の総体であると考えています。当社は、このブランドメッセージを役員・社員の行動基準とし、一人ひとりがレベルアップを果たしていくことで、当社ならではのものづくり、想いのこもった CSR 活動を推進していきます。

～おわりに～

建設業は、人々が生活していくために必要な社会資本を整備し、社会的財産を創造していく、社会性、公共性が高い産業です。私たちは、事業に

対する誇りとともに、安心・安全で、快適な社会の構築に貢献するという使命感をもって活動していかなくてはならないと認識しています。今回の東日本大震災を経験して私が感じたことは、ステークホルダーの皆さまが当社に求めるものの中で最も基本的で大切なことは、建設物の品質や安全性を高めていくこと、つまり「ものづくりの強化」です。こうした認識のもと、今後も戸田建設らしさの根幹を外すことなく革新を続け、お客さまの心を捉える“真の営業力”をもって存在感を示していきます。

今後とも、皆さまとのコミュニケーションをさらに深め、さまざまな取り組みを進めていきます。皆さまには忌憚のないご意見をお寄せいただくとともに、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



情報スクエア



第9回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長
中央区立佃中学校長

加藤 譲司

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学校に通う生徒が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、ものづくりの意義を理解するとともに、互いの創造性を伸ばす場として開催している。その概要は、以下のとおりである。

1. 主催 東京都中学校技術・家庭科研究会

2. 後援 東京都教育委員会

東京都産業教育振興会

東京都中学校長会

毎日新聞社

3. 日時 平成23年11月26日(土)

4. 場所 東京都立工芸高等学校

女子栄養大学(食部門)

5. 対象者 都内中学校に通学する中学生

6. 内容

(1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト

ト東京地区予選(授業内部門・応用部門)

(2) めざせ!!「木工の技」チャンピオン東京地区予選

(3)「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選

(4)「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選

(5) 生徒作品コンクール東京地区予選

(6) 東京都中学校ロボットコンテスト(二足歩行ロボット格闘部門)

7 開催へ向けて

創造ものづくりフェア in TOKYO も9回を数え各中学校に定着したのではないか。毎年ながら

会場校の校長先生をはじめ諸先生方には多大なるご理解とご支援をいただいていた開催である。そして開催会場を東京都立工芸高等学校へ移して、早3年目の実施となる。その実績と経験を生かし会場への機材の搬入等の準備が順調に進められた。また作品展の事前搬入や当日の会場準備にも会場校のご協力をいただきながら、開催へ向けての準備を進めた。残念ながら昨年度は食部門との同時開催ができなかったが、今年度は女子栄養大学のご配慮により同日に開催することができた。



生徒作品展示会場

生徒作品コンクールは、昨年度より「公立学校美術展覧会」の会場から作品を工芸高等学校へ

搬送できるよう進めた。その結果、当日持参も含めて各地区から相当数の作品が出品されている。

開催のスタッフは、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部員を中心に工芸高校会場35名、女子栄養大学会場で25名の体制で準備を進めた。

8. 開催結果

今年の参加生徒数は、見学の保護者を含めると両会場併せて1,000名を超えた。その内訳と各部門の内容は次のとおりである。

<関東甲信越大会に向けての予選大会>

授業内部門の競技会場



○「創造 アイディアロボットコンテスト」の授業内部門：17.5 時間程度の技術・家庭科の授業で

の取り組みを想定して、モーター 3 個まで使用したロボットでゴミをかき集める早さを競う 1 対 1 の競技。6 7 名の生徒が参加。応用部門：モーター 4 個まで使用した大型のロボットで、垂直の壁のピンに置いたピンポン玉とゴルフボールを所定の場所に移す早さを競う 1 対 1 の競技。5 4 名が参加した。

○決められた木工具を正しく使用し、寸法通り正確に作品を製作

木材を加工中の生徒



する「木工の技チャンピオン」には各地区から選ばれた 1 5 名が参加。

○「生徒作品コンクール」には、各地区で選ばれた技術分野と家庭分野で、合計 6 7 作品の出品があった。

○「あなたのためのおべんとうコンクール」は、



「お弁当コンクール東京」地区予選（女子栄養大）

レポートと写真の審査応募が 1 4 2 チーム 4 2 7 名。当日の本大会は 2 0 チーム 5 6 名が参加した。

○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール東京地区予



選」では事前選考の 3 校 6 名の参加であった。

<東京都ロボットコンテスト> モーター 2 個

◇東京都独自として実施したロボットコンテストは、格闘型のロボットが主流になっている。

「格闘部門（団体戦）」は、9 0 0 mm×9 0 0 mm のリングで 1 チーム 3 台（先鋒、中堅、大将）の 2 足歩行ロボット同士が戦う競技である。2 勝した方が勝ちになる。引き分けの場合は代表戦で勝負を決める。4 6 チーム 1 3 6 台が参加した。

また、「格闘部門（個人戦）」では 4 1 チームの参加により競い合った。

9. 成果と課題

ものづくりフェア in TOKYO 全体としては、参加生徒もここ数年一定数おり、東京都の中学生の技術・家庭科に対する関心・意欲を喚起し、関係諸機関等の本教科に対する認識を深められたと捉えている。しかし、部門によっては、昨年度比で多少の減少傾向にある。その背景には新指導要領の完全実施を来年にひかえ、標準授業時数としての選択授業が段階的に削減され消滅することも要因の一つと考えられる。今後各校においては少ない授業時数の中で、取り組む実習や授業内容を工夫改善していくこととなる。都中技家研としても、来年度のものづくりフェアに向けて、様々な条件を見直し、生徒一人ひとりにとって、更に魅力的な課題設定をすることにより、ものづくりへの興味・関心・意欲を高めていきたい。家庭科部門のおべんとうコンクールでは、昨年同等の参加チーム数で、男子チームも含め活発に実施できた。

開催会場の東京都立工芸高等学校、女子栄養大学、また東京都教育委員会をはじめ東京都産業教育振興会、東京都中学校長会、毎日新聞社から表彰状をいただいたことも、フェアの盛り上がりと充実に結びついており感謝申し上げる。



Chance 新たな出会い

～全国産業教育フェアに参加して～

東京都立忍岡高等学校 主任教諭 佐藤 真紀子

1. はじめに -

第21回全国産業教育フェア鹿児島大会が、平成23年12月16～17日にかごしま県民交流センターをメイン会場として開催されました。「実践発表」「作品展示」「エコクッキングコンテスト」「ロボット競技大会」「学校生産物の展示・即売」「実習船の体験乗船」等、様々な展示・発表・体験・コンテストがブースに分かれて実施され、当日は小学生から大人まで多くの人で賑わっていました。

開催内容の一つに「意見・体験発表」という部門があります。これは、専門高校で学ぶ高校生が、日頃の学習で学んだことについて、意見や体験を発表するもので、全国の農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉に関する各学科から1代表と開催地代表の計9発表が実施されます。本校の生徒が家庭部門の代表として発表をする事となり、大変有意義な体験をしてきたので、ご報告します。

2. 本校生徒の取り組み

本校生活科学科では、1年次の夏休みに「ホームプロジェクト」という課題を出しています。ホームプロジェクトとは、自分の生活の中から課題を発見し、その解決をはかるという問題解決型学習です。今回代表となった生徒は、子どものころから好きだった「キャラクター弁当（キャラ弁）」をテーマに選び、キャラ弁は子どもに人気があるが、栄養価はどうなのだろう？というクリティカルな視点を加えて、「栄養も見た目もばっちりキャラ弁」というテーマで研究を実施しました。

その研究内容は、「自作キャラ弁や市販レシピ本の栄養分析した所、カルシウム、鉄が少なく、脂質、塩分が多く、現代の日本人の抱える食生活の問題と重なっていたため、問題点の改善ポイントをまとめた。また、研究結果を友達に伝えるため、クラス内でキャラ弁を作ってきてもらうイベントを実施した。研究を通して、将来栄養士になりたいという気持ちが強くなった。」というものです。

研究内容を分かりやすく原稿にまとめ、発表用のスライドを作成し、発表時にコンピュータ操作をしてくれるクラスメイトとともに、ストップウォッチ片手に何度も練習を繰り返していました。

3. 意見・体験発表の部

そうして迎えた発表当日、始めに9つの発表が行われ、本校生徒も落ち着いて発表をすることが出来、達成感を味わったようでした。



発表の様子

研究内容だけでなく、大阪市立都島工業が「卒業時8割が皆勤です。」と発表していたことも印象的でした。高校最大のキューボラがある学校だそ

うですが、皆勤者 8 割だからこその授業内容であり、産業界からの卒業生への信頼だと、生徒も私も感心しました。

その後、発表者 9 名が壇上に並び、「意見交流会」が実施されました。「苦労したことは?」「将来の夢は?」といった司会からの質問に、順に答えていき、最後には会場との質疑応答もありました。「質問も出ないような発表はつまらない」「質問することが発表者への最大の賛辞」などと言いますが、大人でも、大勢の前で質問をするというのは勇気のいることです。会場運営校である指宿商業高校の生徒さんが「弁当男子になりたいと思うのですが、どうしたら上手く作れますか?」「チョウザメってどうしてチョウザメっていうのですか?」などと質問して会場を和やかなムードにし、本当に「いい仕事してるなぁ!」と感心しました。



意見交流会の様子

最後に表彰式があり、「広がれつながれ江戸野菜」と題して江戸東京野菜の復興について発表した都立園芸高校の 2 年生が優秀賞を受賞し、同じ東京から参加した者としても、とても嬉しかったです。

4. 大会参加を通して

家庭科の展示や発表には、ぜひ文化祭や学校説明会の参考にしたいものが数多くありました。生徒たちは来年度取り組む課題研究のテーマに興味津々でした。

他学科の発表では、都立蔵前工業の課題研究の地震の避難場所となるようなランドマークの提案、徳島県立城西高校の栽培から始める阿波藍についての展示、北海道立倶知安農業の校内で栽培しているじゃがいも全品種展示（65 種!）など、対象は同一でも家庭科とは異なる切り口に、生徒たちは同一学科内の発表にはない刺激を受けた模様でした。

もっと見たかったという余韻を残した帰路にて、大会の感想を生徒に聞きました。

「授業を休んで遅れてしまうのが嫌だったけれど、休んだ甲斐があった。」「知っていることをすべてつぎ込んだ発表は薄い。面白い発表をする人は、質問に次から次に答えていて、どれだけ深く研究したんだろうと思った。」「成功だけが研究の結果じゃなくて、失敗も大事な結果だとわかった。」などと、次々に答えていました。

「成功だけが・・・」は私がいつも言っていたことでした。でも、生徒は初めて知った事のように言っていました。「課題研究でチョウザメの排卵について研究したが、上手く行かなかった。しかし、先輩の研究への想いを知り、後を引き継ぎたい後輩が出たことから、自分がしてきたことは意味があり、研究は一人では成功しないことを学んだ」という栃木県立馬頭高校水産科 3 年生の発表に深く感じてのことだったようです。生徒同士が学びあうこと、身近な他者からの刺激を受けることの重要性をあらためて感じました。

学校に戻ってから、HR で参加報告をしました。「来年の課題研究に向けてがんばろう!」という空気がクラス内で高まっています。

今大会のキーコンセプトは「Chance Choice Challenge」で、一つ目の Chance には“新たな出会い”という意味が込められていました。まさに本校生徒にとっては、同一学科内の大会で受けるのとは又異なる刺激を受け、新たな出会いのあった大会でした。



農業クラブ全国大会のプロジェクト発表会へ 東京都で初めて出場

東京都立瑞穂農芸高等学校 教諭 小笠原 直樹

1 はじめに

本校畜産科学科は、都内で唯一畜産について学ぶことのできる学科で、将来畜産業に携わりたいことを夢見て、片道2時間以上の通学時間をかけて登校する生徒も多数在籍しています。そして60年以上の長きにわたり畜産従事者を全国に輩出してきました。今回、東京都では初めてとなる農業クラブ全国大会プロジェクト発表会出場は、動物飼育を通して実体験を尊重する本学科の特色が発揮された結果であるといえます。

2 農業クラブ活動への取り組み

農業クラブとは全国の農業高校生が加盟する組織で、日頃の農業に関する研究や活動の成果を発表するプロジェクト発表会、農業に関する知識量を競う農業鑑定競技など、日頃の農業学習の成果を競う大会などを開催しています。本校畜産科学科では、この農業クラブ各種競技への参加を、専門性を深化させる重要な方策の一つと位置づけ、教科指導に積極的に取り入れています。今年度の都連盟大会では11部門中7部門で最優秀に選ばれるなどの実績を残しています。

3 今回のプロジェクト内容

町田市で養鶏を営む父の跡を継ぐことを夢見る生徒とその友人たちが、都市というメリットを最大限に活かした養鶏経営モデルを確立することで、衰退する東京の畜産業を活性化したいと、様々な研究に取り組んできました。そして、国産にこだわったブランド卵の開発や、新しい鶏種の育成、食品廃棄物などを活用した飼料費削減実験などに学校で取り組み、その成果を養鶏業を営む生徒の自宅で実践し、1年間の経営試験を行ったところ約300万円の利益増加に繋がりました。このような3年間の活動と実験結果を写真やグラフなどを交え10分間にまとめてパソコン、プロジェクターを用いて発表しました。

4 指導にあたって

全国大会に出場するという目標の下、3年間で結果が見込める研究計画を十分な話し合いを行い

立案しました。プロジェクトを進める上で生徒の自主性を最優先するとともに、科学的で適切な実験が行われるよう指導に努めました。この研究は、命ある鶏を題材に行うことから365日休むことなく世話をしなくてはなりません。したがって、生徒達が休日返上で研究に取り組めるよう環境作りに物心両面から支援しました。



(全国大会での発表の様子)

5 まとめ

プロジェクト活動は、生徒の専門性を高めるとともに、仲間との濃密な活動を通して人間的にも大きく成長することのできる貴重な場でもあります。さらに、今回の全国大会出場が社会的にも評価され、「畜産を通して社会に貢献できる」という大きな自信へとつながったようです。これからも生徒の自主性を大切に、農業クラブ活動を通して社会に貢献できる人材の育成に努めていきます。



(プロジェクトに取り組む6人と飼育する鶏)

さんフェア鹿児島2011

第21回 全国産業教育フェア鹿児島大会

「夢や希望をのせて 活火山よりも熱くなれ」

第21回全国産業教育フェア鹿児島大会（さんフェア鹿児島2011）が、平成23年12月16日（金）と17日（土）の両日に渡り、かごしま県民交流センターをメイン会場に、総合センター体育館、ドルフィンポートなど、鹿児島県内の各会場で開催されました。

メイン会場では、県立鹿屋農業高等学校和太鼓部の、迫力ある和太鼓演奏による歓迎アトラクションに続き、生徒実行委員会の司会進行のもとに華やかに総合開会式が挙行されました。

まずは都道府県旗の入場、続いて、大会会長、文部科学省、鹿児島県知事、鹿児島市長の挨拶がありました。

祝辞、歓迎の言葉に続き、この鹿児島大会に関する「キャッチコピーの部」「ポスター原画の部」「マスコットデザインの部」「イメージソングの部」の表彰がありました。

さらに、オープニングアトラクションとして、鹿児島女子高等学校音楽部と県立松陽高等学校音楽科によるすばらしい大合唱があり、開会式典は終了しました。

開会式典や記念講演などと平行して、メイン会場内では、全国の専門高校生の作品等の展示やファッションショー、意見・体験発表など、産業教育のエネルギーが溢れる様々なイベントが賑やかに行われました。

作品展示には都立蔵前工業高等学校、都立芝商業高等学校、都立荒川商業高等学校が東京から参加しました。

また、二階中ホールで行われた専門高校の生徒による意見・体験発表には、全国より選ばれた各学科の代表が参加し、東京からも2校が参加しました。（生）

都立園芸高等学校と都立忍岡高等学校がそれぞれ「広がれつながれ江戸野菜」、「栄養も見た目もばっちりキャラ弁」と題した発表をし、どの発表も素晴らしく審査員を悩ます中、園芸高校は優秀賞、忍岡高校は奨励賞の表彰を受けました。



和太鼓演奏



都道府県旗入場



優秀賞の表彰

第53回 全国産業教育振興大会 (鹿児島大会)

開催 平成23年12月16日(金) 15:30～17:00

会場 鹿児島県歴史資料センター黎明館 講堂

第53回全国産業教育振興大会は12月16日(金)鹿児島県歴史資料センター黎明館講堂で多くの関係者を集めて開催されました。

開会の辞、国歌斉唱、あいさつに続いて、尚古集成館副館長の松尾千歳氏による「薩摩藩の近代化事業について」の講演がありました。

薩摩藩は江戸や大阪から遠く離れた文化の遅れた地域という印象を持つ人が多いかも知れないが、実は19世紀西欧列強の進出の中、薩摩藩の近代化事業が日本の工業をはじめ多くの産業の発展に大きな役割を果たし、日本は近代国家樹立を成し遂げたという内容のものでした。

講演後、全国産業教育振興会連絡協議会の西澤宏繁理事長(東京都産業教育振興会会長)が議長となって、大会決議文の協議がなされ、大会決議案が満場一致で採択されました。

最後に岡山県産業教育振興会長から次期開催県代表として挨拶があり閉会となりました。(生)



決 議 文

第53回全国産業教育振興大会(鹿児島大会)

東日本大震災において被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉の専門学科を置く専門高校等では、多くの有為な職業人を育成・輩出し、我が国の産業・経済のみならず、社会の発展に多大な貢献をしてきたところである。

しかしながら、近年の高等学校の再編では、普通科志向が進む中、専門高校等の統廃合や縮減が行われている。

専門高校等における専門的職業人の育成(18歳位までの適時性を考慮)は、産業構造等の変化や社会の進展に関わらず、我が国の経済発展のためには益々必要と

されるものであり、専門高校・産業教育についての一般社会等への理解促進の啓発や、専門高校等の整備充実への国及び地方公共団体における一層の取組が重要となってくる。

全国産業教育振興会連絡協議会は、専門高校等の生徒による第21回全国産業教育フェア鹿児島大会にあわせ、ここに、教育界と産業界が連携し、第53回全国産業教育振興大会を開催し、専門高校・産業教育の一層の充実に全力を傾け、次の事項の実現に向け取り組むことを表明する。

- 一、東日本大震災で被災した専門高校等の施設・設備の早急な整備及び被災地域における就職希望者の就業機会の確保を図る。
- 一、地域自主戦略交付金の積極的活用を図るとともに、「産業教育振興法」を踏まえた国の積極的な取組による実習施設・設備の整備を図る。
- 一、企業等における長期インターンシップ（就業体験）を積極的に推進し、社会人としての規範意識やコミュニケーション能力など、実践的能力の育成をめざす専門教育の充実を図る。
- 一、専門高校等生徒の専門性向上のための教職員定数改善、教職員の研修機会の確保及び専門教育担当教員養成の充実を図る。
- 一、専門高校等卒業生の就業機会の確保や、未就職卒業者の救済措置支援及び専門高校等の特性を踏まえた推薦入試等多様な入学者選抜の実施、大学入試センター試験での専門教科・科目の導入と拡大を図る。
- 一、専門高校専攻科（2年課程）修了者（看護師、海技士等の国家資格取得者等）の高等教育機関への編入学及び準学士等の称号付与の早期制度化を図る。
- 一、全国産業教育フェアなどの充実・推進及び専門高校等生徒の修学支援策（実験実習、教科書等の保護者の教育費負担軽減）の充実を図る。

以上、決議する。

平成23年12月16日

報 告

平成23年度 総会・功労企業表彰 報告

平成23年度総会・功労企業表彰及び講演会が6月17日(金)午後2時から、BIZ新宿(新宿区立産業会館)・多目的ホールにおいて開催されました。

来賓として(財)産業教育振興中央会専務理事の中山淑廣様、東京都公立高等学校長協会会長の丹藤 浩様(都立竹早高等学校長)、東京都公立中学校長会副会長の岩立 平様(江戸川区立小岩第五中学校長)をお迎えしました。

開会にあたり、西澤会長から「都産振は、産業界、各学校、都教委の三者が協力して職業関連教育の充実を図ろうとする組織である。普通科偏重の世ですが、地道に産業教育を推進して行きたい。この度の大震災の影響で、日本の産業界がどのように復活していくか、世界の注目を集めている。またこのことに関して産業教育は非常に大変な局面にきていると思う。都教委も被災県に教員を派遣するなど頑張っている姿勢が見られる。当会も会報・会誌や生徒の作文コンクールを通じて、活動を推進していきたいと思う。この総会で忌憚のないご意見等を頂き、会の充実に寄与していきたい。本日はどうぞよろしく。」との挨拶がありました。



挨拶する西澤会長

引き続き、常任理事の直原都立学校教育部長からは次のような挨拶がありました。

「本会は、これまで半世紀以上にわたる活動を通じて、大きな成果を挙げてきた。都教委は新しいタイプの学校の設置を計画的に進め、とりわけ産業教育では、科学技術の進歩・産業構造の変化・国際化や情報化等の進展に対応するため、

「科学技術高校」「産業高校」「ビジネスコミュニケーション科」など、専門高校を設置し、都民の多様なニーズに応えてきた。さらに、学校が企業と連携して生徒を育成するデュアルシステムを複数の工業高校に拡大していく。この度の東日本大震災では、産業界も教育界も大きな打撃を受けたが、復興に向け努力するとともに、これを教訓として、震災に負けない強い町づくり、人づくりを進めていく必要がある。本日の総会でご意見・ご指導をいただきたい。」

次に、西澤会長を議長として、事務局から6議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案どおり承認されました(承認議案は会員企業・学校等に配布済み)。

本年度の役員のみ紹介いたします。

会 長	西澤 宏繁(留任)
副会長	久保村昭衛(留任)
同	金子 昌男(留任)
同	小林 薫(新任)
	(東京都立北豊島工業高等学校長)
理事長	大原 正行(留任)
常任理事	直原 裕(留任)
同	藤本 龍夫(新任)

(都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長)

総会終了後、産業界会員功労者(永年会員)の表彰が行われました。

本年度の表彰企業は次の2社です。

(株)エイコー(葛飾区・土屋 英一会長 出席)
(株)東京都民銀行(港区・佐藤 元信参与 出席)

西澤会長から各社に感謝状と記念品が手渡されました。また2社の受賞者から企業の紹介と感謝の意が述べられました。



授賞後挨拶する佐藤氏(左)と土屋氏(右)



講演会・講演要旨 「能力の向上に限界なし」

－本人のやる気と指導力－

講師 岩間 辰志 氏

元・サッポロホールディングス(株) 取締役社長

ただいまご紹介いただきました岩間です。先日、本会副会長の久保村さんから「講演をして欲しい」というお話を頂きました。適任ではないのではと申し上げたのですが、お引き受けすることになりました。今日は、幾らかでも参考になればと思って、お話を致します。

東京都の産業教育を振り返ってみたいと思います。東京は、巨大都市です。全ての面で飛び抜けた最上位の立場にあります。この成長の歴史の中で、商業高校・工業高校などの産業教育が地域発展の歴史に如何に大きな力になったか計り知れない事に、改めて思い至ります。

私も、サッポロホールディングスも、その歴史と共に、密接に関わってきたと思います。サッポロビールの前身は、明治9年の創業の北海道開拓使ビールです。日本人技術者による初めてのビール会社です。また、エビスビールは、当初から現在の恵比寿に設立されて駅名もビール名から生まれたものです。明治時代に、合併して、大日本麦酒となり、東京の産業史と共に大きな関わりを持ってきました。

今回、「東京の産業教育」や「東京の産業と教育」それから「作文コンクール」等を、拝読させて頂きました。皆さんが非常に重要な教育をされており、高い評価を受けていいと思います。作文についても、生徒の夢や仕事観など、読んでいて目頭がジーンとくるものがありました。皆さんが本当に職業教育、産業教育に力を注いでいらっしゃることに、心から感謝と敬意を表したいと思います。

1 自己形成 －お天道様が見ている－

「自己形成」についてですが、私の出身は信州佐久です。北に浅間山があり、時々大噴火をしました。夜でしたから、山稜を真っ赤な溶岩が走り下り、昼ですと巨大な噴煙がもうもうと上がりました。また村を流れる千曲川・湯川が氾濫して農地が失われる現場も見ました。その恐怖は言い尽

くし得ませんでした。そんな中から、自然に対する畏敬の念も生まれましたし、どうしても自分の手の負えないものがあることも学びました。謙虚さのようなものが、子供の頃から自然に身についたように思います。

そして、母からはいつも「お天道様が見ているよ」と言われました。「正直にやりなさいよ。陰ひなたなくやりなさいよ」「今やるべきことを、しっかりやりなさいよ」と同義語と受け取りました。言い聞かせるべきことは全て「お天道様が見ているよ」という言葉に象徴されていたのです。

2 社会の変化 －万事塞翁が馬－

世の中は、実に面白いと思います。人の転機はいろいろやって来ます。社会の変化もまた同じです。「万事塞翁（さいおう）が馬」と言いますが、その時々には助けられた事も沢山あります。私は、農家の子ですが、長野工業高校へ行こうと一旦は決めました。ですが、中学の先生の進言で、あっさりとは一番近くの普通高校へ行ってしまったのです。

大学受験のときも某私立大学の英文科に特待生で受かりました。でも、東京の大学に合格したのに、教養課程2年を分校に行くように言われました。で、入学しませんでした。予備校もないのに浪人して『チャタレイ夫人の恋人』や『武器よさらば』を、原書で読んでいました。こんなことで5教科の国立はあきらめて早稲田に入り、4年間を過ごします。ちょっとまじめに勉強はしたと思います。

そして就職は知人の勧めで、サッポロビールを受験し、受かりました。任地は第二希望の大阪でした。サッポロビールは西日本で弱く希望者がなかったのです。赴任した途端に、「今年は、変わった新入社員がいる。大阪を希望して来た」と言われたものです。

1年半、私は内勤で、そろばんを使って不遇と言われる物流部門で働きました。これが、後に大変役に立つのです。1年半後神戸へ営業マンとし

て転出します。神戸営業所で、私は14年間勤務します。同期入社の中で転勤が最後の人になりました。兵庫県は、他社はそれぞれ工場があり、サッポロは全国で一番シェアが低い県でした。兵庫県内は、くまなく担当しました。この間上司は4人代わり、仕事は任されていました。その後東京の銀座も受け持つ「花の一課」と言われた課の次席として転勤しました。神戸でコツコツやっていたような仕事を東京でも始めます。

3 企業の現場から 一企業の盛衰30年ー

「企業の盛衰のもととは一体どこにあるのか」と考えますと、30年が、一区切り、1ジェネレーションと言えます。「いい会社だから、行きたい」と就職しても、ずっといいとは限りません。1世代30年は、なかなか続かないのです。また、好業績の時に人が育つわけでもありません。人材については、「2・6・2の原則」があると言われます。2割は優秀、6割はまあ普通で、あとの2割は劣等という分析です。優秀な人を集めても、全員が優秀になるわけでもありません。「2対6対2」に分かれて行くと言うわけです。従って、この6割をどれだけ数多く戦力化するかが大切です。

また、企業は人が構成するものです。大波も小波も来ます。それに耐えられる組織になっていることが大切です。その基本的にいい人材が必要なのです。どこの企業も人材育成を懸命にやっています。期待するような人材は、なかなか育たないからです。いい人材を育成することが、企業の盛衰を左右するからです。従って企業も懸命に、企業内教育をしています。けれども、なかなか思うように、人は育ちません。従いまして、学生時代から、人材として育つ「ベース」を作ってやって欲しいのです。それが後の人生に非常に大きな力になってくるのではないかと、痛切に思っています。

4 志と実行力

私は、上役から「うるさい」と言われたことが、しばしばです。上役とやり合いも時々ありました。社長から「支社長からロジスティクス(物流)部長になるのは面白くないだろう」と言われました。「いや、別に、私は、任された仕事はちゃんとやりますから、ご心配なく」と言いました。これは低く見られていた部門への異動ですから、先がないと見られていた部署だったからです。こ

れが「2回目OB」です。神戸に14年いたときが1回目のOBです。『週刊文春』

度 東京都産業教育振



に書かれました。読んだ人からは逆に面白がって、「岩間さんは、2回OBしたのか」と、よく言われました。

会社の業績が悪くなり、私がロジスティクス部長を3年で、取締役になり、5か月後、社長から「営業に戻れ、営業本部長をやれ」と言われます。断っても既に決められていました。3か月たったら、「常務にする」と言われます。また断ったのですが「つべこべ言わないで、とにかくやれ」と。翌年、取締役1年半で社長になるわけです。前社長が日経ビジネスの取材の中で、「火中のクリを拾う選択をさせた」と書かれました。いわゆる再建社長です。末席取締役から社長になったようなものですが、私は、全ての責任を自分が取る決意をして、仕事に邁進しました。5年半社長をやって、会長はせず、平取締役半年、取締役相談役1年、合計7年で退任しました。この間、「とにかく健全な会社にして引き継ぐか、うまく行かなければ自分が全責任を取って退任するか、二者択一」と思って事に当たりました。社長在任5年目、業績も回復し、過去最高の経常利益となりました。

「組織は、やはり生き物です」、生き物は新陳代謝が必要です。また、組織の構成要員が人という生き物です。新陳代謝をし、新しい考え方を入れる必要があるのです。「変えるべきものを変える勇気」と「変えられないものを受け入れる潔さ」という、二つの判断を持てたのが良かったと思います。

また「覚悟というのは、全て自己責任」だと言う事です。また、「継続は力なり」です。「やってみようということを忍耐強く継続する」ことです。

先生方をお願いしたいのは、学生たちに本当にいい人生を過ごすための「ベース」を作ってやっていただきたいということです。

ご清聴どうもありがとうございました。

平成 23 年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

平成 23 年度(財)産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」に対する表彰式を平成 23 年 1 月 21 日に都庁第二本庁舎 3 1 階の特別会議室で行いました。

表彰式では、久保村昭衛副会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。副会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して直原裕教育庁都立学校教育部長から祝辞がありました。続いて(財)産業教育振興中央会中山淑廣専務理事、丹藤浩東京都公立高等学校長協会長、三町章東京都中学校長会長の 3 名のご来賓の方々からご祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立六郷工科高等学校工藤邦敏校長から謝辞が述べられました。

表彰式の出席者は、御下賜金記念産業教育功労者 17 名中 10 名、中学校技術・家庭科功労者 8 名中 7 名でした。

受賞者は次の方々です。

I 御下賜金記念産業教育功労者

(敬称略・順不同)

東京都立六郷工科高等学校	校 長	工 藤 邦 敏
東京都立北豊島工業高等学校	校 長	小 林 薫
東京都立農芸高等学校	主幹教諭	高 橋 元 幸
東京都立蔵前工業高等学校	主幹教諭	大 橋 正 俊
東京都立瑞穂農芸高等学校	主幹教諭	宮 島 幸 夫
東京都立六郷工科高等学校	主任教諭	國 分 輝 雄
東京都立蔵前工業高等学校	主任教諭	鈴 木 啓 之
東京都立八丈高等学校	主任教諭	三 井 和 彦
東京都立六郷工科高等学校	教 諭	小 川 俊 彦
東京都立三宅高等学校	教 諭	森 誠
東京都立多摩工業高等学校	嘱託員	水 上 英 二
東京都立瑞穂農芸高等学校	実習助手	池和田 泰 三
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	向 山 一 男
東京都立産業技術高等専門学校	副 校 長	田 原 正 夫
安田学園高等学校	教 諭	根 岸 宏 明
安田学園高等学校	書 記	本 間 信 行
安田学園高等学校	書 記	小 川 克 己

II 中学校技術・家庭科教育功労者

葛飾区立一之台中学校	校 長	高 橋 亨
八王子市立みなみ野中学校	校 長	樋 口 忍
昭島市立清泉中学校	校 長	小谷野 茂 美
武蔵村山市立第五中学校	校 長	白 戸 一 範
世田谷区立弦巻中学校	主幹教諭	一 倉 博 史

新宿区立四谷中学校
大田区立馬込東中学校
世田谷区立東深沢中学校

主任教諭 伊 藤 江里子
主任教諭 大 内 玲 子
主任教諭 河 合 善 弘



教育功労者表彰式

平成23年度 東京都産業教育振興会後援事業

平成23年度は以下の事業に対して後援を行った。

	対 象 事 業	開催期間	実 施 場 所	参加者数
1	第27回葛飾区産業フェア ○工業・商業・観光展	10月 14日～16日	テクノプラザかつしか、 城東地域中小企業振興センター	85,000
	○農業・伝統産業展	10月 21日～23日	テクノプラザかつしか	
2	平成23年度関東地区工業高等学校長会 総会・研究協議会 東京大会	8月 18日～19日	社団法人 全国工業高等学校長 協会 工業教育会館	72
3	全国福祉高等学校長会第17回総会・研究協議会	8月 2日～4日	ホテル ザ・エルシィ町田	350
4	第11回高校生ものづくりコンテスト全国大会	11月 19日～20日	都立城東職業能力開発センター 江戸川校 外1箇所	500
5	平成23年度第18回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会	11月26日	東京都教職員研修センター	100
6	第9回創造ものづくりフェア in TOKYO	11月26日	東京都立工芸高等学校	300
7	第50回全日本中学校技術・家庭科研究大会及び第50回関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会	11月 9日～11日	大田区産業プラザ「PIO」及び 都内中学校8会場	1,726
8	第12回全国中学生創造ものづくり教育フェア	1月 21日～22日	新木場タワー、中央区立銀座中学校 及び女子栄養大学	11,000

平成 23 年度 産学懇談会

平成 23 年 11 月 11 日（金）午後 1 時から、都立忍岡高等学校において、平成 23 年度産学懇談会を実施しました。同校には、23 区内で唯一の家庭科の専門学科「生活科学科」が設置されています。

主催者挨拶の後、校内の施設見学を兼ねて、家庭科の授業参観を行いました。被服製作、調理実習など、いずれのクラスでも、生徒の皆さんが生き生きと楽しそうに学んでいる姿が印象的でした。

続いて、同校の学校概要及び生活科学科の教育課程等について、御説明いただきました。「専門教育の内容の充実を図り、将来のスペシャリストとしての基礎を培うとともに、上級学校への進学実現を支援することを目指している。」「専門学科と普通科を併設している強みと、単位制の趣旨を生かした教育課程を編成している。」「充実した設備や指導体制、資格取得につながる授業内容、大学や専門学校との積極的な連携などの特色がある。」といったお話がありました。（本誌 2～3 ページに関連記事あり。）

その後の懇談では、参加者の方々から、以下のような御意見をいただきました。

●多岐にわたる実践的な授業がなされていて素晴らしい。●服飾系、食物系いずれについても、かなり高度な内容を学んでおり、頼もしく感じた。●お茶やお花などの自由選択講座を 7 限目に設置していることがとても参考になった。●生徒たちが日本の伝統文化を楽しく学んでいる気がする。●家庭科の専門科目を少人数で学べる環境は素晴らしい。●生徒のために先生方が教材研究などにしっかり取り組んでいることがわかる。●歴史、伝統、格式といった大きな財産がよく生かされている。●専門学科と普通科が共存しているメリットを、キャリア教育の展開といった視点も含めてさらに生かしてほしい。●生徒の意欲を高めるために、積極的に地域に出て行くこともよいと思う。●大変充実した授業、経営をしている学校であると感じた。

また、以下のような議論や意見交換がなされました。

○教育内容の充実に向けた大学等関係教育機関との連携や地域貢献活動等について

●高大連携 7 年教育という発想も必要。高大連携プログラム（単位互換）を利用していくとよい。

○単位制の専門学科として、専門性を高めるためのカリキュラムの工夫等について

●家庭科では、実技の積み重ねが大切。単位制であっても、生徒全員に家庭科の各分野を幅広く学んでもらうため、1 年次では基礎的な家庭科目を必修とし、2 年次以降で多様な選択科目を設置。入学時から、生徒の目的に合わせた履修指導をしている。「体系的・総合的に学ぶ力」を伸ばすことが課題。

○就職や進学など、いわゆる出口の状況について

●卒業後すぐに就職するのは困難になってきており、特に専門性を生かせる就職先はなかなか見つからない。
●最初から就職を目的に入学する生徒は少なく、逆に、高校入学時から明確な目的や目標を持っている生徒が多い。

御参加いただいた関係者の皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、浦部校長先生、田邊先生、寶迫先生をはじめ、都立忍岡高等学校の教職員の方々の多大なる御協力に深く感謝申し上げます。（江）



平成23年度 「作文コンクール」 入選者一覧と最優秀作品

今年度の「作文コンクール」の応募者数は、中学校の部が34校155名、高等学校の部は16校97名、専修学校の部は4校18名で、総数270名でした。昨年度に比べ中学校の部は13名増加しましたが、高校の部は29名の減、専修学校の部は1名減で、全体で17名減少しました。今後も更に作文コンクールの意義等をPRし、各学校での取り組みをお願いしていく必要があります。

全作文について、各部の選考委員による第一次選考を経て、約2割の51作品が第二次選考に上がりました。第二次選考は、高校・専修の部が10月25日に、中学校の部は10月27日に行われました。厳正な選考の結果、中学校の部は、最優秀賞：1、優秀賞：3、佳作：18の計22名（約14%）、高校・専修の部からは最優秀賞：1、優秀賞：5、佳作：13の計19名（約17%）、総計41名（約15%）が入選となりました。

入選者に対する表彰式は12月19日に選考委員、本会役員、東京都教育庁管理職等の出席を得て、東京都庁第二本庁舎1階の二庁ホールにおいて行われました。（生）

入選者は以下のとおりです

中学校の部

最優秀賞	ブドウ畑からの贈り物	東京都立白鷗高等学校附属中学校	3年	小林	まりあ
優秀賞	信頼の輪	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	中澤	萌
優秀賞	働くということ	東京都立白鷗高等学校附属中学校	3年	林	日向子
優秀賞	働くということ	北区立十条富士見中学校	3年	小島	諒子
佳作	私の夢	愛国中学校	3年	土田	桂子
佳作	夢に向かって	愛国中学校	3年	山口	春花
佳作	家庭科部に入って	千代田区立神田一橋中学校	3年	前澤	温子
佳作	震災で感じたものづくり	中央区立晴海中学校	3年	山田	達也
佳作	職業の役割	東京都立白鷗高等学校附属中学校	3年	森正	琢磨
佳作	私の将来の夢	墨田区立立花中学校	3年	番場	有紀奈
佳作	職場体験で得たもの	目黒区立第八中学校	3年	笥田	有理
佳作	かつお節ロード	大田区立南六郷中学校	2年	中西	愛美
佳作	ボランティアと社会	北区立十条富士見中学校	3年	鈴木	紫央里
佳作	未来のために一貴重な三か月一	練馬区立大泉北中学校	2年	鈴木	優花
佳作	職場体験で学んだもの作り	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	入倉	美貴
佳作	人と人のために働く	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	木村	圭佑
佳作	働くことについて考えたこと	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	岩瀬	百花
佳作	様々な出会いと自分の成長	足立区立新田中学校	2年	黒田	梨沙子
佳作	技術の授業を通して学び考えたこと	葛飾区立堀切中学校	3年	武田	絵里
佳作	職場体験	葛飾区立堀切中学校	3年	斉藤	駿稀
佳作	先生という仕事を体験して	葛飾区立堀切中学校	3年	木村	友香
佳作	ボランティア活動で学んだこと	東京都立武蔵高等学校附属中学校	3年	占部	真理子

高等学校の部

最優秀賞	病院実習を通して感じたこと	愛国高等学校	3年	飯島	奏美
優秀賞	酪農体験	東京都立農産高等学校	2年	原	美優
優秀賞	存在理由	東京都立瑞穂農芸高等学校	2年	山崎	明日香
優秀賞	私が目指すこと	愛国高等学校	3年	櫻岡	恵
佳作	農産高校へ入学して	東京都立農産高等学校	1年	小川	恭祐
佳作	北豊島工業高校に入学して	東京都立北豊島工業高等学校	1年	田中	さやか
佳作	ものをつくること	東京都立科学技術高等学校	2年	伊橋	春佳
佳作	つながり	東京都立農業高等学校科	2年	城定	春奈
佳作	人を良くする食について	東京都立農産高等学校	2年	井筒	貴子
佳作	看護実習を経験して	愛国高等学校	3年	釘本	いずみ
佳作	実習のできごと	愛国高等学校	3年	野崎	恵美
佳作	実習やボランティアを通して学んだこと	蒲田女子高等学校	3年	進藤	有紀美
佳作	生命の輝きを支え続ける	東京都立科学技術高等学校	3年	染谷	美月
佳作	高校三年間で学び、今後活かしたいこと	東京都立農産高等学校	3年	田邊	智美
佳作	将来の夢	東京都立忍岡高等学校	3年	山田	希
佳作	マドレーヌから学んだこと	東京都立忍岡高等学校	3年	後藤	菜保子

専修学校の部

優秀賞	ものづくりに関する考え	青山製図専門学校	1年	大瀬	智公
優秀賞	私の進路・将来の夢	中央工学校	1年	宮岡	沙貴
佳作	実習から学んだこと	国際デュアルビジネス専門学校	1年	伊神	高志



生徒作文コンクール最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

「ブドウ畑からの贈り物」

東京都立白鷗高等学校附属中学校 3年 小林 まりあ

さんさんというよりはかんかん照りつける太陽の下、私たちは、辺り一面に広がる広いブドウ畑にいました。昨年七月、新潟県農村宿泊体験でお手伝いさせていただくことになった、農家の方のブドウ畑です。一泊二日お世話になったそこでは、ブドウ畑のブドウに、白い袋状になった紙をかけていく作業を任せられました。カゴ一杯になるまでこんもりと重ねられた紙袋が、こんなにやらなくてはならないのかと、私の気持ちを重くしました。実は私は、せっかくここまで来たのに、働かされるなんてめんどうだなあ、と、それまであまり乗り気ではなかったのです。長袖長ズボンを着て、帽子をかぶり、紙袋の入ったかごが一人ひとりに渡されたあと、作業に関する説明をしていただきました。

「まず袋の口を開いて、ブドウの実を落とさないよう、そっと下から覆っていくんだ。茎のところで、この針金を使って留めるんだよ。」

おじさんは、日に焼けた顔で、にこにこしながらそう言いました。でも、そもそも私には、この紙袋が何のためにかけられているのか全く分かりませんでした。お店に並んでいるブドウには、そんな紙袋はかかっていなかったからです。そんな私たちの疑問を感じ取ったのか、おじさんは、

「ここ最近、この辺りでもハクビシンが出るようなんだ。ブドウは、ハクビシンだけではなく鳥たちにも狙われる。ここも、それにしても、食い荒らされた跡はみんな鳥たちの仕業だ。そんな風にブドウを狙っている動物たちや、雨や風からブドウを守る。その紙袋には、そういう役割があるんだよ。」

と言いました。考えてみれば、お店に並んでいるブドウは、みんなきれいでぴかぴかしています。それは、この紙袋がブドウを守っていたからだったのです。そう思うと、今度は一転、がぜんやる気が湧いてきました。

「この作業って、全部手作業でやるしかないんですか？」

一緒に説明を受けていた友達がそう尋ねると、おじさんはちょっと得意そうな顔でうなずきました。

「もちろん、手作業だよ。毎年大変だね。こうして手伝ってもらえると、随分助かるんだ。」

それを聞いて、私は事前学習のときに調べたことを思い出しました。お店で一般的に売っている種のないブドウは、手作業で作られるのだそうです。まだ若いブドウを一房一房、薬を満たしたコップの中につけていく作業です。こんなにたくさんあるブドウに対して、そんな手作業を何度もしなくてはならないのかと、農業の大変さに改めて驚かされました。

いよいよ、私たちの作業が始まりました。ぎらぎら輝く太陽の下、同じ作業をずっと続けていきます。最初のうちは友達と和やかにおしゃべりをしながら続けていた作業ですが、作業に没頭していくうち、みな黙々と、それでいて最初よりてきぱきと進めることができるようになりました。それでも暑い中での作業はかなり辛く、汗がだらだら流れ落ちました。時には、ブドウのつるの隙間にあるセミの抜け殻に出会いぎょっとさせられることもありました。長袖を着ているのに、腕にも蚊に刺されの痕があちこちにできてしまいました。そんな時、「もういやだ、こんな作業、やめてしまいたい。」と何度も思いました。でも、「自分がやらなくては、駄目になってしまうブドウがあるかもしれない。」という使命感に背中を押され、最後まで頑張ることができました。

「こっち、一カゴ分終わったよ。」

「こっちも、こっちも。」

二日目にはそんな会話が時々交わされるようになり、何とか、東京へ帰る日までに作業を終えることができました。私たちが帰るとき、おじさんは、

「よく働いてくれて、本当に助かった。これからも毎年来てほしいくらいだよ。」

と、すごく褒めてくださいました。

東京に帰ってからも、農家に泊めていただいた二日間のことはずっと忘れられず、大変な作業をしっかりやり遂げることができたという満足感でいっぱいでした。その反面、それだけ大変な思いをした作業が、農作業全てのほんの一部分に過ぎず、それをおじさんとおばさんの二人で切りもりしているということに危惧も覚えました。東京に帰ってきたあとの事後学習で学んだことですが、日本では年々、農作業に取り組む人の数が減っているそうです。また、日本は先進国の中でも一番食料自給率が低く、「食」に関する危機感が、国内でも高まっているとのことでした。

それを聞いて、こうして私たちが、働くことの喜びと達成感を知ること。農作業に対する、そして「食」に対する興味と関心を持ち、正しい知識を身につけること。日本の「食」を取り巻く現状を知ること。それらが、この農村体験の目的だったのだと実感させられました。働くということ、そして、何かを育て、つくることの大変さと喜びを学ぶことができた、本当に貴重な体験でした。

それから二ヵ月後、私たちの元に、一箱のダンボールが届けられました。送り主の住所は新潟。箱を開けると、ふわっと甘い香りが広がりました。私たちがかけた、あの白い袋に包まれたブドウは、今まで食べたどんなブドウより甘く、美味しく感じられました。

あの農村体験から一年がたちました。あのときの喜びが忘れられず、ベランダで小さな家庭菜園をしています。ものをつくること、働くことを、楽しいと思える、そんな大人になれるようにという気持ちを込めて、毎日水やりを続けています。

高等学校の部 最優秀賞

「病院実習を通して感じたこと」

愛国高等学校 3年 飯 島 奏 美

私は、衛生看護科の三年生です。現在は、火曜日から金曜日までの週四日間、病院実習をさせて頂いています。私は今までに、総合病院、精神病院、介護老人保健施設、産婦人科病院と、計四種類の施設で実習をさせて頂きました。全部で約五ヶ月間ある実習期間の中で、総合病院では、前半・後半合わせて計十二週間と、一番長く実習をさせて頂きます。総合病院の実習では、まず初めに一人の患者様を受け持たせて頂きます。次に、受け持ち患者様の情報収集をし、どのような援助が必要なのかを考え、ケアプランを立てます。そして、患者様に対して実際に援助を実施させて頂くのです。一ヶ所の病棟での実習期間は三週間なので、一人の患者様と長い時間をかけて深く関わることが出来ます。私は、受け持ち患者様と接していく中で、多くの感動を得ることが出来ました。これから、私が総合病院での実習を通して感じたことをお話します。

ある病棟で、私は認知症のある患者様を受け持たせて頂くことになりました。私はそれまでに、認知症のある方と接した経験が一度もありませんでした。そのため、患者様と上手にコミュニケーションが取れるか、不安に感じていました。やはり、受け持ち1週間目は悩むことが多くありました。

例えば、お話をしている際に患者様が、同じことを何回もお話された時です。私は、その度に、「先程も聞きましたよ。」などと言わず、初めて聞いたかのように接する努力をしました。始めの数回は丁寧に返答していましたが、さすがに十回を超えると、対応することに疲れを感じてしまいました。いくら初めての経験だからとはいえ、患者様のことを受け止めきれていない自分に腹が立ちました。「そうなんですか。」などと相槌を打ちながらも、その時の笑顔は、引きつっていたのではないかと、後から思いました。どのような時でも患者様に対しては明るく笑顔で接しなくてはなりません。ですが、その時の私にはそれが出来ていませんでした。そのことに気付いた時、私は自分自身を情けなく感じました。

他にも、悩んだことは沢山あります。しかし、その中で最も辛いと感じたことが一つあります。それは、毎朝訪室する度に、患者様から

「あなた誰。どこから来たの。」

と言われてしまうことです。仕方がないと頭では分かっているけど、そう言われるたびに胸が苦しくなりました。ですが、その辛い気持ちは、段々と変化していきました。受け持ち2週間目に入ると、「患者様に私のことを覚えて頂けなくても構わない。忘れてしまわれてもいいから、私と一緒に過ごす時間を楽しんでいると感じて頂きたい！」と強く思うようになりました。そう思うと、自然と笑顔で患者様と接することが出来るようになりました。段々と、患者様が同じことを繰り返しお話された時の対応も、苦ではなくなりました。患者様が笑顔で楽しそうにお話されるのを見て、私自身も楽しい気持ちになれたのです。自分が笑顔になることで、患者様も笑顔にすることが出来るのだと気付きました。自分が笑顔でいることの大切さに気付いてから、私は患者様との心の距離が、ぐっと縮まったような感じがしました。

実習三週間目のある日のことです。私は、実習終了時刻の五分前頃に、患者様の所へ、いつも通りに挨拶に伺いました。

「今日も一日実習させて頂き、ありがとうございました。また明日もよろしくお願いします。」と頭を下げると、患者様はふいに、私の手を握られました。そして、

「もう帰っちゃうの。まだいいじゃない。」

とおっしゃったのです。ですが、実習終了時刻を過ぎてまでお話をする訳にはいきません。私は、患者様の手を優しく握り返し、

「明日も来ますから、明日またお話しをさせてくださいね。」

と声をかけました。すると患者様は、私の目を真っ直ぐ見つめながら、

「必ず来てね。絶対、絶対。」

と、力強く言うてくださいました。私は、嬉しさのあまり、泣き出しそうになってしまいました。必死に涙を堪えながら、私は

「必ず来ます。約束です。」

と、笑顔で言いました。患者様も笑顔を見せてくださり、病室を後にする私に、手を振ってくださいました。病院からの帰り道でも、私の胸は喜びに満ち溢れていました。「明日の朝には、患者様にとって私は“はじめまして”の存在に戻っているだろう。だがそんなことは関係ない。“もっと一緒にいたい”と思って頂けたのだから、それでいい。」私は、心から、そう思いました。

私は、実習を通して「笑顔の大切さ」を「必要とされることの喜び」を感じました。この経験と感じたことを、いつまでも忘れないようにしたいと思います。私は、いつも笑顔が絶えなくて誰からも必要とされる、そんな看護師を目指そうと思います。

平成 23 年度 作文コンクール 応募校一覧

東京都産業教育振興会

<中学校の部>

学 校 名	応募者数	入選者数
千代田区立神田一橋中学校	2	1
中央区立晴海中学校	5	1
文京区立第六中学校	8	
新宿区立落合中学校	1	
新宿区立新宿西戸山中学校	8	
墨田区立立花中学校	2	1
墨田区立両国中学校	4	
墨田区立吾嬬第一中学校	1	
目黒区立第八中学校	7	1
大田区立大森第六中学校	1	
大田区立馬込中学校	6	
大田区立南六郷中学校	6	1
世田谷区立喜多見中学校	2	
中野区立第七中学校	10	
中野区立緑野中学校	2	
杉並区立井草中学校	10	
北区十条富士見中学校	4	2
北区立浮間中学校	1	
板橋区立板橋第一中学校	1	
練馬区立大泉北中学校	1	1
練馬区立上石神井中学校	10	
練馬区立谷原中学校	2	
足立区立新田中学校	10	1
葛飾区立葛美中学校	1	
葛飾区立東金町中学校	3	
葛飾区立堀切中学校	8	3
江戸川区立葛西中学校	6	
江戸川区立小岩第四中学校	1	
江戸川区立小松川第二中学校	4	
調布市立第六中学校	2	
都立白鷗高等学校附属中学校	10	3
都立大泉高等学校附属中学校	10	4
都立武蔵高等学校附属中学校	1	1
愛 国 中 学 校	5	2
3 4 校 計	155	22

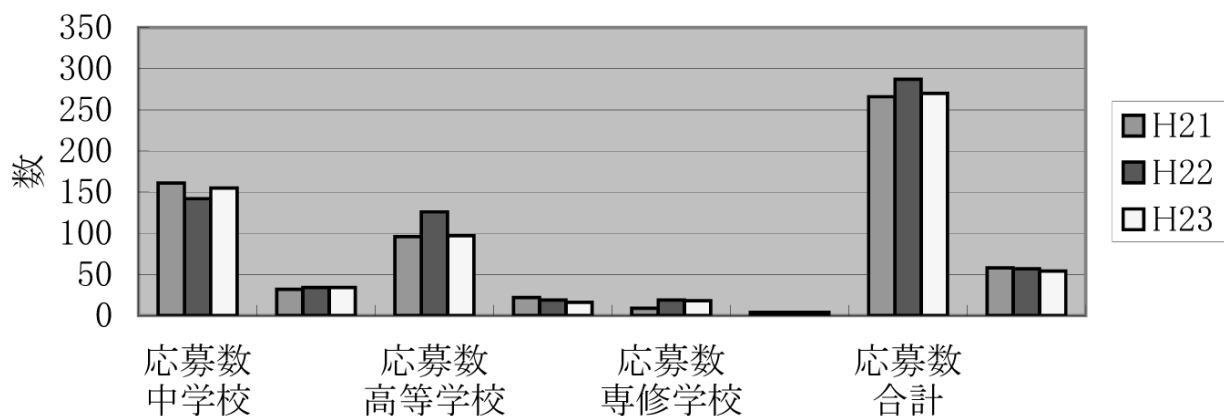
<高等学校・専修学校の部>

学 校 名	応募者数	入選者数
都立農産高等学校	9	4
都立瑞穂農芸高等学校	10	1
都立農業高等学校	10	1
都立大島高等学校	3	
都立六郷工科高等学校	1	
都立北豊島工業高等学校	1	1
都立科学技術高等学校	2	2
都立江東商業高等学校	10	
都立第五商業高等学校	2	
都立忍岡高等学校	10	2
都立町田総合高等学校	4	
都立青梅総合高等学校	2	
国際理容美容専門学校	10	
愛 国 高 等 学 校	8	4
岩 倉 高 等 学 校	5	
蒲田女子高等学校	10	1
1 6 校 計	97	16
青 山 製 図 専 門 学 校	7	1
国際デュアルビジネス専門学校	1	1
中 央 工 学 校	4	1
ホスピタリティツーリズム専門学校	6	
4 校 計	18	3
計	115	19

まとめ

校 数 (入選校数)	応募者数	入選者数
中 学 校 3 4 校 (1 3 校)	155	22
高 校 等 1 6 校 (8 校)	97	16
専修学校 4 校 (3 校)	18	3
総 計 5 4 校 (2 4 校)	270	41

応募数・応募校数の推移



	中学校		高等学校		専修学校		合計	
	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数
H21	161	32	96	22	9	4	266	58
H22	142	34	126	19	19	4	287	57
H23	155	34	97	16	18	4	270	54

応募数の変化(前年度から見た変化)

校 種	平成20年度(08)		平成21年度(09)		平成22年度(10)		平成23年度(11)		平均 応募数
	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	
中学校	205⇒151	26%減	151⇒161	7%増	161⇒142	12%減	142⇒155	9%増	152
高校	99⇒112	13%増	112⇒96	14%減	96⇒126	31%増	126⇒97	23%減	108
専修学校	20⇒19	5%減	19⇒9	53%減	9⇒19	111%増	19⇒18	5%減	16
総数	324⇒282	13%減	282⇒266	6%減	266⇒287	8%増	287⇒270	6%減	276

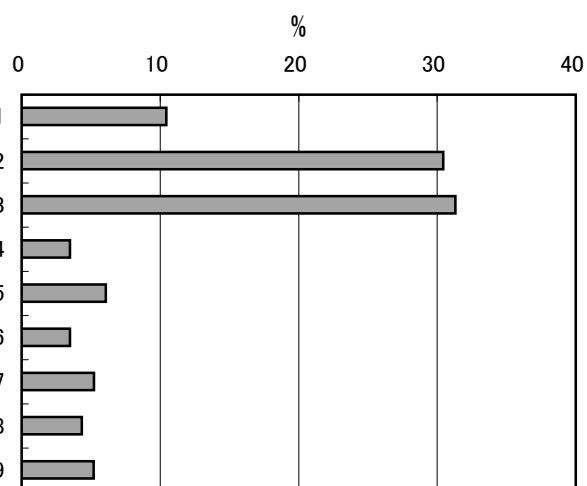
※小数点以下四捨五入のため各校種の平均の和と計の平均とは一致しない。

作文コンクール 入選数の集計

校 種	平成20年度(08)			平成21年度(09)			平成22年度(10)			平成23年度(11)			平均%
	応募数	入選数	%	応募数	入選数	%	応募数	入選数	%	応募数	入選数	%	
中学校	151	28	19	161	28	17	142	23	16	155	22	14	17%
高 校	112	29	26	96	18	19	126	20	16	97	16	17	19%
専修学校	19	5	26	9	3	33	19	3	16	18	3	17	22%
総数	282	62	22	266	49	18	287	46	16	270	41	15	18%
参考	選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			—

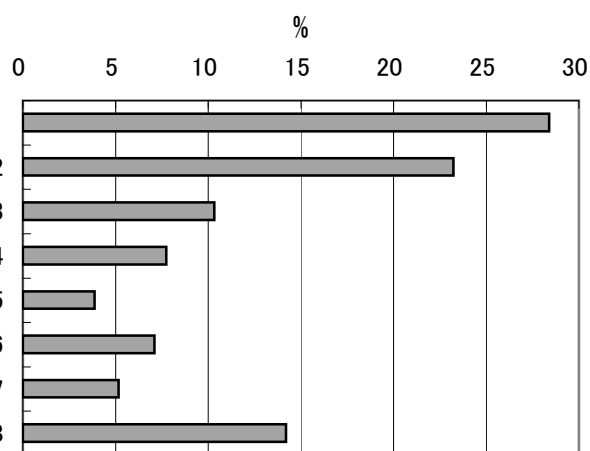
分野別応募数 高校・専修の部(本年度)

	数	%
1. 就業体験や現場実習で学べたこと	12	10.4
2. 専門教科の学習で学べたこと	35	30.4
3. 私の進路・将来の夢	36	31.3
4. 学習に対する心構え	4	3.5
5. つくることの喜び・ものづくりの喜び	7	6.1
6. 私の職業観・その他	4	3.5
7. ボランティア活動等によって学べたこと	6	5.2
8. 働くことの喜び	5	4.3
9. 私の生きがい	6	5.2
	115	100.0



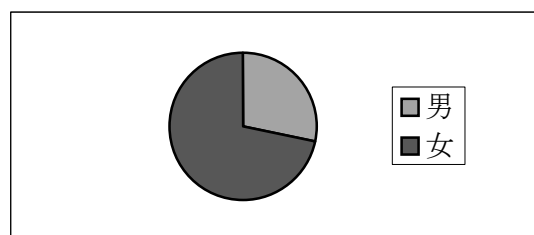
分野別応募数 中学校の部(本年度)

	数	%
1. 職場体験やボランティア活動等によって学べたこと	44	28.4
2. 私の進路・将来の夢	36	23.2
3. 技術・家庭科の授業を通して学べたこと	16	10.3
4. つくることの喜び・ものづくりの喜び	12	7.7
5. 学習に対する心構え	6	3.9
6. 私の職業観・その他	11	7.1
7. 私の生きがい	8	5.2
8. 働くことの喜び	22	14.2
	155	100.0

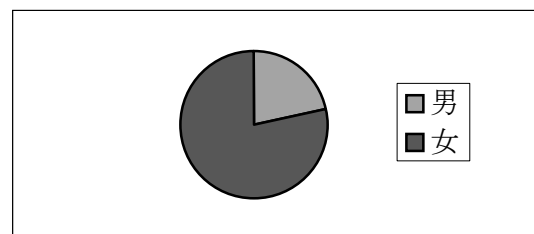


応募者の男女比(本年度)

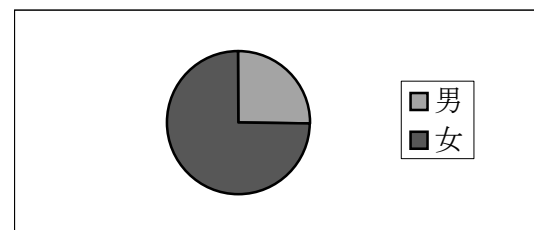
中学校	人数	男	女	計
	%	43	112	155
		27.7	70.2	100



高校・専修	人数	男	女	計
	%	25	90	115
		21.7	78.3	100



全体	人数	男	女	計
	%	68	202	270
		25.2	74.8	100



本会の概要

平成23年度 事業経過報告

(平成24年2月20日現在)

1 会計監査

4月19日(火) 午後3時から、都庁第二本庁舎28階 第三会議室を会場
常任監事及び監事2名による各種帳簿類等の監査(本会事務局長立会い)

2 理事会

5月13日(金) 午後3時から、都庁第二本庁舎31階 特別会議室23で開催

3 総会・講演会

6月17日(金) 午後2時から、BIZ 新宿(新宿区産業会館)1階 多目的ホールにて開催

○ 講演 演題 「能力の向上に限界なし」—本人のやる気と指導力—

講師 元・サッポロホールディングス(株)取締役社長 岩間辰志氏

※ 総会報告は会報第140号に、講演会報告は会報第141号に掲載し、本会誌に転載した。

(本誌 p.38～p.40)

4 委員会

(1) 企画推進委員会 9月12日(月) 都庁第二本庁舎31階 特別会議室25で開催

(2) 中学校技術・家庭教育功労者選考委員会

9月22日(木) 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催

(3) 作文選考委員会 6月23日(木) 全体会 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催

10月25日(火) 分科会(高校・専修の部) 都庁第二本庁舎28階第三会議室
で開催

10月27日(木) 分科会(中学校の部) 都庁第二本庁舎29階 第二会議室で
開催

5 振興奨励事業

(1) 教育功労者表彰: 中学校技術・家庭科教育功労者(8名)及び御下賜金記念産業教育功労者(17名)
の表彰式を11月21日(月)午後3時から都庁第二本庁舎31階・特別会議室25において挙行了た。
本会より表彰状の授与と記念品の贈呈を行い、記念撮影をした。(本誌 p.41～p.42)

(2) 研究団体助成: 産業教育関係の研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、定時制・通信制、
中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。

(3) 作文コンクール: 中学生、高校生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は270
点であった。その中から最優秀賞2名(中学校1名、高校1名)、優秀賞8名(中学校3名、高校3名、
専修学校2名)、佳作31名(中学18名、高校12名、専修学校1名)計41名の入選者を選定した。
12月19日(月)に都庁第二本庁舎1階二庁ホールにおいて「作文コンクール表彰式」を行い、賞
状と賞品を授与した。また、入選をのがした応募者全員に記念品を贈った。(本誌 p.44～p.51)

(4) 優良卒業生選奨: 優良卒業生に対し、各学校の校長を通じ、本会会長及び産業教育振興中央会会
長からの表彰状の交付及び授与を行った。

○本会会長の表彰

中学校 790名 高等学校 220名
専修学校 32名 高専・短大 16名 計 1058名

○産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校 計 117名

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認している。本年度は7団体8事業に対して後援を行った。(本誌 p.42)

6 産学交流事業

産学懇談会を11月11日(金)(午後1時～)に都立忍岡高等学校を会場として開催した。家庭学科の教育内容や産学連携等について話し合うなど、有意義な懇談会であった。参加者は会場校校長・教員のほか産業界の代表・公立・私立学校の管理職等、教育庁職員等計21名であった。懇談会終了後は、自由参加(14名)による教育懇親会を開催した。(本誌 p.43)

7 情報連絡事業

- (1) 本年度は会報「東京の産業と教育」第140号を7月13日、第141号を12月1日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第49号を3月上旬に発行し、全会員及び関係諸機関に配布する予定である。
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第22号(入選作品41編を掲載)を、3月上旬に発行し、入選者及び全会員・関係諸機関に配布する予定である。
- (4) 全国産業教育振興連絡会議・全国産業教育振興会連絡協議会役員総会が、5月27日(金)東京で開催された。本会より会長、副会長、事務局長及び会員数名が出席した。
- (5) 文部科学省・鹿児島県教委・産業教育振興中央会ほか主催の第53回全国産業教育振興大会・第21回全国産業教育フェア鹿児島大会が12月16日(金)～17日(土)、かごしま県民交流センター他4会場で開催され、本会から会長、副会長、事務局長、事務局員等が参加した。(本誌 p.35～37)
- (6) 本会のホームページを月一回更新した。
- (7) 産業教育振興中央会の実施する「産業教育改善に関する特別研究助成」また同会主催の「産業実地研修会」、「海外産業教育事情視察」等の事業について、本会からの応募者・参加希望者はなかった。

8 会員の増加運動の推進

学校会員1校(都立高校1校)及び個人会員2名が新規に加入した。

平成22年度 決算書

総収入額 ¥3,209,220
 総支出額 ¥2,504,723
 差引額 ¥704,497

[収入の部]

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要
会 費	2,568,000	2,452,000	△ 116,000	1 学校関係 1,512,000
				① 公・私立中学(今年度当初比：増減なし) 417 校 834,000
				② 都立高校 (今年度当初比：増減なし) 全 53 校 318,000 定 31 校 93,000
				③ 私立・国立高校 (今年度当初比：増減なし) 全 22 校 132,000 定 1 校 3,000
				④ 高専・短大 (今年度当初比：増減なし) 4 校 24,000
				⑤ 専修学校 (今年度当初比：1校増、1校減) 17校 18 口 108,000
				2 産業界関係 940,000
				① 企 業 67 社 (当初比：1社増、4口減) 93 口 930,000 *新規加入1社1口、23 年度分1社2口含む
				② 個 人 5 名 (当初比：1人増、1人減) 5 口 10,000 *新規加入1人1口分含 む
利子収入	961	181	△ 780	預金利息
雑収入	125,000	95,000	△ 30,000	広告料ほか
繰越金	662,039	662,039	0	前年度繰越
合 計	3,356,000	3,209,220	△ 146,780	

[支出の部]

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要
事務費	588,000	350,022	237,978	
項 目	需用費	94,000	66,150	27,850 総会資料印刷、消耗品費等
	役務費	494,000	283,872	210,128 配送費、郵便振込手数料、郵券等
	旅 費	0	0	0 全国産業教育フェア(茨城)
	会議費	48,000	24,472	23,528 理事会、総会、各種委員会
事業費	2,470,000	2,065,229	404,771	
項 目	振 興 奨励費	944,000	751,979	192,021 ①教育功労者表彰 173,620 ②研究奨励助成 125,000 ③作文表彰 341,809 ④永年会員表彰 16,680 ⑤表彰状印刷 69,090 ⑥表彰状筆耕料 25,780
				①会報発行(2回分) 256,200 ②会誌48号発行 409,500 ③作文集21号発行 436,800 ④HP更新費 204,750 ⑤全産協参加費 6,000 ⑥中央会図書費 0
	情 報 連絡費	1,516,000	1,313,250	202,750
	産 学 交流費	10,000	0	10,000 産学懇談会
	分担金	65,000	65,000	0 全国産業教育振興会連絡協議会
	予備費	185,000	0	185,000 緊急対応
	合 計	3,356,000	2,504,723	851,277

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成23年度 予 算

総収入額 ¥3,298,000

総支出額 ¥3,298,000

差 引 額 ¥0

[収入の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要
会 費	2,468,000	2,568,000	△ 100,000	1 学校関係 1,518,000 ① 公立中学校 417 校 834,000 ② 都立高校 全 54 校 324,000 定 31 校 93,000 ③ 私立・国立高校 全 22 校 132,000 定 1 校 3,000 ④ 高専・短大 4 校 24,000 ⑤ 専修学校 17 校 18 口 108,000 2 産業界関係 950,000 ① 企 業 67 社 93 口 930,000 ② 個 人 10 名 10 口 20,000
利子収入	503	961	△ 458	預金利息
雑収入	125,000	125,000	0	広告料ほか
繰越金	704,497	662,039	42,458	前年度繰越
合 計	3,298,000	3,356,000	△ 58,000	

[支出の部]

(単位：円)

科 目		本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	増△減 (A-B)	摘 要
事 務 費		600,000	588,000	12,000	
項 目	需用費	90,000	94,000	△4,000	総会資料印刷、消耗品費等
	役務費	450,000	494,000	△ 44,000	配送費、郵便振込手数料、郵券等
	旅 費	60,000	0	60,000	全国産業教育フェア（鹿児島）等
会 議 費		40,000	48,000	△ 8,000	理事会、総会、各種委員会等
事 業 費		2,468,000	2,470,000	△ 2,000	
項 目	振 興 奨励費	940,000	944,000	△ 4,000	①教育功労者表彰 230,000
					②研究奨励助成等 145,000
					③作文表彰等 410,000
					④永年会員表彰 40,000
					⑤表彰状印刷等 80,000
					⑥表彰状筆耕料 35,000
	情 報 連絡費	1,518,000	1,516,000	2,000	①会報発行(2回分) 270,000
					②会誌49号発行 550,000
					③作文集22号発行 500,000
					④HP更新費 190,000
⑤全産協参加費 6,000					
⑥中央会図書費 2,000					
産学交流費		10,000	10,000	0	産学懇談会
分 担 金		65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会
予 備 費		125,000	185,000	△60,000	緊急対応
合 計		3,298,000	3,356,000	△58,000	

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成23年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

☆印：新任

(平成23年6月17日現在)

会 長 (株)企業再生支援機構代表取締役社長

西 澤 宏 繁

副 会 長 東京デンハン(株) CEO

久保村 昭 衛

(株)カナック企画相談役

金 子 昌 男

☆都立北豊島工業高等学校長

小 林 薫

理 事 長 都教育委員会教育長

大 原 正 行

常 任 理 事 都教育庁都立学校教育部長

直 原 裕

都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長

藤 本 龍 夫

理 事 経済同友会副代表幹事・専務理事

前 原 金 一

東京商工会議所総務統括部長

橋 本 昌 道

東京経営者協会常務理事

和 栗 安 広

信川化学工業(株)取締役社長

信 川 仁 道

☆(株)日刊工業新聞社代表取締役社長

井 水 治 博

三和電気工業(株)社長

石 井 卓 爾

墨田区教育委員会教育長

久 保 孝 之

江東区教育委員会教育長

高 橋 三喜男

武蔵野市教育委員会教育長

山 上 美 弘

☆豊島区教育委員会学校運営課長

井 上 一

☆北区教育委員会学校支援課長

岡 田 弘 文

東京誠心調理師専門学校理事長

廣 瀬 喜久子

中央工学校理事長

大 森 厚

日本工業大学駒場高等学校長

大 森 和 夫

岩倉高等学校長

浅 井 千 英

安部学院高等学校長

安 部 元 彦

京北学園白山高等学校副校長

杉 原 米 和

東京都立農芸高等学校長

花 野 耕 一

東京都立北豊島工業高等学校長 (副会長兼任)

小 林 薫

東京都立芝商業高等学校長

本 多 吉 則

都立第一商業高等学校長

戸 田 勝 昭

☆東京都立忍岡高等学校長

浦 部 万里子

☆都立つばさ総合高等学校長

松野下 健

府中市立府中第二中学校長

三 浦 登

中央区立銀座中学校長

太 田 達 郎

都教育庁指導部長

高 野 敬 三

都教育庁指導部高等学校教育指導課長

宮 本 久 也

都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当)

仙 田 直 人

☆都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長

矢 野 克 典

理事・事務局長 ☆都教育庁都立学校教育部高等学校教育課計画担当係長

江 頭 正 晃

常 任 監 事 ☆都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長

高 橋 秀 幸

監 事 (有)飯吉製作所代表取締役

飯 吉 修一呂

監 事 足立区立六月中学校長

池 田 敦 彦

平成 23 年度 東京都産業教育振興会各委員会委員（敬称略・順不同）

企画推進委員会

東京都立園芸高等学校長	千 谷 順一郎
東京都立墨田工業高等学校長	松 本 光 正
東京都立第四商業高等学校長	渡 邊 淳 子
東京都立城東高等学校長	小 峯 健 治
東京都立葛飾総合高等学校長	三 田 清 一
昭和第一学園高等学校長	大神田 忠 弘
京北学園白山高等学校副校長	杉 原 米 和
東京誠心調理師専門学校副理事長	廣 瀬 道
東京都立産業技術高等専門学校長	荒 金 善 裕
中央区立佃中学校長	加 藤 讓 司
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	守 屋 文 俊
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	松 永 かおり

作文選考委員会

東京都立町田総合高等学校長	（高校・専修の部委員長）	松 井 薫
東京都立農業高等学校長		後 藤 哲
東京都立墨田工業高等学校長		加 藤 秀 次
東京都立王子総合高等学校長		今 澤 秀 夫
東京都立第五商業高等学校長		中 山 博 之
東京都立江東商業高等学校長		金 城 和 貞
東京都立東村山高等学校長		大 塚 一 雄
安田学園高等学校教頭		稲 村 隆 雄
安部学院高等学校長		安 部 元 彦
国際理容美容専門学校学務課長		佐 谷 肇
昭島市立清泉中学校長	（中学校の部委員長）	小谷野 茂 美
小平市立花小金井南中学校長		丹 羽 信 介
青梅市立第六中学校長		荒 内 彰
清瀬市立清瀬第五中学校長		片 倉 義 博
東久留米市立下里中学校長		藪 野 勝 久
東大和市立第二小学校長		井 内 潔
清瀬市立清瀬中学校長		千 野 和 子
新宿区立落合第二中学校副校長		深 井 明 美
新宿区立牛込第三中学校副校長		寺 島 京 子
荒川区立峡田小学校副校長		出 井 玲 子
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事		平 柳 伸 幸
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事		山 田 和 人
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事		金 澤 正 美
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事		富 永 大 優
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事		山 村 智 宏

産 業 界 会 員 名 簿

50 音順

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
1	(株)秋月電子通商	世田谷区		
2	浅地事務所	港区	—	経営相談、コンサルティング、社外役員の紹介及び仲介他
3	(有)飯吉製作所	葛飾区	—	金属プレス加工業を昭和24年創業、昭和37年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャストを開発、製造販売を始め、現在に至る。
4	(株)エイコー	葛飾区	(○) 高校卒	昭和35年にビルメンテナンス業を創業。 平成13年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
5	エス・イー・シーエレベーター(株)	台東区	(○) 高校卒 (○) 専門学校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	エレベーター、エスカレータの保守点検及び新設、ニューリアル工事
6	(株)エヌ・アール	千代田区	—	不動産の賃貸及び管理業
7	(株)大崎コンピュータエンジニアリング	品川区	(○) 高専卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	「信頼とサービス」をモットーに、営業・システム・施工保守・技術部門が一体となって、システム開発から通信ネットワーク構築、アウトソーシングサービスまで、トータルなIT環境を提供する総合インテグレータ。富士通・富士電機・NTTグループのディーラー業務等。
8	OZAWA 小沢(株)	中央区	(○) 四大卒	紳士服、婦人服製造卸売（オーダー有り）
9	(株)オーム社	千代田区	(○) 高専卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	科学技術関係の書籍及び月刊誌を発行。情報科学、情報通信、電気電子、応用物理、機械制御、土木建築、空調衛生設備、化学環境、生命科学、医用電子など理工学全分野に及ぶ。定期雑誌は『OHM』『新電気』『電気と工事』『設備と管理』『ロボコンマガジン』の月刊・隔月刊5誌。
10	(株)カナック企画	葛飾区	—	当社は、カーオーディオやカーナビゲーションなどカーAV(Audio Visual)機器の取付キットビジネスの最前線を常に開拓するリーディングメーカーです。ISO9001・14001を取得して品質を重視し、環境に配慮した商品の開発を行っております。
11	亀有信用金庫	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に24店舗(1出張所を含む)を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。
12	(株)川邑研究所	目黒区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売
13	機械研究(株)	台東区	(○) 短大卒	教育・研究用実験試験装置設計製造。大学、高専、工業高校、職業能力開発校、民間企業等に多数の納入実績があります。
14	(株)ククチ	品川区	(○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス。設備管理サービス。電気計装工事。内装・補修工事
15	(株)キトウ	千代田区	(○) 四大卒	中学校技術・家庭科および美術科・工芸科用教材・教具および機械・工具の専門店。工作機械、工作台等のメンテナンスサービスも充実させています。
16	恵雅堂出版(株)	新宿区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	卒業アルバム及び一般書籍の出版。
17	(株)建築資料研究社	豊島区	—	建築資料研究社は、日建学院をはじめとして書籍やハード・ソフト、関連用品、スクール等建築・建設に関する様々なニーズにお応え致します。(あなたの「夢」応援します。)
18	(株)小葉印刷所	中央区		創業80年の印刷会社。学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディトリアルデザインやWeb用のデータ作成業務に力を入れている。
19	(株)コヤマ服装	府中市	—	学生服他、製造販売。
20	三和電気計器(株)	千代田区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	従業員70名の中小企業ですが、2011年に創業70周年を迎える現場用電子計測器の専門メーカーです。高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。
21	実教出版(株)	千代田区	(○) 四大卒	高等学校用教科書・補助教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。
22	(株)昭和理化	豊島区	(○) 高校卒	消防用設備（自動火災報知設備、消火設備、避難設備）、弱電設備（インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯）の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
23	(株)鈴木塗装工務店	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	全国主要都市に支店・営業所を有し、ビル・マンション・工場等のリニューアル工事を多岐に亘り施工しております。また、安全・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、ISO 9001：2008 認証取得により品質管理を徹底しております。
24	青和信用組合	葛飾区	(○) 短大卒 (○) 四大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の8町、江戸川区の2町、足立区の5町に居住される約99,390世帯（人口208,540人）と、地域内で事業を営まれる中小企業、そこに勤務される方々を対象に活動しており、現在、約45,120世帯（63,911人）の個人の皆様と、2,444先の法人等の方々にお取引をいただいております。
25	千住金属工業(株)	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	携帯電話やコンピュータ等には欠かせない「はんだ」では世界のトップメーカーです。インテル社より2010年度最優良納入業者として表彰（世界で13社）を受けました。海外拠点も26ヶ所あります。
26	(株)第一科学	文京区	(○) 高校卒	高校、大学、官公庁（都内）への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売
27	太平観光(株)	練馬区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	昭和38年創業。学校関係主体の旅行業者。資本金8,000万円、従業員25名（常勤役員4、正社員19、パート2）。年商10億。学校関係70%、海外旅行10%、国内募集旅行10%、個人一般旅行10%。
28	大洋塩ビ(株)	港区	—	
29	(株)竹尾	千代田区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	1899年の創業以来、一般印刷用紙、特殊印刷用紙（ファインペーパー）の開発、販売を通して「情報の伝達」「環境の保護」「文化の向上」等の社会貢献に寄与しています。「ファインペーパーの竹尾」と全国に知れ渡り、約400銘柄、9,000種の紙を取り扱い、市場ニーズにあった製品の提供を続けています。
30	東京デンハン(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 短大卒	当社は専門商社の名にふさわしく、取扱商品は実に多彩。その種類は2万を超えています。主なものは各種抵抗器、コンデンサー、水晶振動子等、ケーブルコネクタ、ニッケル電池、組立加工、DVD、リードリレー、IC、液晶素子、プラズマディスプレイ、情報機器の開発設計、光ハイパー応用品等。
31	(株)チバダイス	葛飾区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの3割は海外との取引です。
32	鉄道機器(株)	中央区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に低騒音化、低振動化、地震対策等、時代のニーズに対応した分岐器の開発・改良に注力しています。
33	東京ガス(株)	港区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	当社は、1885年の創立以来、120年余りの長きにわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客様の豊かな暮らしや産業の発展を支えてまいりました。現在では、1000万件を超えるお客さまに対し、都市ガスに加え、電力・熱供給などエネルギーまわりの付加価値を提供させていただいております。
34	東京書籍(株)	北区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	1909（明治42）年の創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小中高等学校の教科書を中心に、ワークブック・問題集・辞典などの教材、ビデオ、パソコンソフト、教科書、辞典、エッセイなどを幅広く発行。
35	東京スマイル農業協同組合	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	概要：指導・信用・共済・経済事業等を行っている。特色：地域に密着した取組をしている。
36	東京都農業会館	立川市	—	
37	(株)東京都民銀行	港区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	昭和26年の創立以来、金融サービスを通じ、地元東京と中小企業の発展、個人の豊かなライフステージの実現のために、東京の頑張る人を応援している地方銀行です。お客様のニーズに合わせ、各種預金商品、融資商品の提供、近隣地銀の横浜銀行、千葉銀行やセブン銀行等と提携し、首都圏約8,000ヶ所のATMで平日日中に手数料無料でお引き出しできるネットワークの充実を図っています。給料日前に働いた範囲内で給料を受け取れるサービス「前給」（特許取得済）の取扱、ビジネスマッチングのための展示商談会の開催、中国でのビジネス支援をするコンサルティング会社としての上海現地法人「都民銀商務諮詢（上海）有限公司」の設立、M&Ano ご相談等様々な金融ビジネス展開を行なっています。
38	(株)東京プリンテック	世田谷区	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
39	戸田建設(株)	中央区		
40	(株)トンボ鉛筆	北区	(○) 四大卒 (○) 高専卒 (○) 工業高校卒	文具の製造販売。「書く」「消す」「貼る」「育む」の4つの分野を中心に商品開発、販売をします。
41	(株)日刊工業新聞社	中央区	(○) 四大卒	わが国唯一のモノづくり総合紙
42	(株)日本化薬東京	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	当社はインクジェットプリンター用色素、繊維・紙パルプ用染料を製造しております。会社運営のキーワードとして(3つのCSQE)、即ち「コストダウン」「コンプライアンス」「コミュニティー」「セーフティー」「クオリティー」「エコロジー」を掲げ、高機能都市型工場を目指しております。
43	日本自動ドア(株)	中野区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。
44	信川化学工業(株)	葛飾区	—	超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、J A機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機2,700t、2,200t、1,600t×2、1,200t、850t×4、650t×2他計21台。クレーン20t、10t他。
45	日野自動車(株)	日野市	(○) 中学卒	「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地域の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。
46	丸工化学(株)	葛飾区	—	プラスチック製品製造業。従業員17名。主に容器の製造。中空成形機14台。小はスポイト位の物から大は灯油缶位の物迄できる。
47	(株)三井住友銀行	千代田区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	経営目標である「お客様、株主や市場、社会から最高の信頼を得られ世界に通じるトップバンクの実現」に向けて、強みである個人向けコンサルティング、中小企業向け融資、投資銀行ビジネスなどに注力しながら、他業態とのアライアンスなど新たなビジネスに積極的に展開していく。
48	(株)ムトーエンジニアリング	品川区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	設計製図機器、光学式計測器の開発・製造・販売、リサイクルトナー販売。LED関連製品の製造・販売、オゾン関連商品の販売。CADソフト及びデバイス類の販売
49	森山精機(株)	文京区	(○) 高校卒	流体実験装置の製造販売並びに教育機器の販売を50年継続。
50	山崎教育システム(株)	東村山市	(○) 専修卒 (○) 四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売(全国代理店500社)
51	山崎製パン(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	パン・和洋菓子等の製造及び販売
52	ヤマ産業(株)	文京区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	教育備品を販売して50年。学校よりの信用を得て、安定している。
53	(株)読売新聞社東京本社	中央区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	「読売新聞」は1874年(明治7年)11月の創刊。全国紙として成長し、1994年に発行1000万部を達成した。発行部数は世界一。千代田区大手町に新社屋を建設中(2014年秋に完成予定)で、その間、中央区銀座に一時移転している。
54	ルネサスエレクトロニクス(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	2010年4月に(株)ルネサステクノロジとNECエレクトロニクス(株)が合併して発足した半導体企業です。創造力を発揮し、絶え間ない技術革新により、世界中のお客様のニーズに誰よりも早く応えます。そして、信頼されるパートナーとして、持続的に成長する強いグローバル半導体企業を目指します。

個人会員

1. 堀居 英治 2. 齋藤 武捷 3. 倉持 俊義 4. 梶谷 正義 5. 末松 茂孝 6. 内川 武雄 7. 中村 浩

学 校 会 員 名 簿

50 音順

	学校名	所在地	課程	平成 24 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
--	-----	-----	----	------------------------	----------

私立高校

1	爱国高等学校	江戸川区	全	普通科 (240) 商業科 (120) 家政科 (80) 衛生看護科 (40) 衛生看護専攻科 (40)	平成 22 年春に新学生寮落成。普通科は A(一般教養)・B(進学)の 2 コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の 2 コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科(上級 2 年コース)は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学(人間文化学部)・短期大学(家政科)・保育専門学校(幼児教育科・介護福祉士専攻科)がある。
2	安部学院 高等学校	北区	全	商業科 (200)	1940 年(昭和 15 年)に創立して以来、一貫して「商業教育のみの女子高校」と歩み続け、現在で満 69 年を迎えました。 在校生には、「5 つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。 2 年次よりコース制になり、簿記 1 級の取得を目指す「会計コース」とパソコンなどの実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の 2 コースに分かれて授業を行っています。 卒業後の進路は、以前は就職する生徒が 9 割近くを占めましたが、現在は就職希望者だけでなく、進学希望者も増えています。
3	岩倉高等学校	台東区	全	普通科 (120) 運輸科 (105) 機械科 (70) 商業科 (70)	我国最初の鉄道学校として明治 30 年に創立。卒業生の多くは鉄道・運輸業界で活躍している。機械科・運輸科・商業科・普通科を持つ総合制高校として、就職のみならず進学面でも成果が顕著である。なお、平成 21 年 4 月に新校舎の完成を予定しており、充実した環境の中で、特色ある各科の内容の充実や新コースの設置等、生徒の夢をより具現化する新カリキュラムで学力の向上をはかっている。
4	大森学園 高等学校	大田区	全	普通科 (160) 工業系 (200) 機械科 電気科 情報技術科 総合技術科	【創立】昭和 14 年大森地区の中小機械工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。 【学校改革】創立 70 周年(平成 21)にむけて「学校改革」始まる。平成 16 年、新校舎建築に着手。平成 17 年、学校名を「大森工業高校」から「大森学園高校」に変更。同時に普通科を新設し、第 1 期生をむかえる。平成 19 年校舎建築完了、普通科を共学化。平成 21 年 4 月、創立 70 周年記念式典を挙行政した。
5	科学技術学園 高等学校	世田谷区	通	普通科 (2,750) 電気科 (900) 機械科 (600)	昭和 39 年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和 52 年普通科設置し現校名に変更する。昭和 53 年昼間定時制課程を設置し、単位制総合高等学校として様々な生徒のニーズに対応できる教育環境を整えている。 通信制課程では集団(企業・専修学校等)を対象とした技能連携コース(全国に 35 校)と個人を対象とした単位制コースを持ち、単位制コースには「週 4 日通学コース」、週に 1～3 日通学「登校コース」インターネットで学習する「e ラーニングコース」と生徒個々の学習環境に合せたコースを設置している。 昼間定時制課程(男子のみ募集)は、主要教科は習熟度別学習プログラムでわかりやすい授業を実践し、また社会へのプロローグとして「ものづくり」を中心とした体験学習を特別活動として導入し、生徒目線の教育活動に取り組んでいる。
6	蒲田女子 高等学校	大田区	全	普通科: デザインクラス (30) 医療福祉クラス (40) 幼児教育クラス (80) スポーツクラス (40) 生活文化クラス (60)	昭和 16 年に漢学者・簡野道明の遺志により設立。「子供の教育に最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本である。」にもとづく、道徳しつけ教育に重点をおき、自立する女性の育成を行っている。教育内容改革改善の取組みとして 5 つのクラス制を導入し、特に医療福祉クラスでは、ホームヘルパー 2 級、障害者ヘルパーの資格が取得でき、介護福祉士の国家試験受験資格を取得できる。2 年次より看護系進学者に対する指導にも力を入れ特進クラスも設けている。
7	関東第一 高等学校	江戸川区	全	特別進学コース(男女 40) 進学選抜・進学 A コース (男女 200) 進学 G コース(男女 200) スポーツコース(男 80)	大正 14 年、帝国書院の創立者守屋荒美雄・初代校長村上周三郎によって神田錦町に関東商業学校として設立。昭和 14 年、江戸川区の現在地に移転し、昭和 28 年、関東商工高等学校と改称。昭和 48 年、普通科設置とともに現校名となる。 平成 16 年度には普通科を共学化。平成 17 年度には特別進学コース、平成 19 年度には進学選抜コースを設置。そして平成 24 年度からは普通科 5 コース制として、関東商業学校時代より培った「貫行」の精神で新たな一歩を踏み出す。
8	京華商業 高等学校	文京区	全	商業科 (150)	生徒一人ひとりの個性を伸ばすオンリーワン教育を推進。資格検定試験合格にむけたきめこまかい指導を行っている。また、はやくからインターンシップをとり入れるなど、キャリア教育にも力を入れている。
9	京北学園 白山高等学校	文京区	全	商業科 (160)	人間力を ①自己学習能力 ②コミュニケーション能力 ③プレゼンテーション能力の 3 つの力と定義し、その育成に努力する。 現役大学進学率 7 割の新しいスタイルの商業科進学校
10	昭和第一 高等学校	文京区	全	普通科 (280) 商業科(募集なし)	昭和 4 年設立、平成 17 年度男女共学開始。 校訓「明るく、強く、正しく」のもとに生徒一人ひとりがしっかりとした目標を持ち、円満な人格と高い教育を身につけ、国際社会にも通用する心身ともに調和のとれた人間を育成する。きめ細かな教科指導はもとより、生活指導にも力を入れている。
11	昭和第一学園 高等学校	立川市	全	普通科 (331) 工学科 (240) 総合工学コース 機械コース 電子情報コース 建築デザインコース	普通科:特進コース、総合進学コース(2 年次より文、理選抜)。 工学科:1 年次共通の科目を学ぶ。2 年次から 4 つのコースに分かれる。 総合工学コース、(進学向けのコース)、機械コース、電子情報コース、建築デザインコースで専門科目を学ぶ。
12	昭和鉄道 高等学校	豊島区	全	鉄道科 (215)	鉄道専門科目を通し、サービス業務など実践的な教育に取り組んでいる。

	学校名	所在地	課程	平成24年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
13	大成高等学校	三鷹市	全	普通科： 特別進学コース (70) 文理進学コース (280) 情報進学コース (40)	大成は大きく変わりました！－伝統を活かした改革さらに充実－近年、大学進学が急速に伸び、部活動も活性化しています。それに[南館校舎]（地上8階、地下1階）、[アリーナまい進]（講堂・体育館）の完成に続いて[第2体育館]が生まれ、学習環境・体育環境の充実が、進学・部活の成果を上げています。今、生徒の目が輝いています。
14	中央学院大学 中央高等学校	江東区	全 通	普通科 (35) 商業科 (65) 22年度閉課程	少人数クラスをベースにしなが、生徒一人ひとりの将来を考えた教育を展開しています。中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導に特色があります。
15	東京学園 高等学校	目黒区	全	普通科： 普通コース (245) 選抜コース (35)	「文化に産業に、社会の要請に順応できる有為の人材を育成する」という建学の精神の基、「知・徳・体」の3拍子揃った生徒の育成に努めている。また平成18年には目黒区と協定を結び、本校の敷地内を一部区に提供し、災害時に於ける目黒区の備蓄倉庫を設置し、本校の生徒だけでなく地域の方々にも貢献できる体制を整えている。
16	東京実業 高等学校	大田区	全	機械科 (135) 電気科： 電機コース (45) ゲームITコース (45) 普通科： ビジネスコース (180) 文理コース (90)	全科男女共学。週5日制。総合学園高校として各科、各コースの生徒は目的を持って学校生活を送ります。自立できる人間を育成するために、3年間で各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定に役立てます。また、転科試験で学校生活を見直す機会を持ち、国際理解教育の一環として、米国コロラド州ボルダー地区の公立高校との間に交換留学制度があります。 電気科ゲームITコースは平成22年度より開設。
17	日本工業大学 駒場高等学校	目黒区	全	普通科： 特進コース (30) 理数特進コース (30) 総合進学コース (80) 工業科： 理数工学科 (80) 国際工学科 (40) 機械科 (80) 建築科 (40) 電子情報システム科 (40)	100年間培ってきた工業技術教育を大切に、その有用性を生かした新しい時代の新しい普通科と工業科により、生徒の卒業後進路の多様化に具体的な支援をする。特に普通科は22年度、1年から3年までが完成し卒業後の進路が目される。
18	日本女子体育大 学附属 二階堂高等学校	世田谷区	全	普通科： 総合進学コース (80) 体育コース (80) 保健福祉コース (40)	本校は普通科の高校であり、総合進学・体育・保健福祉の3つのコースを設けています。旧来の福祉コースは介護福祉士の資格が取れる専門に重点を置いた教育に取り組んできましたが、平成21年度より保健福祉コースに改組しました。保健福祉は「福祉」という分野を保育・看護医療も含めた広い「保健福祉」という視野でとらえ、本気で生徒一人ひとりの可能性を引き出すコースとして再出発します。
19	八王子実践 高等学校	八王子市	全	普通科： 特進コース (40) 文理コース (160) 普通コース (280) 調理科 (80)	八王子の高台に位置し、優れた環境の中で、実践的な教育に取り組んでいる。平成20年度よりカリキュラムを一新し、普通科では特進コース・文理コース・普通コースの編成となる。 調理科については優秀な教授陣を要し、施設設備等最高のものを設置している。
20	朋優学院 高等学校	品川区	全	調理科・ 調理コース (45) デザイン科・ デザインコース (45) 普通科・ 特進コース (60) 進学コース (185) 美術コース (45) 国公立コース (15)	調理コース：食の幅広い知識として調理専門科目を学習。卒業時に調理師免許取得。 デザインコース：コミュニケーションツールとしてのデザイン、コンピュータや手作業による造形を体験学習・共同作業などで学習。 全コース（3学科6コース）とも男女共学。
21	村田女子 高等学校	文京区	全	普通科 (80) 商業科 (82)	夢を叶え素敵な未来を拓くために、目的を持って現役進学を目指す普通科と現代社会に即した知識と技術を磨き、社会で活躍するステキな女性を目指す商業科。 村田は二科四コースで生徒一人ひとりのキャリアデザインを支援しています。 その柱になるのが「資格取得」教育。中学までは気がつかなかった自分の可能性を、「検定試験」への挑戦で引き出し、自信につなげていきます。
22	安田学園 高等学校	墨田区	全	普通科 (182) ビジネス情報科 (76) システム情報科 (40)	本学園は、創立者 安田善次郎翁の建学の精神のもと、実践的能力に秀でた人材の育成を目指し、一人ひとりの個性の重視と可能性を伸張させる教育に重点をおいています。普通科に関するコース（特別進学・進学選抜・総合進学・中高一貫）と商業に関する学科にビジネス情報科・工業に関する学科にシステム情報科とし、社会に即応した教育を実践しております。
23	日野工業 高等学園	日野市	通	(40)	日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダーの育成を目指す企業内高校です。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があります。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。

学 校 会 員 名 簿

	学校名	所在地	課程	平成 24 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
--	-----	-----	----	------------------------	----------

都立高校

▽農業に関する学科					
1	都立園芸 高等学校	世田谷区	全 園芸科 (70) 食品科 (35) 動物科 (35)	定 園芸科 (30)	平成 20 年度に 100 周年を迎えたが、平成 18 年度に重点支援校の指定を受け、地域や N P O 等との連携のもと「園芸高校リバイバルプラン」を推進している。園芸科、食品科、動物科では、2 年次から、生徒の特性等に応じたコースを設け、食品科では、専門学校との連携により在学中に調理師の資格取得が可能である。定時制では家庭的な雰囲気での学習が進められ、園芸技術専修生制度もある。
2	都立農業 高等学校	府中市	全 都市園芸科 (35) 緑地計画科 (35) 食品科学科 (35) 服飾科 (35) 食物科 (35)	定 食品化学科 (30)	全日制では、農業・家庭の両科の専門学習とその教育資材を生かし、環境教育に取り組んでいる。学校設定科目「地域貢献」を通じて、生徒が専門教科の学習の目的を理解し、自信を持って学べるように取り組んでいる。平成 19 年より、都市からの農業の担い手育成事業である「東京アグリカレッジ」を東京農工大学をはじめとする地域の諸機関と連携・協力して開催している。さらに、食育、環境教育に重点を置き全校をあげて教材開発及び授業実践を行っている。 定時制では、「食育」、「環境」、「奉仕」を三本柱として地産地消と循環型農業の学習に取り組んでいる。また、平成 21 年度入学生より三修制を実施しています。
3	都立農芸 高等学校	杉並区	全 園芸科学科 (35) 食品科学科 (70) 緑地環境科 (35)	定 農芸科 (30)	今年度で創立 111 年の歴史と伝統のある専門高校である。全日制に園芸科学科、食品科学科、緑地環境科の 3 学科 4 学級、定時制に農芸科 1 学科を設置している。 都心にありながらも緑に囲まれた校舎、実習棟や農場などあわせて 73,304 ㎡という広い敷地を持ち最新の施設や設備が導入されている。 JR「阿佐ヶ谷」駅前の花壇作り、小学生を本校に招いての豆腐作り教室等、地域貢献活動を推進し、学校の教育機能を積極的に地域社会に提供している。また、平成 18 年度にエコアクション 21(環境省認証)を取得し、環境にやさしい農業高校を目指している。 なお、都立高校唯一の馬術部を設置しており、2 頭の馬を飼育・管理している。平成 25 年度東京国体に向け東京都から強化指定校に指定され、日々練習に励んでいる。
4	都立農産 高等学校	葛飾区	全 園芸デザイン科 (70) 食品科 (70)	定 農産科 (30)	東京東部にある唯一の農業高校で、「食と緑の文化あふれる学校」を目指し教育活動が行われている。 全日制では、2 学科 4 類型を設置している。園芸デザイン科では栽培からバイオ、フラワーデザインまで、食品科では加工から食品デザインまで広く体験を通して学べる。定時制は、園芸系と食品系両方を学ぶことができ、通常授業の前後に行なわれる授業を受けることにより、3 年間で卒業できる制度があり人気が高い。
5	都立瑞穂農芸 高等学校	西多摩郡 瑞穂町	全 畜産科学科 (35) 園芸科学科 (35) 食品科 (35) 生活デザイン科 (70)	定 併合科 (普通・農業) (30)	都内唯一の畜産科学科があり、大動物の飼育・管理が学習出来る。豊かな自然環境、恵まれた施設・設備の下、充実した専門科目の学習に取り組める。キャリア教育の一環として地域と連携した教育活動を推進し、望ましい職業観や豊かな社会性を育んでいる。定時制も規模が小さく、きめ細かな指導が行われ、大変落ち着いた学習環境である。
▽工業に関する学科					
6	都立足立工業 高等学校	足立区	全 総合技術科 (175)		機械・電気系の総合技術科。1 年は機械、電気の基礎を共通履修、2 年から機械系か電気系を選択、選択科目で得意分野を伸ばす。 第二種電気工事士を中心に資格取得に力を入れている。地域密着の工業高校として、小中学校や地域連携を積極的に推進している。 施設・設備拠点校に指定され、施設・設備が充実している。
7	都立荒川工業 高等学校	荒川区	全 電気科 (70) 電子科 (35) 情報技術科 (70)	定 電気・電子科 (30)	全日制では「ものづくり」に関する技術・技能を身につけさせる。電気系専門技術者に必要な基礎的な学力をつけさせる。社会で役立つ資格(第 2 種電気工事士等)を取得させ生徒に自信をつけさせ、より確かな進路実現を図る。とくに、第 2 種電気工事士の合格者は、6 年連続 30 名以上の実績を誇る。 定時制では基礎・基本の徹底を図り、分かる授業を行い、分かるまで教える。良いことを誉め、悪いことは正す。資格取得や検定合格で自信と意欲を育てる。
8	都立葛西工業 高等学校	江戸川区	全 機械科 (70) 電子科 (35) 建築科 (70)		都教委指定のデュアルマイスター導入校(平成 23 年度入学生～) 施設が充実しており、設備拠点校実習を行なっている。 地域産業界、小中学校と連携し、ものづくりを担う人材を育成。 地域と協働し、実践力ある生徒を育てる。
9	都立北豊島工業 高等学校	板橋区	全 総合技術科 (175)	定 機械科 (30)	○全日制 機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を幅広く学び、社会に貢献できる人材を育成している。危険物取扱者、電気工事士、工事担任者など社会で役立つ資格取得にも力を入れている。また、平成 21 年 6 月にエコアクション 21 の認証を取得し、環境教育にも積極的に取り組んでいる。都教育委員会より施設・設備の拠点校として指定され施設・設備が整っている。 ○定時制 機械科単科 1 クラス落ち着いた雰囲気の中で、工業技術者として幅広い知識と人間性を涵養している。中学校の先生方から「中学校で不登校だった生徒が何故、高校には通えるのですか」と高い評価を頂いている。就職希望者の内定率 100% を維持している。

	学校名	所在地	課程	平成24年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
10	都立蔵前工業 高等学校	台東区	全	機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35)	○全日制 東京都教育委員会からものづくり人材育成教育プログラムに関わる「特定分野推進校」及び「ものづくり高大連携教育推進校」の指定を受け、3年生から進学コース、専門コースに分かれ、スペシャリストの育成を目指した教育を実践している。 ○定時制 都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学べる。 学修方法によっては、3年間で卒業も可能。 学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。
11	都立工芸 高等学校	文京区	全	マシクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアーツ科 (35)	本校は、100年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。ものづくりを通して個性と創造力を伸長し、一人一人の感性と美的センスを磨き、心豊かな人間性をはぐくみます。ものをつくる技術は、心を伝える手段です。開校以来2万人を超える卒業生の中には、人間国宝や文化勲章受章者も輩出しており、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアをはじめとして、広く社会で活躍しています。 また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や韓国・台湾等を含む大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種のコンテストで常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の感性・実力及び教育実績は全国のトップクラスにあり、内外から高く評価されています。 卒業後の進路は進学が最も多く、有名国公私立大の美術系を中心に幅広い分野への進学を果たしています。
12	都立小金井工業 高等学校	小金井市	定	機械科 (60) 電気科・電子科 (30)	平成22年3月に全日制課程が閉課程となり、平成22年度から定時制単独校になる。施設設備が充実していて、多摩地区唯一の定時制工業高校である。ここ数年、入学者が定員枠いっぱいまで入ってきている。校舎の改築改修工事が進み、新校舎が平成23年8月に完成した。23年9月から座学の授業は新校舎で、実習の授業などは旧校舎で行っている。全日制課程は多摩科学技術高校となり、平成22年4月に第一期生が入学している。
13	都立杉並工業 高等学校	杉並区	全	機械科 (70) 電子科 (70) 理工環境科 (35)	都立工業高校で唯一（都立高校全体で2校）、環境マネジメントシステム ISO14001を取得し、全教科で環境保全に関する学習を進めている。風力発電及びビオトープがある。平成20年度に高反射率塗装（屋上）及び窓遮熱フィルム貼付、太陽光発電設備拡大。資格取得に力をいれている。平成17年度の資格取得者数が都立高校No.1。 部活動が活発で、柔道部及び陸上競技部の関東大会出場など、どの部も輝かしい実績を残している。 平成19年度、「キャリア教育優良取組団体」として文部科大臣表彰、「環境学習及び地域温暖化防止取り組み等」において環境大臣表彰及び東京都教育委員会表彰を受けた。
14	都立墨田工業 高等学校	江東区	全	機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35)	全日制は、4学科を持つ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組み、進路希望達成率100%を常に維持している。今年度111周年を迎える歴史と伝統を持ち、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。 定時制においても全日制と同じく進路希望達成率100%を実現しており、生徒主体の実践的教育に取り組んでいる。
15	都立総合工科 高等学校	世田谷区	全	機械・自動車科 (70) 電気・情報デザイン科 (70) 建築・都市工学科 (70)	平成18年4月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校。全日制では、大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、学科の枠を越えた魅力ある学校設定科目を多く設定することで、充実した専門教育を行なう。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動の振興を図る。 定時制では、資格取得を中心に、2年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの3コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3年間での卒業が可能な三修制を実施する。
16	都立田無工業 高等学校	西東京市	全	機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35)	本校は、機械科、建築科、都市工学科の三科からなる工業高校である。都市工学科は全国でも数少ない学科であり、建築科は多摩地区の工業高校では唯一本校に設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの科も地域に根ざした技術者の育成を目標としている。また来年度からデュアルシステムを開始いたします。インターンシップについても、引き続き実施しております。
17	都立多摩工業 高等学校	福生市	全	機械科 (70) 電気科 (70) 環境化学科 (35)	・昭和38年、西多摩地域に唯一の工業高校として開校、平成24年度に50周年を迎える。平成13年度、時代とともに進展する生徒の多様化、産業社会のニーズ等に対応するため、工業化学科を都立高校で唯一の環境化学科に学科改変した。 さらに、地域産業を担う人材の育成、生徒個々の進路希望に応えるために、学科ごとに類型コース制を導入し、合わせて教育課程の改変を行った。 ・全校を上げての環境教育、環境活動が環境省が提唱する「エコアクション21 環境経営システム・環境活動ガイドライン」の要求事項に適合するということで平成19年3月「エコアクション21」に認証・登録された。 ・平成21年度文科省「人権教育研究指定校」。削除 ・平成22年度東京都教育委員会「スポーツ教育推進校」。 ・平成23年度「デュアルシステム」導入校
18	都立中野工業 高等学校	中野区	全	総合技術科 (175)	本校では、総合技術科の特色を生かして、一人一人の自己実現を応援する教育を行っている。また、都内で、唯一食品工業が学べる工業高校である。 1学年で、工業の基礎を学習しながら、自分が目指す専門分野を探索する。全日制課程では、2学年から、機械類型、食品工業類型、工業化学類型の係わる各コースを選択し、専門性を深める。定時制課程では、2学年から、機械類型、食品工業類型のいずれかを選択し、専門性を深める。
19	都立練馬工業 高等学校	練馬区	全	キャリア技術科 (175)	平成18年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3年生では6系列（機械加工技術、オートメカニック技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP技術、インテリア技術）から選択して、より専門的な学習を行います。

	学校名	所在地	課程	平成 24 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
20	都立八王子工業 高等学校	八王子市	定	募集停止	平成 21 年度、第 4 学年のみ。平成 22 年 3 月閉過程・閉校。
21	都立府中工業 高等学校	府中市	全	機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35)	都教委より「ものづくり人材育成プログラム」の指定を受け各種資格取得に向けた指導に積極的に取り組んでいる。 野球部を中心にバスケット部、陸上部、少林寺拳法部、自動車部など活発に活動し実績をあげている。
22	都立本所工業 高等学校	葛飾区	定	総合技術科 (30)	・少人数指導の特色を生かし、きめの細かい・わかりやすい指導を推進している。 ・生涯にわたるキャリア設計に基づいた進路実現が図れるよう支援する。そのための技能・資格取得の指導が充実している。 ・平成 18 年に新校舎が落成。平成 19 年度にグラウンド、人工芝テニスコートも含め、全面改修工事完了。
23	都立町田工業 高等学校	町田市	全	総合情報科 (175)	総合情報科は、情報デザイン、アプリケーション、情報システム、電気システム、機械システムの 5 つの系列からなりますが、1 年次では系列に関係なく同じ内容で学習します。 2 年次から生徒自らの興味や関心、進路希望に基づき 5 系列にわかれ学習します。選択科目も数多く設置しており、充実した施設・設備の下、自分に適した学習ができます。
▽工業に関する学科 (単位制)					
24	都立六郷工科 高等学校	大田区	全	プロダクト工学科 (70) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35) デュアルシステム科 (30)	平成 16 年 4 月に開校した、都立高校で初めての単位制・二期制の工業系高校である。東京都初の東京版デュアルシステムを持ち、夜間定時制課程も設置されている。 全日制課程には、機械系のプロダクト工学科、自動車 3 級整備士資格取得可能なオートモビル工学科、電気電子情報系のシステム工学科、コンピュータグラフィックスとプロダクトデザインが学べるデザイン工学科の 4 科がある。各科ともに、一年次から「工業技術基礎」を中心に工業分野の基礎・基本を学べる。普通科目も 1 学年と 2 学年の英語・数学を習熟度別クラス編成にしたり、進学に必要な自由選択科目を用意している。 デュアルシステム科は、将来のものづくりを担う人材育成のために設置された全国で唯一のデュアルシステム専門の科である。地域の企業と学校で連携して生徒に技術指導する。企業での長期就業体験を最大 29 単位卒業の単位として認めている。 定時制には、単位制と 3 修制を取り入れた生産工学科と普通科の 2 科がある。
▽科学技術科					
25	都立科学技術 高等学校	江東区	全	科学技術科 (210) 専攻科 (40)	都立高校改革推進計画に基づき設置された新しいタイプの進学型の専門高校です。平成 19 年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定され「科学技術と人間」などの特色ある学校設定科目の設置、分野選択制、進学進学に対応した豊富な学習量と少人数指導などを特徴として、大学や研究機関と連携を図りながら、理論、実験（実習）、研究の 3 ステップ学習による科学技術教育を行っています。
26	都立多摩科学 技術高等学校	小金井市	全	科学技術科 (210) 予定	理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高めます。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。
▽商業に関する学科					
27	都立赤羽商業 高等学校	北区	全	商業科 (210)	平成 24 年度に創立 50 周年を迎える伝統ある商業の専門高校です。社会での自立に向け、【資格の赤商】【部活の赤商】【ボランティアの赤商】の 3 つの柱のもとで、多彩な学びや体験活動を通して、就職や進学など生徒の多様な進路実現を支援する学校を目指しています。ナショナルトレーニングセンターや赤羽自然観察公園など恵まれた「西が丘」の環境のもとで、商店街連携など地域に育てられ、ともに歩む学校です。
28	都立足立 高等学校	足立区	定	普通科 (90) 商業科 (30)	学級数 16、在籍生徒数約 300 名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は 4 学級ある。英語科で習熟度別授業を実施するとともに、芸術科では 2 名の専任教諭により豊かな情操を育てている。定時制のコンピュータ教室は 18 年度最新機種に更新された。学校規模を生かし文化祭やスポーツ大会など数多くの学校行事が行われる一方、部活動もさかんである。
29	都立荒川商業 高等学校	足立区	全	総合ビジネス科 (210)	平成 18 年度より文部科学省「目指せスペシャリスト」スーパー専門高校に指定（3 年間）され、特色ある教育活動を展開している。地元商店会の PR フラグのデザインを考案（年 4 回更新）したり、生徒のデザインによるラッピング都電（外装塗装）を、平成 18 年より 22 年 3 月まで通常運行させるなど地域に根ざした教育活動が高く評価されている。生徒商業研究発表大会・全国産業教育フェアにも参加。平成 21 年度創立 50 周年を迎えた。
			定	商業科 (90)	
30	都立五日市 高等学校	あきる野 市	全	普通科： 「ことばと情報」の コース (80) 商業科 (70)	本校は四季折々に変化する武州の山なみに囲まれた静かな五日市にあります。普通科は平成 17 年度より「ことばと情報」のコースに改編しました。このコースではコミュニケーション能力の修得を柱とし 3 年間で「ことばの力」を身につけます。商業科では二年次に「簿記コース」と「情報コース」に別れ、これからの社会に対応した知識・能力・資格の修得を目指します。24 年度入学者選抜では、普通科及び商業科ともにバスケットボール女子 1 名ずつの文化・スポーツ特別推薦を実施します。 定時制は面倒見が良い指導で定評があります。進路実現 100%を目指しています。
			定	併合科 (30)	

	学校名	所在地	課程	平成 24 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
31	都立葛飾商業 高等学校	葛飾区	全 定	商業科 (140) 情報処理科 (70) 普通科 (30) 商業科 (30)	全日制は、平成 23 年 4 月に創立 50 周年を迎え地域に根ざした専門高校として、キャリア教育を推進し、資格取得の向上を図り、生徒ひとりひとりの進路実現に取り組んでいる。健全育成に努め、社会に貢献できる人材育成を目指している。22・23 年度部活動推進、23・24・25 年度言語能力向上推進の各指定を受けて、あらゆる機会を通して生徒の資質向上と学校生活の充実に取り組んでいる。 定時制は、マーケティング部はもとより、バスケット、バレー、芸術部門の部活動が盛んで、生徒の活躍が学校全体の活力になっている。
32	都立江東商業 高等学校	江東区	全	総合ビジネス科 (175)	ビジネス三言語（IT、会計、英語）に力点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでいる。同時に、社会人としての必須のマナーを身につけた生徒の指導を行っている。さらに、クラブ活動の振興を積極的に図り、学んで楽しい学校作りを目指している。
33	都立芝商業 高等学校	港区	全	商業科 (210)	平成 17 年度より 4 年連続日本商工会議所 1 級合格者（大学卒業レベル）を出す。公認会計士や税理士の道が開かれています。このような高度資格取得を基に、就職と進学にも力をいれています。「天下の芝商」として、商業（ビジネス）教育の先導的役割を果たしている学校です。
34	都立第一商業 高等学校	渋谷区	全	商業科 (210)	東京都の商業高校のリーダーとして、生徒に愛され、地域に愛され、都民の皆様に信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動をすすめている。 高度な資格取得、大学進学・企業就職の両方に対応した教育課程と進路指導を充実させており、大学進学では指定校や公募推薦等で現役合格している。 平成 22 年度には、卒業生が 20 歳で公認会計士試験に合格した。 ソフトボール部や女子バレー部及び簿記部など部活動も盛んであり、地域連携では、学校開放事業、地域の行事への参加、公開講座や出前授業等「地域に学び、地域に貢献する学校」として高い評価を得ている。
35	都立第三商業 高等学校	江東区	全 定	商業科 (210) 商業科 (30)	全日制・定時制ともにこれからの日本の経済社会を担う人材を育成する学校として常に商業教育の充実を図っています。基礎・基本とマナーを定着させ、高度資格取得を目指し、企業とのつながりを大切にしながら、進路保証 100%を実現する新たな三商（SUN 商）としてカリキュラムを大幅に変更してリスタートします。 今後も優良企業への就職や大学進学に十分に対応できるよう教育活動の点検・改善に鋭意取り組んでまいります。
36	都立第四商業 高等学校	練馬区	全	商業科 (140) 情報処理科 (70)	一マナーの四商、資格の四商、基礎・基本からビジネス社会での自立に向けて一昭和 15 年の開設から今日に至るまで、70 年を超える伝統と歴史の中で一貫して産業界で活躍する多くの有為な人材を育成してきました。 商店会等と連携した Web ページ・ポスター作成等の体験的授業の実施や IT パスポート試験合格など着実に力をつけています。 部活動も盛んで、珠算部・簿記部は全国大会出場、アーチェリー部は関東大会出場、他にも硬式野球部、女子バレーボール部、女子バスケットボール部等も目覚ましい活躍をしています。
37	都立第五商業 高等学校	国立市	全 定	商業科 (210) 商業科 (60)	全日制課程は、「資格の五商」「部活の五商」といわれる伝統校です。生涯にわたる学ぶ土台となる基礎基本を幅広く身につけ、社会人としてふさわしい感性やマナーを磨く学校です。 定時制課程は、①基礎基本の学習を大切にします。②生活指導に力を入れて指導します。③資格取得と進路実現に力を入れます。④一人ひとりの夢を実現するために計画的に指導します。
▽ビジネスコミュニケーション科					
38	都立千早 高等学校	豊島区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	・英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 ・「使える英語」を目指して「多読と発表」を授業に取り入れ、会話もイングリッシュキャンプ（1 年）、海外修学旅行（2 年）と行事で実践。 ・新しいビジネス教育分野に NPO / NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学を特色とする。
39	都立大田桜台 高等学校	大田区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	平成 21 年度に開校した都内で 2 校目となるビジネスコミュニケーション科の進学型専門高校です。「本当に英語を使える人」を育てるために 8,000 冊の英書を活用した「英語多読」の授業や「アメリカン・キャンプ（1 年生）」「キャリア・アップ修学旅行 in 九州 APU（2 年生）」などの学校行事を行います。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「ファイナンス」「ビジネスモデル研究」など多様な学校設定科目により充実したビジネス教育を行います。 平成 23 年度に大田区の新校舎に移転しました。
▽家庭に関する学科					
40	都立忍岡 高等学校	台東区	全	普通科 (160) 生活科学科 (70)	平成 18 年 4 月 1 日、全日制・単位制、普通科と生活科学科の併置校として開校した。学科の目標は、普通科「大学進学希望の実現」、生活科学科「将来のプロフェッショナルとして必要な資質・能力の育成、大学進学希望の実現」である。 単位制を活用して様々な選択科目を設置するとともに、習熟度別授業、少人数授業により基礎的・基本的な学力の定着に努めている。また、大学・専門学校と連携した専門性の高い授業も実施している。茶道、華道、将棋などの「日本の伝統文化」を自由選択科目として第 7 限に設置している。
41	都立町田 高等学校	町田市	全	普通科 (320) 家政科 H22 年度から 募集停止	戦前からの長い伝統を誇る本校家政科は、一般教養を高めるとともに、被服・食物・保育等の生活に関する理論と実習、またフードデザイン・ファッションデザイン・被服製作・発達と保育・家庭情報処理・家庭看護福祉などのユニークな専門科目を通して、高度な専門的技術・知識の習得、並びに豊かな人間性を育てることを目標に取り組んでいる。

	学校名	所在地	課程	平成 24 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
▽福祉に関する学科					
42	都立野津田 高等学校	町田市	全	福祉科 (35)	平成 8 年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成 18 年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。
▽国際関係に関する学科					
43	都立大島海洋 国際高等学校	大島町	全	海洋国際科 (80)	「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験的な国際教育・海洋教育により、21 世紀の課題を発見・探求するとともに、これに貢献する高い志と国際化社会に対応する優れたコミュニケーション能力、良識、学力、逞しさをもつ国際人を育成します。2 年生からは「国際社会系」と「国際海洋系」に分かれ、前者は文系 4 年制大学、後者は理系・海洋系 4 年制大学や海洋系公務員等を目指します。また、都立高校唯一の実習船大島丸による国際航海学習、海外語学研修を行い、寄宿舎においては自律的な生活習慣を育て、学習サイクルと「宅習 3 時間」による学習習慣により、生徒の進路実現を図ります。
▽併合科					
44	都立大島 高等学校	大島町	全	普通科 (80) 併合科 (農林・家政) (35)	農林科・家政科で構成されている。約 17 万㎡という都立高校の中で、もっとも広い校地を有し、その半分を農林科が実験及び実習地として管理している。平成 21 年度には、パーソナルコンピューターを 20 台更新し、実業意欲向上プログラム、ふれあいロードプログラム、インターンシップ等に積極的に取り組んでいる。 家政科は、生活産業のスペシャリスト育成のための学科です。大島の生活産業現場や社会福祉施設と幅広く連携し、専門的な技術や知識を身につけることができます。また、地域を視野に入れた学習で社会性を磨き、職業観を養い、進路を考えられる授業展開をしています。
45	都立八丈 高等学校	八丈町	全 定	普通科 (120) 併合科 (園芸・家政) (35) 普通科 (30)	八丈島唯一の高等学校として、地域のニーズから左記の各科を設置している。 敷地面積は約 7 万平米 (東京ドームの 1.5 倍) を有する。全日制は習熟度別学習や少人数制を導入し、生徒の学力に応じた授業を展開している (昨年度進路実績 100%)。部活動が大変盛んで、生徒の約 85 % が所属している。 定時制は三修制を取り入れるなど、生徒の要望に柔軟に対応している。島のはば中央に位置し、学校内外、花と緑に囲まれた素晴らしい環境にあり、羽田空港から空路約 50 分、1 日 3 便就航。大変至便な学校である。
46	都立三宅 高等学校	三宅村	全	普通科 (40) 併合科 (農業・家政) (35)	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。
▽産業科					
47	都立橘 高等学校	墨田区	全 定	産業科 (210) 産業科 (60)	本校は、キャリア教育を重視し、「ものづくりから流通、販売まで」を総合的に学習して、産業界で活躍する人材や起業家を育成することを目標予定されていることから、「ものづくり・ビジネス・IT」を専門教育の柱に、勤労観・職業観を身に付ける教育を実践します。
48	都立八王子桑志 高等学校	八王子市	全	産業科 ：デザイン分野 (70) ：クラフト分野 (35) ：システム情報分野 (35) ：ビジネス情報分野 (70)	本校は IT 特区&学園都市八王子に開校、産業界や地域社会との連携を発展させます。国家試験をはじめ高度な資格取得や検定合格で自信をつけ将来を切り開き、複眼的に考える力と専門性を身につけ各界において活躍する人材を育て、広く社会から信頼される学校を目指します。特色は、桑高ブランド指導計画「千の夢計画」をもって時代の要請に応える「未来の産業人」の育成です。
▽情報科 (単位制)					
49	都立新宿山吹 高等学校	新宿区	定 通	普通科 (150) 情報科 (65) 普通科 (110)	都立高校で最初に「単位制・無学年制」の昼夜間開講の普通科と情報科を設置した学校で、定時制・通信制 (通信制は毎週土曜日にスクーリングを実施している) を設置している、21 年目を迎えた特色ある学校である。生徒は自分の生活スタイルや学習ペースに合わせて学習に取り組んでおり、毎年、国立大学、難関私立大学や専門学校への進学をはじめ公務員、就職などにも力を入れている学校である。通信制課程では、添削・スクーリング・定期考査の 3 点セットをクリアしないと単位認定できない全国でも先進的な学校である。
▽総合学科 (単位制、チャレンジスクール)					
50	都立青梅総合 高等学校	青梅市	全 定	総合学科 (240) 総合学科 (90)	平成 18 年旧都立農林高等学校跡地に、全・定併置の総合学科高校として開校した。豊かな自然に恵まれ、都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を活用して食・農・環境等の様々な体験活動を通して学ぶ特色ある総合学科高校である。 全日制課程は文科・理科、生命・自然、食品・健康、環境・資源、生活・福祉の 5 系列を、定時制課程は生命・自然、生活・福祉の 2 系列を設けている。
51	都立葛飾総合 高等学校	葛飾区	全	総合学科 (240)	平成 19 年 4 月に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。 国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、環境サイエンス、情報メディア、メカトロニクスの 6 系列を通して、生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目と大胆な選択制を採用して、生徒一人ひとりに明確な目的意識を育てつつ、希望進路実現を図る。
52	都立杉並総合 高等学校	杉並区	全	総合学科 (240)	都立桜水商業高校と都立永福高校とを前身として、平成 16 年度に都立で 3 番目の総合学科高校として開校。国際理解教育やキャリア教育を重視、部活動の推進や学校行事の充実などと合わせて、生徒の意欲を高め「生きる力」を育て、個性や能力の伸長をめざす。

	学校名	所在地	課程	平成24年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
53	都立世田谷総合高等学校	世田谷区	全	総合学科(240)	○平成20年4月開校 ○幅広い6系列(社会・教養・環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり)に100科目以上を配置し、大幅な科目選択制で、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー(身だしなみ、頭髪等)を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視
54	都立つばさ総合高等学校	大田区	全	総合学科(240)	平成14年に新規開校した都立2校目の総合学科高校である。国際・コミュニケーション、美術・デザイン、スポーツ・福祉、情報・サイエンス、生産・テクノロジーの幅広い5系列を持ち、生徒の能力、興味・関心に基づいた個人別カリキュラムで勉強ができ、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001(国際環境認証)を取得し、環境教育にも力を入れている。平成19年度「環境大臣賞」を、平成21年度には「文部科学大臣賞」を受賞した。地域との連携も深めている。
55	都立晴海総合高等学校	中央区	全	総合学科(240)	東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成8年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会経済の6系列に多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図る学校である。
56	都立東久留米総合高等学校	東久留米市	全 定	総合学科(240) 総合学科(60)	本校は、平成19年4月に開校した全日制、定時制併置の総合学科高校。 全日制では、学ぶ意欲を育てるための魅力授業や先進的な進路指導により大学などへの希望進路の実現を図る。自然科学、人文科学、情報・ファイナンス、スポーツ科学、看護・福祉、美術・デザインの6系列を設置。 定時制では、教養、情報・ファイナンスの2系列を設置するとともに、三修制を実施。
57	都立若葉総合高等学校	稲城市	全	総合学科(240)	平成17年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の4系列を持つ。 教育目標のコンセプト ”TO BE AMBITIOUS, ACTIVE, AND ATTRACTIVE” ※大志を抱き(AMBITIOUS)、生き生きと活動し(ACTIVE)、魅力あふれた(ATTRACTIVE)若者を 育てる学校
58	都立町田総合高等学校	町田市	全	総合学科(240)	○平成22年度4月開校、全日制総合学科高等学校 ○社会での生き方を視野に捉えた「キャリア教育」を教育活動の根幹とした学校 ○校訓「創」:「自分創り」に取組み、「社会創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○基本的な学力を養うとともに、生徒一人ひとりが自己実現のための科目を自ら選択する。自分で創る自分自身のための時間割 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の4つの系列・自らを磨く「日本文化」の授業・社会と連携し、体験を重視した教育活動・自主・自立・自律の部活動
59	都立王子総合高等学校	北区	全	総合学科(240)	平成23年度開校、全日制総合学科高等学校。 ○「Design Your Dream」(自己の生き方を真剣に考え将来を切り開く力をつける学校)をキャッチフレーズとしている。自己の進路へ自覚を深め自ら夢を描き、その実現に向かって意欲的に計画し実行する行動力と態度を育てていきます。 ○「メディア・ネットワーク」「ビジネス・コミュニケーション」「工業・デザイン」「伝統文化・工芸」「スポーツ・健康」の5つの系列があります。
60	都立大江戸高等学校	江東区	定	総合学科(150)	平成16年4月開校の三部制総合学科(単位制、定時制)高校。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行います。体験学習や実習を重視し、少人数の授業で一人一人が分かるまで指導します。「一人一人の学びを実現する学校」「一人一人のチャレンジを支援する学校」「地域に支えられ育てられる学校」
61	都立桐ヶ丘高等学校	北区	定	総合学科(150)	平成12年度に開校した、最初のチャレンジスクール(総合学科、単位制、昼夜間開講三部制の定時制)です。 『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の3系列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制 など、特色ある教育活動を展開しています。
62	都立世田谷泉高等学校	世田谷区	定	総合学科(180)	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「制作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。
63	都立稔ヶ丘高等学校	中野区	定	総合学科(210)	平成19年4月に昼夜間開講の定時制、単位制、総合学科のチャレンジスクールとして、都立四谷商業高校の敷地に開校した。安心してチャレンジするための「学校環境」・チャレンジの成果を確実にあげる「科目の積み重ね」、チャレンジを飛躍につなげる「キャリア教育」を行う。系列では、情報・デザイン、ビジネス・コミュニケーション、人間・環境の3つの系列を置く。
64	都立六本木高等学校	港区	定	総合学科(150)	平成17年に開校し七年目を迎えたチャレンジスクール。小・中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒及び、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしている。教育目標は“見つけて磨いて 未来を拓く”である。演劇・美容・和太鼓・陶芸等、市民講師による特色ある授業も実施している。三修制により平成23年度末には第4回目の卒業生が出ます。
▽普通教育を主とする学科(単位制)					
1	都立浅草高等学校	台東区	定	普通科(240)	平成18年4月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9階建て全館冷暖房完備のオフィスビルディングタイプの校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと保育体験や介護体験のできる「体験学習」などを特色とする。

	学校名	所在地	課程	平成 24 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
国立高校					
1	東京工業大学 附属 科学技術 高等学校	港区	全	科学・技術科 (推薦 60、一般 140)	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2 年次から、材料科学・環境科学・バイオ技術、情報・コンピュータサイエンス、システムデザイン・ロボット、エレクトロニクス・エネルギー・通信、立体造形・デジタルデザインの 5 分野に分かれる。
高等専門学校					
1	都立産業技術 高等専門学校	品川区 荒川区	全	ものづくり工学科 (320) 創造工学専攻 (32)	平成 18 年度に都立工業高等専門学校（工業高専）と都立航空工業高等専門学校（航空高専）の再編統合を行い、本科の”ものづくり工学科”に新たな 8 つの教育コースを設置した東京都立産業技術高等専門学校を開校しました。本校では「首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成」を目指しています。更に、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる、より高度な総合的実践的技術者を育成することを目指し、本科 5 年の上に 2 年の専攻科課程”創造工学専攻”を設立し、現在は 6 つの教育コースが設置されています。平成 20 年 4 月には、公立大学法人首都大学東京に移管し、同法人の産業技術大学院大学との連携による 9 年間一貫のものづくり教育も推進しています。
専修学校					
1	愛国学園保育 専門学校	江戸川区	昼	幼児教育科 (50) 介護福祉士専攻科 (40)	本校は、昭和 44 年に設立された伝統のある専門学校である。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭 2 種免許状が取得でき、介護福祉士専攻科は、卒業と同時に介護福祉士資格が取得できる。学生は、完備された学園において、斯界の権威ある教授に囲まれ、楽しく熱心に勉強している。 就職についてみると、幼児教育科は毎年ほぼ 100% の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職している。介護福祉士専攻科は、毎年 100% の就職率となっており、介護老人福祉施設などに就職している。 卒業生は勤務先から、専門に精通しており、明るく元気で、礼儀正しく、真面目で就職後もよく成長するという評価を得ている。
2	青山製図 専門学校	渋谷区	昼 夜	建築工学科 (35) 建築設計デザイン科 (80) 建築インテリア工学科 (35) 商空間デザイン科 (30) 建築インテリアデザイン科 (65) 建築設計研究科 (60) 建築科 (60) インテリア工学科 (30)	昭和 52 年に設立以来、設計・製図・デザイン・CAD の技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の 8 学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。
3	国際デュアル ビジネス専門 学校 (新校名) 国際観光専門 学校 (旧校名)	台東区	昼	国際観光学科 4 月生 (40) 10 月生 (40) 国際ホテル学科 4 月生 (40) 国際ホテルデュアル学科 4 月生 (40) 航空貿易学科 4 月生 (40) 医薬デュアル学科 4 月生 (40)	実践的な観光、医療及び薬業従事者の育成を目指し、座学と企業実習を組み合わせた教育を行っている。 現場力のある職業人を養成していく。 平成 22 年 4 月より国際デュアルビジネス専門学校と校名を変更した。
4	国際理容美容 専門学校	荒川区	昼 夜 通	専門課程⇒理容科 (80) 美容科 (120) ビジネス美容科 (120) 【修業年限 2 年】 高等課程⇒美容高等科 (40) 【修業年限 3 年】 専門課程⇒美容科Ⅱ部 (40) 【修業年限 2 年】 理容科 (40)、美容科 (80) 【修業年限 3 年】	理容師・美容師の育成、ホスピタリティマインド豊かなエステティシヤンの養成等で、本校が半世紀に渡る教育を育んできた、技術教育を超えた「技術者教育」と、心と技術が織りなす感動を未来へ伝承することができる「美の創造者」を育成することを目標としています。
5	中央工学校	北区	昼 夜	建築学科、建築工学科、 建築設計科、木造建築科、 建築設備設計科、建築室内設計科 (230) インテリアデザイン科 インテリア科 (50) エンターテインメント設営科 (20) 都市環境学科、土木建設科、造園デザイン科、測量科、地理空間情報科 (150) 機械学科、メカニカルデザイン科、3D-CAD 科 (50) スポーツ健康学科 (40) 建築科 (80) 土木科・測量科 (30)	中央工学校は 1909 年 (明治 42 年) に創設し、2009 年 10 月 21 日創立 100 周年を迎えた。伝統と歴史を誇る専門学校で、社会に送り出した卒業生は 10 万人を超え日本の国づくりをリードしています。教育理念を『厳しい実務教育』『人間涵養教育』『楽しい学校生活』『誇りの持てる学校』とし、時代の変化やニーズに対応した教育内容と実習施設・設備を完備し、本格派の技術者を育成しています。学習面においては、クラス担任制で決め細やかな指導を行い、教師陣も技術革新の時代にふさわしい内容で備えています。学生寮なども充実しており、地方からの進学者にも安心して学べる環境となっています。資格についても建築系の全ての学科で卒業と同時に 2 級建築士の受験資格、土木・造園・測量系学科では国家資格の測量士補が卒業と同時に無試験取得できる学科などプロフェッショナルになるためのカリキュラムを整えており、また、資格取得のバックアップ体制も整えています。就職指導においては、全国に広がった卒業生とのネットワークを活かしてクラス担任と就職指導の担当職員が連携を取り、学生の希望職種に就職できるようにしっかりとサポートしています。毎年ほとんどの学生が自分の目指す職業に内定を決めています。『中央工学校＝就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。

	学校名	所在地	課程	平成24年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
6	東京エアトラベル・ ホテル専門学校	小金井市	昼	エアライン科(100) 英語キャリア科(80) ホテル科(80) ブライダル科(40) 観光旅行科(40) 鉄道交通科(40) 研究科(40)	昭和48年の設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、エアライン、ホテル、観光、ブライダル、英語の各分野に優秀な人材を送り出している。仕事に直結した豊富な実習やインターンシップ実習での現場を体験、ことば遣いや礼儀作法などのホスピタリティ教育、英語の他にも近年需要が高まっている中国語や韓国語などの語学教育など充実したカリキュラムで、社会で通用する人材を育成。こうした教育内容が評価され、航空会社の採用指定校にも選ばれている。
7	東京工学院 専門学校	小金井市	昼	コンサート・イベント科(40) 音響芸術科(20) ミュージック科(30) 放送芸術科(30) 演劇・声優科(40) ゲームクリエイター科(40) CGクリエイター科(40) Webクリエイター科(40) マンガ科(40) アニメーション科(30) グラフィックデザイン科(40) スポーツビジネス科(40) 幼児教育学科(40) こども学科(40) 教育専攻科(40) 公務員科(40) 建築学科(40) インテリアデザイン科(30) 情報システム科(40) 情報処理科(40) 電気電子学科(40) 航空学科(40) 法律情報科(30) 経営情報科(40) メディア文学科(20) 大学併修学科(40) 研究科(40)	昭和34年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。オックスフォード大学をはじめとする海外大学との提携や一流企業の現場でのインターンシップ体験、各業界で活躍している講師陣による徹底指導など、時代のニーズに応える高度な専門性や広い視野を持つ人材を50年以上社会に送りだしている。 27学科44コースもの多彩の専門分野から構成される総合学院であり、各専門分野の知識や技能を修得するのみならず、他の専門分野との学科間、コース間を越えた学びも可能。それぞれの専門分野が協力して成り立っている社会という形を学校内に再現することで、学生たちにとっては貴重な経験となっている。一つのキャンパスで様々な専門分野を学ぶ学生同士が交流できることで、新たな価値観に触れ視野を広げ、コミュニケーション能力を鍛えられるのも特長の一つ。また、4年制大学通信教育課程と連携したWスクールシステムにより、「専門士」と「学士」の両方の学位の取得も可能。ビジネスの最先端で求められる力を身につけたスペシャリストの育成を目指している。
8	専門学校東京工科 自動車大学校 (新校名) 東京工科専門学校 (旧校名)	中野区	昼	1級自動車整備学科 (4年・40名) 自動車整備学科 (2年・160名) エンジンメンテナンス科 (2年・80名)	平成22年4月より専門学校東京工科自動車大学校と校名を変更し、自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラム改革を展開し、安心できる授業システムによる解る・出来る取る授業運営をしております。
9	東京誠心調理師 専門学校	大田区	専門 高等	調理師科2年制(120) 調理師科1年制(120) [調理技術・洋菓子製パン・福祉調理] 調理師科夜間部 2年制(40)	1970年創立。2007年8月京急蒲田駅西口すぐそばにHACCPやISO22000に適用した、全く新しいコンセプトの基、新校舎が完成。 調理師科2年制には、学内レストランにて、一般の方々を対象に専門学校生レストランを運営。メニュー開発から運営までをトータルに学ぶことができる。 その他にも地元下丸子の農園と提携し、野菜(食材)の提供だけでなく学生が体感できる農場実習も実施しています。 この他、毎年2月に開催されている全国調理技術コンクールでは、数々の大臣賞を受賞しており、技術教育についてもその質の高さを誇っています。 2012年からは、夜間部にも週3日制の2年制を開校予定。社会人や大学生の方々にも入学し易い学科を設立。
10	東京デザインテクノロジーセンター 専門学校 (旧：東京テクノロジーコミュニケーション専門学校)	新宿区	昼	スーパーIT科(80) IT・デザイン科(80) ブリッジIT翻訳・通訳科(80)	本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。 学科は、ITを核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。
11	東京美容 専門学校	新宿区	昼 通	ヘアスタイリスト科(専門課程)(80) エステティック科(専門課程)(20) トータルビューティー科(専門課程)(40) メイク・ネイルアーティスト科(一般課程)(40) 美容通信科(通信)(80) エステティック通信講座(16)	本校は1947年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に60年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約80店舗のヘア&ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。 また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。
12	東京ホテル ビジネス 専門学校	豊島区	昼	総合サービスビジネス科(80名) ホテル・レストランコース、ブライダルプロデュースコース	接客&ホテル業界に的を絞った専門教育を展開。客室、ドア・ベルパーソン、フロントを中心に全般的ホテルビジネスを学ぶホテリエコース、料飲部門(料理・飲料)のサービススタッフを育成するレストラン&バーコース、ホテルの宴会・婚礼ビジネスを総合的に学び、ブライダルのコーディネーターの仕事とビューティーに関する知識・技術の学べるブライダルプロデュースコースがある。

	学校名	所在地	課程	平成 24 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
13	日本電子 専門学校	新宿区	昼	コンピュータグラフィックス科 (160)、 高度コンピュータグラフィックス科 (40)、 CG 映像製作科 (40)、ゲーム制作科 (150)、 ゲーム制作研究科 (120)、 ゲームCG デザイン科 (80)、 ゲーム企画科 (80)、アニメーション科 (80)、 アニメーション研究科 (40)、 Web デザイン科 (80)、 グラフィックデザイン科 (80)、 コンピュータミュージック科 (40)、 ケータイ・アプリケーション科 (40)、 Web システム科 (40)、 組込みシステム科 (80)、 コンピュータネットワーク科 (80) ネットワークセキュリティ科 (80) 情報処理科 (120) 情報システム開発科 (80) 高度情報処理科 (80)、電子応用工学科 (40) 電気工学科 (50) 電気工事技術科 (50)	「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する」という建学の精神により、現在は「最先端の技術をいち早く実学として取り込み、個性を生かせる教育環境の中で、国際社会に貢献することのできる感性豊かなスペシャリストを育成する」を教育理念として掲げ、独自の教育システムを構築している。
			夜	コンピュータグラフィックス科 (40)、キャラクターデザイン科 (40)、ゲーム制作科 (40)、ネットワークセキュリティ科 (40)、情報処理科 (40)、電気工学科 (50)、電気工事士科 (50)	
14	二葉栄養 専門学校	武蔵野市	昼	管理栄養士学科 (40) 栄養士科 (120) 調理師科 (136)	二葉栄養専門学校は開校以来数多くの調理師、栄養士の養成をしてまいりました。平成 14 年より管理栄養士学科を東日本地区にて第一番目に設置し、平成 20 年には第 3 期生の 87.8%を合格者として輩出いたしました。栄養士科においては 2 つのコースを 2 年次に選択し、希望の就職先に合わせた教育により就職希望者に対する就職率 100%を実現しています。又、調理師科においては基礎衛生知識と食の安全を中心に学習、調理技術実習は 390 時間設定し、知識と技術をバランスよく学び即戦力に対応できる人材を育成しています。
15	ホスピタリティ ツウリズム 専門学校	中野区	昼	旅行学科 (100) ホスピタリティサービス学科 (150) 航空・運輸学科 (130)	当校は旅行・観光業界から「プロを養成してほしい」という要請を受けて設立された「観光業界立」の学校です。観光・サービス産業で最も大切な「ホスピタリティマインド」＝「おもてなしの心・相手を思いやる心」を持った業界人を育成するため、「Smile for you」を合言葉に、学生・先生すべてが笑顔の絶えない学校を目指しています。各学科とも企業実習を取り入れ、実践で役立つ資格取得や多くの体験型授業（イベント）にも取り組んでいます。また、無料で参加できる短期留学制度（希望者 30 名）や 1 年間のサンドイッチ留学など国際感覚を養う独自の制度も特徴です。
			夜	旅行学科 (60) ホスピタリティサービス学科 (120) 航空・運輸学科 (100)	
16	マリールイズ 美容専門学校	新宿区	昼	美容本科 (40) ・ブライダルアーティストコース ・国際スタイリストコース	本校は、前身であるマリールイズ美容講習所の開設が 1913 年と美容界でも有数の歴史を誇る美容師養成施設であり、創立者マリールイズ女史の言葉である「一に人格、二に技術」をモットーに人材育成に努めております。また、関連企業で明治神宮・明治記念館・目黒雅叙園にある美容室を運営する㈱美容マリールイズの協力のもとに、平成 22 年度より新たにブライダルアーティストコースと国際スタイリストコースを設置し、実践的なカリキュラムをくんでおります。
17	武蔵野東技能 高等専修学校	武蔵野市	昼	総合キャリア学科 (75)	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間の成長を図る。また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視している。

短期大学

1	愛国学園 短期大学	江戸川区	全	家政科： 家政専攻 (50) 食物栄養専攻 (50)	家政専攻では、衣食住の分野を幅広く学び、豊かな教養とともに実践的な生活スキルを持つ自律した社会人を育成します。また、食物栄養専攻では、食と健康に関わる広範囲な学問を学び、人々の健康の維持・増進に役立つ栄養士を育成します。栄養士資格及び中学校教諭 2 種免許状（家庭）を取得できます。
2	嘉悦大学 短期大学部	小平市	全	ビジネスコミュニケーション学科 (150)	本学では、社会で即戦力として活躍するための実践的なビジネス知識・技能を 2 年間で習得します。「医療・福祉」「会計・FP」「販売・営業」「観光・ホテル」「広報・企画」「編入学・留学」など多様な進路に直結した 6 つの育成モデルを用意しています。
3	東京家政大学 短期大学部	板橋区	全	保育科 (200) 栄養科 (180)	本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。

平成23年度会員中学校

公立中学校

	学校数		学校数		学校数		学校数		学校数
千代田区	3	墨田区	12	中野区	12	足立区	37	狛江市	4
中央区	4	品川区	15	杉並区	23	葛飾区	24	東大和市	5
港区	10	目黒区	10	豊島区	8	江戸川区	33	羽村市	3
新宿区	11	大田区	28	北区	12	武蔵野市	6	三宅村	1
文京区	10	世田谷区	30	荒川区	10	府中市	11		
台東区	7	渋谷区	8	練馬区	34	調布市	8		

都立中学校
都立白鷗高等学校附属中学校
都立両国高等学校附属中学校
都立武蔵高等学校附属中学校
都立富士高等学校附属中学校
都立大泉高等学校附属中学校
都立小石川中等教育学校
都立桜修館中等教育学校
都立立川国際中等教育学校
都立南多摩中等教育学校
都立三鷹中等教育学校

私立中学校
愛国中学校
武蔵野東中学校

国立大学法人
筑波大学附属中学校

東京都産業教育振興会会則

第1章 総 則

第1条 この会は、東京都産業教育振興会という事務所を東京都教育庁内におく。

第2条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第2章 会 員

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

第3章 役員及び職員

第5条 この会に会長1名、副会長3名、理事25名以上35名以内及び監事3名をおく。

第6条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第8条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち1名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある監事をもって充てる。
3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、20年度、22年度

本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調して、東京都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善を図り、産業経済の発展に寄与する」等を目的としています。

産業教育に関心のある企業や個人で、入会希望の方または新会員をご紹介いただける方は、本会事務局までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

(問合せ先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2 - 8 - 1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課

東京都産業教育振興会 事務局

T E L 03-5320-6729 F A X 03-5388-1727

編 集 後 記

特集テーマは、昨年度に引き続き「魅力ある産業教育を目指して」とし、各学校・各学科での実践的な教育活動や特色ある取り組みについて、執筆していただきました。また産業界から2社、執筆をお願いしました。併せて本誌へのご協力を感謝申し上げます。

産業界と学校、教育行政が連携して、産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要なことですが、昨今の社会経済状況や普通科志向は、産業教育にとって厳しい現実となっております。従って更なる産業教育の向上・改善・深化に向け、教育力を高める必要があり、本誌が幾許かの参考になればと願っております。今後も、本会へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。(山)

ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

東京の産業教育 第49号

発 行 平成24年(2012年)3月1日 発行
東京都産業教育振興会
〒163-8001
東京都西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課
T E L 03(5320)6729 F A X 03(5388)1727

印 刷 昭和印刷株式会社

再生紙を使用しています

高校生の面接試験徹底対策シリーズ 3ステップ 高校生の就職面接対策

高校生必見の就職面接対策ビデオ
面接のポイントを分かりやすく解説
映像とワークシートで面接対策万全！

第1巻 ①自己PRする作文の書き方

第2巻 ②面接の基本マナー

第3巻 ③自己プレゼンテーション

DVD全3巻(各約20分) 定価各18,900円(税込)

制作：(株)映学社



高校生の新・就職面接の攻略

パーソナル・プレゼンテーション能力を身につける

就職面接のしくみ・ねらいを理解するために！
面接時のマナー・言葉づかい・態度を身につけるために！
十分な準備をして、自信を持って面接に臨むために！
実践的な面接対策ビデオ教材(約25分)

VHS版/DVD版 定価各18,900円(税込)

制作：(株)映学社

文部科学省
選定



キャリア教育用DVD教材 新・高校生のキャリアプラン

自分に合ったキャリアプランとは？
高校生必見のキャリア教育映像教材！

第1巻 自己分析と適性 自分を知ろう

第2巻 インターンシップ 自分を再発見しよう

第3巻 キャリアプランの立案 自分の将来設計を考えよう

DVD全3巻(各約20分) 定価各18,900円(税込)

制作：(株)映学社



埋め込み式ソーラーライト サンリンク LP-1 シリーズ



製品の概要

ソーラーパネルを内蔵しているため昼間に太陽光を受け、電気二重層コンデンサーで蓄電し、夜間にその電力を利用してLEDを発光させます。

5時間で満充電され、20時間超の発光が可能ですので、悪天候時の充電不足による発光障害を解消しました。発光色は青、緑、白、赤、橙の5色をご用意しております。



★ダブルレンズ構造

ダブルレンズ(光を水平方向及び拡散させるレンズ)の採用により、上方向及び360度方向に照射可能です。そのため、真上から見ることもでき、かつ遠くからの視認も可能です。

★二重構造方式

ケース本体は二重構造で形成されており、二重構造で形成されており、外ケースにより、コンクリートの外部収縮による本体のケース破損を防ぎます。

全天候「サンリンク LP-1」は、蓄電式発光システムの採用により、CO₂の排出がなく、地球環境保護に優れた製品です。電源不要なので、配線の必要性がなく電池交換の必要もない等のメリットがあり、経済的にメンテナンスフリーを実現しております。

事業者名	株式会社イーナ
代表者名	唐沢 真理
所在地	東京都千代田区神田須田町1-7 神田ミハマビル6階
電話番号/FAX番号	03-3252-1133/03-3252-1128
主要製品	高輝度蓄光式誘導標識、LEDを用いた特殊照明製品
事業内容	「環境」と「安全」を原点に、独創的な技術開発及び製品開発を行ない、「経済発展」と「地球環境」に貢献していくための事業を展開。

印刷とともに80年

学会誌、社内報、教科書・教材、研究会報、
講演会録、自伝、句会録・歌集、等

80年にわたり培ってきた信用が当社の
財産です。安心してお問合せ下さい。



株會
式社

小薬印刷所

〒104-0042 東京都中央区入船2-7-4

TEL (03) 3551-1222 FAX (03) 3551-3447

E-Mail kogusuri@blue.ocn.ne.jp

100年を超える伝統と実績 力強く生き抜くプロフェッショナルを育成



中央工学校

建築・木造・設備・インテリア・家具・イベント設営・舞台美術・土木・測量・造園・機械・CAD・スポーツ



《Information News》

平成23年 一級建築士試験『設計製図の試験』合格者

	学 校 名	合格者数
1	日本大学	267人
2	東京理科大学	129人
3	芝浦工業大学	100人
4	近畿大学	83人
5	工学院大学	80人
5	明治大学	80人
7	早稲田大学	78人
8	中央工学校	66人
9	神戸大学	59人
9	法政大学	59人

	学 校 名	合格者数
11	名城大学	55人
12	東海大学	54人
13	千葉大学	53人
14	関西大学	51人
15	名古屋工業大学	48人
16	横浜国立大学	44人
16	大阪大学	44人
18	大阪工業大学	43人
18	東北大学	43人
18	武蔵工業大学（現：東京都市大学）	43人

平成23年12月15日、財団法人建築技術教育普及センターが、「平成23年一級建築士試験『設計製図の試験』学校別（大学・専門学校含む）合格者数一覧（合格者10名以上）」を公開しました。

中央工学校は全体ランキング第8位（66名合格）専門学校ではトップの合格者数でした。

中央工学校



専門学校コンソーシアム Tokyo 加盟校
the consortium of colleges in Tokyo

■〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目 26-17
■TEL : 03-3905-1511（入学相談室） ☎ 0120-79-1511
■PC : <http://chuoko.ac.jp>（携帯からもアクセス可）
■Mail : info@chuoko.ac.jp

イベント情報は
こちらから！↓



得意分野、専門分野のある
美容のスペシャリストをめざして



マリールイズのインターンシップ

マリールイズ美容専門学校のOB、OGの皆さまの協力をえて、学校に在籍しながら、ヘアサロンやブライダルサロンで経験を積むことができます。実践経験を積むだけでなく、インターンシップ後にディスカッションを行い各個人の疑問点や反省点を全員でシェアし、次回のインターンシップに繋げていきます。



少人数制だから実現するマンツーマンの対応

マリールイズ美容専門学校は、一学年が40人という少人数制。学生を細かにケアできる体勢のため、技術や専門知識の習得もスムーズ。すべての教職員と学生が高い信頼関係を築きながら学校生活を送ることで、どんなことでも相談しやすい環境となり、技術面だけでなく、メンタル面のサポートも行き届いています。



学校法人 マリールイズ学園 厚生労働大臣指定

マリールイズ 美容専門学校

〒160-0018 東京都新宿区須賀町3番地
〈お問合せ〉

TEL: 03-3357-8015

FAX: 03-3341-5105 <http://www.marie-louise.ac.jp>

ケータイ
サイトは
こちらへ
アクセス!



〔調理師科 2 年制〕

フランス料理専攻コース
イタリア料理専攻コース
日本料理専攻コース
中国料理専攻コース

〔調理師科 1 年制〕

調理技術コース
洋菓子製パンコース
福祉調理コース
※入学後にコースを選択

〔調理師科夜間部 2 年制〕

国際フード製菓専門学校 ◆

〔製菓製パン科 2 年制〕

洋菓子専攻コース
和菓子専攻コース
パン専攻コース

〔製菓製パン科 1 年制〕

〔調理師科 1 年制〕

〔製菓製パン科夜間部 2 年制〕



学校法人 誠心学園

東京誠心調理師専門学校
国際フード製菓専門学校

〒144-0052
〒220-0003

東京都大田区蒲田3-21-4
神奈川県横浜市西区楠町14-4

Tel.03-3734-4411
Tel.045-313-4411

食糧学院では、担任・進路指導課・キャリアセンターの三者で就職をサポートします。また、就職に必要な実践力を実習をくり返し習得させ、資格の取得をバックアップします。しつけや礼節を体得することも職業人として大切なことと考え、教育に組み込んでいる専門学校です。

東京栄養食糧専門学校

「食と栄養と健康」のスペシャリストの育成校



渋谷からひと駅の閑静な街

管理栄養士科(昼間部4年制)

栄養士科(昼間部2年制)

- スポーツ・ウェルネスコース
- 医療・福祉コース
- フードビジネスコース
- 子ども食育コース

製菓・カフェ経営科(昼間部2年制)

管理栄養士科(募集定員40名) → 管理栄養士国家試験合格を全力サポート(対策講座・eラーニング)

取得
できる
資格

栄養士
管理栄養士国家試験受験資格

目指す
資格

管理栄養士 ホームヘルパー2級
栄養教諭1種 フードアナリスト4級

栄養士科(募集定員260名) → 多様化する社会に対応できる専門選択コースの導入

取得
できる
資格

栄養士

目指す
資格

管理栄養士 フードアナリスト4級
栄養教諭2種 ホームヘルパー2級

製菓・カフェ経営科(募集定員40名) → ヨーロッパの伝統菓子から話題のスイーツやパンを習得

取得
できる
資格

フードコーディネーター3級

目指す
資格

製菓衛生師 3級レストランサービス技能士
ホームヘルパー2級 フードアナリスト4級

東京調理師専門学校

「食と美と技」のスペシャリストの育成校



新宿駅徒歩5分の好立地

高度調理技術科(昼間部2年制)

- 西洋料理 デセールコース
- 日本料理 和菓子コース
- 調理 パティシエコース

調理技術科(昼間部1年制)

- スタンダードコース ● フレックスコース

調理総合科(夜間部1.5年制)

高度調理技術科(募集定員200名) → 2年次には専門コースに分かれて深く学べる高度学科

調理技術科(募集定員150名) → 西洋・日本・中国料理を総合的に学べるスピード取得コース

調理総合科(募集定員50名) → 働きながらフルボリュームを学べる1年6ヶ月

→ 高度調理技術科

→ 調理技術科/調理総合科

調理師免許	取得できる資格	取得できる資格
食育インストラクター受験資格	取得できる資格	取得できる資格
3級レストランサービス技能士	目指す資格	
製菓衛生師	目指す資格	
専門調理師	目指す資格	
フードアナリスト4級	目指す資格	目指す資格
ふぐ調理師	目指す資格	

東京ホテルビジネス専門学校

「感動と美と歓びを創出する」スペシャリストの育成校



総合ビジネスサービス科(昼間部2年制)

- ホテル・レストランコース
- ブライダルプロデュースコース

ホテル・レストランコース → 都内一流ホテルでの実習や校内のバーやレストランで実践力を磨く

目指す
資格

ホテルビジネス実務検定 ビジネス能力検定 TOEIC 手話技能検定 観光英検
3級レストランサービス技能士 秘書検定 サービス接客検定 きき酒師
ワインエキスパート テーブルコーディネーター フードアナリスト4級

ブライダルプロデュースコース → 料理・ネイル・エステまでブライダル全般を習得し即戦力を目指します

目指す
資格

アシスタントブライダルコーディネーター(ABC)検定 フォーマルスペシャリストブロンズライセンス
3級レストランサービス技能士 色彩検定 TOEIC 観光検定 ビジネス能力検定
ネイル検定 サービス接客検定 秘書検定 フードアナリスト4級

